

【 48-1 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>木田 圭亮</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>薬理学は薬物治療学の基礎であり、臨床薬理学は合理的薬物治療を行うための応用科学分野である。さらに最近では創薬医学という医薬品開発のための学問分野がこれらの中に組み込まれてきた。本来、病気とは生体の生理的・生化学的機能が何らかの原因によって障害された状態である。薬物はその障害された生体機能を回復するために投与される。しかし、薬物は本来、生体にとって異物であるため投与方法を誤ると有害作用が現れてしまう。</p> <p>そこで、本コースではすべての疾患分野で使用される可能性のある薬物について、薬物の生体機能への作用(薬効)、その作用機序(薬理作用)、生体の薬物処理機能(薬物動態学)さらに薬効の有害作用、相互作用等について、実験動物からヒト(臨床研究)に至るまでの研究、分子生物学的研究手法からヒトを対象とした臨床試験等々を教育する。また特に臨床研究を実施する上で必須である倫理的配慮について医療倫理学を教育する。</p> <p>これらの研究・教育により学位(医学)取得に足る学識と研究技法を身につけ、薬物治療に関する医学研究と臨床各科における合理的薬物治療を実施できるようにする。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の薬物動態学的解析研究(動物、ヒトを対象として) 2. 薬物の非臨床(動物)段階での安全性の検討 3. 薬物の吸収・代謝・排泄に係わる酵素・トランスポーターによる薬物動態への影響 4. ヒトの薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子多型と薬物の有効性・安全性の検討 5. 創薬に係わる社会的要因(倫理的・情報伝達等)の検討
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。</p>

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	遺伝薬理学		必修/選択	必修
担当教員	木田 圭亮	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	2単位 (通年)	履修年次	1年	
テーマと目的	遺伝的背景を念頭においた薬物治療を理解する。			
講義計画	薬物動態における遺伝的背景。 薬物治療の効果における遺伝的背景			
達成目標	遺伝的背景を考慮した薬物動態を予測できる。 遺伝的背景を考慮した薬物治療効果を予測できる。			
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型 (医薬ジャーナル社) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	個人差・人種差が医療に与える影響、個人差を踏まえた治療法における知識に基づき、研究を立案し遂行する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	遺伝薬理学の歴史 (1)	1	薬物反応の個人差 (1)	
2	遺伝薬理学の歴史 (2)	2	薬物反応の個人差 (2)	
3	薬物代謝酵素の個人差 (1)	3	薬物反応の人種差 (1)	
4	薬物代謝酵素の個人差 (2)	4	薬物反応の人種差 (2)	
5	薬物代謝酵素の個人差 (3)	5	テーラーメイド医療の基本 (1)	
6	薬物代謝酵素の人種差 (1)	6	テーラーメイド医療の基本 (2)	
7	薬物代謝酵素の人種差 (2)	7	テーラーメイド医療の基本 (3)	
8	薬物代謝酵素の人種差 (3)	8	テーラーメイド医療の臨床応用 (1)	
9	トランスポーターの個人差 (1)	9	テーラーメイド医療の臨床応用 (2)	
10	トランスポーターの個人差 (2)	10	テーラーメイド医療の臨床応用 (3)	
11	トランスポーターの個人差 (3)	11	テーラーメイド医療の臨床応用 (4)	
12	トランスポーターの人種差 (1)	12	テーラーメイド医療の展開 (1)	
13	トランスポーターの人種差 (2)	13	テーラーメイド医療の展開 (2)	
14	トランスポーターの人種差 (3)	14	テーラーメイド医療の展開 (3)	
15	前期総合討論と発表	15	後期総合討論と発表	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	医療倫理学		必修/選択	必修
担当教員	木田 圭亮	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	2単位 (通年)	履修年次	1年	
テーマと目的	医療倫理を身につける。			
講義計画	医療倫理の歴史 医療における倫理			
達成目標	臨床研究における倫理的配慮を理解する。 医療における倫理的配慮を理解する。			
教科書・参考書	臨床薬理学 (医学書院)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	医療の倫理を熟知し、自立して研究を遂行し、論文を作成する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	倫理学基礎 (1)	1	インフォームドコンセント (1)	
2	倫理学基礎 (2)	2	インフォームドコンセント (2)	
3	生命・医療倫理学基礎 (1)	3	インフォームドコンセント (3)	
4	生命・医療倫理学基礎 (2)	4	遺伝学・クローニングと倫理 (1)	
5	生命・医療倫理学基礎 (3)	5	遺伝学・クローニングと倫理 (2)	
6	医療倫理の原則と重要概念 (1)	6	生殖医療 (1)	
7	医療倫理の原則と重要概念 (2)	7	生殖医療 (2)	
8	医療倫理の原則と重要概念 (3)	8	医療資源の配分 (1)	
9	法の基礎 (1)	9	医療資源の配分 (2)	
10	法の基礎 (2)	10	医学研究と国民の負担 (1)	
11	守秘義務	11	終末期医療における倫理と法	
12	守秘義務と個人情報保護	12	脳死と臓器移植	
13	医療従事者・患者関係	13	臨床症例の倫理的検討法	
14	ケアの倫理	14	リスクマネジメント	
15	前期総合討論と発表	15	後期総合討論と発表	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	薬物動態学		必修/選択	必修	
担当教員	木田 圭亮	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	3単位 (後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	薬物動態学の基本的考え方を学ぶ				
講義計画	薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)についての基本的事項を学ぶ				
達成目標	1) 吸収(初回通過効果)に係わる要因を説明できる 2) 薬物の血中蛋白結合等の意義を説明できる 3) 薬物代謝酵素、トランスポーターについて概説できる 4) 薬物の腎排泄機能説明できる 5) 薬物血中濃度モニタリングの理論、実践について理解する 6) 薬物相互作用による有害事象について事例を挙げて説明できる				
教科書・参考書	臨床薬理学 (医学書院)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義内容での発表、レポートにより総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	薬物動態学の知識は、医師を指導する臨床薬理医として基本的かつ必須の知識であり、それを基礎に研究を立案し、論文を作成する能力を備える。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1-3	薬物動態学とは	
2			4-6	臨床的に重要な薬物動態の知識 (1)	
3			7-9	臨床的に重要な薬物動態の知識 (2)	
4			10-12	薬物の吸収 (1)	
5			13-15	薬物の吸収 (2)	
6			16-18	薬物の生体内分布 (1)	
7			19-21	薬物の生体内分布 (2)	
8			22-24	薬物の代謝 (1)	
9			25-27	薬物の代謝 (2)	
10			28-30	薬物の排泄 (1)	
11			31-32	薬物の排泄 (2)	
12			33-36	薬物血中濃度モニタリング (1)	
13			37-39	薬物血中濃度モニタリング (2)	
14			40-42	薬物相互作用 (1)	
15			43-45	薬物相互作用 (2)	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	循環薬理学		必修/選択	選択	
担当教員	木田 圭亮	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位 (前期)	履修年次	1年		
テーマと目的	循環器疾患とその治療における薬物治療学を身につける				
講義計画	循環器疾患の薬物治療の影響				
達成目標	循環器疾患の薬物治療を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (廣川書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義内容での発表、レポートにより総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器学の知識に基づき、自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	循環器疾患の基本 (1)		1		
2	循環器疾患の基本 (2)		2		
3	不整脈		3		
4	不整脈治療		4		
5	狭心症		5		
6	狭心症治療		6		
7	心不全		7		
8	心不全治療		8		
9	高血圧症		9		
10	高血圧症		10		
11	高血圧症治療		11		
12	高血圧症治療		12		
13	動脈硬化		13		
14	動脈硬化性疾患治療		14		
15	総合討論と発表		15		

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	創薬医学		必修/選択	選択
担当教員	木田 圭亮	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	1単位 (前期)	履修年次	1年	
テーマと目的	医薬品の開発に係わる事項を学ぶ			
講義計画	新しい医薬品の開発に係わる法規・規制と治験の適正な実施について学ぶ			
達成目標	1) 医薬品開発の世界的な状況等を説明できる 2) GCP、ヘルシンキ宣言等の法規、規定について理解する 3) 治験実施のために必要な試験計画書、同意説明文、その他の書類等を学ぶ 4) 被験者保護に関する補償、個人情報の保護等を説明できる			
教科書・参考書	臨床薬理学 (医学書院)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義内容での発表、レポートにより総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	創薬の知識に基づき、自立して研究を行い、論文を作成し発表する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1-2	医薬品開発の我が国の状況	1		
3-4	医薬品開発の世界の状況	2		
5-6	医薬品開発の規程(GCP等)	3		
7-8	臨床試験の倫理的規範 (ヘルシンキ宣言、倫理委員会等)	4		
9-10	臨床試験実施計画書の意義	5		
11-12	臨床試験実施計画書の作り方 (1)	6		
13-14	臨床試験実施計画書の作り方 (2)	7		
15-16	症例報告書の意義	8		
17-18	症例報告書の作り方	9		
19-20	同意説明文の意義	10		
21-22	同意説明文の作り方 (1)	11		
23-24	同意説明文の作り方 (2)	12		
25-26	臨床試験の有害事象について	13		
27-28	臨床試験の補償について	14		
29-30	臨床試験と個人情報保護について	15		

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	分子薬理学		必修/選択	選択	
担当教員	木田 圭亮	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位 (前期)	履修年次	1年		
テーマと目的	医学研究の基礎となる分子薬理学の概念を身につける。				
講義計画	細胞分子薬理学 個体分子薬理学				
達成目標	細胞における分子薬理学的概念を理解し、説明できる。 個体における分子薬理学的概念を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (廣川書店) 分子生物学イラストレイテッド (羊土社)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	分子薬理学の知識に基づき、自立して研究を行い、論文を作成し発表する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	分子薬理学の基礎 (1)		1		
2	分子薬理学の基礎 (2)		2		
3	転写		3		
4	転写調節因子		4		
5	翻訳		5		
6	翻訳後修飾		6		
7	シグナル伝達系		7		
8	アポトーシス		8		
9	ゲノミクス解析 (1)		9		
10	ゲノミクス解析 (2)		10		
11	プロテオーム解析 (1)		11		
12	プロテオーム解析 (2)		12		
13	メタボロミクス解析 (1)		13		
14	メタボロミクス解析 (2)		14		
15	総合討論と発表		15		

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	毒性学		必修/選択	選択	
担当教員	太田 有紀	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位 (後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	毒性学の原理と応用を身につける。				
講義計画	毒性学の原理 毒性学の研究応用				
達成目標	毒性学の原理を理解する。 毒性学の研究応用を理解する。				
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (廣川書店) トキシコロジー (朝倉書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	毒性学の知識に基づき、自立して研究を行い、論文を作成し発表する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	毒性学序説	
2			2	毒性物質の体内動態 (1)	
3			3	毒性物質の体内動態 (2)	
4			4	毒性物質の毒性発現 (1)	
5			5	毒性物質の毒性発現 (2)	
6			6	毒性物質の毒性発現 (3)	
7			7	一般毒性・特殊毒性	
8			8	遺伝毒性・生殖発生毒性	
9			9	発癌性	
10			10	器官毒性 (1)	
11			11	器官毒性 (2)	
12			12	環境毒性	
13			13	医薬品の副作用・有害事象 (1)	
14			14	医薬品の副作用・有害事象 (2)	
15			15	生体影響評価	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	実験動物学		必修/選択	選択	
担当教員	木田 圭亮	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位 (後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	実験動物の研究利用とその原理と応用を身につける。				
講義計画	実験動物学の原理 実験動物の研究応用				
達成目標	実験動物学の原理を理解する。 実験動物の研究応用を理解する。				
教科書・参考書	現代実験動物学 (朝倉書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	実験動物学の知識に基づき、自立して研究を行い、論文を作成し発表する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	実験動物学序説	
2			2	実験動物と動物実験	
3			3	動物実験と倫理	
4			4	動物実験と関連法規	
5			5	実験動物の飼育管理	
6			6	実験動物の遺伝管理	
7			7	実験動物の環境・衛生管理	
8			8	実験動物の繁殖	
9			9	実験動物の疾病	
10			10	実験動物の特性	
11			11	比較実験動物学	
12			12	疾患モデル動物	
13			13	遺伝子組換え動物	
14			14	動物実験技術	
15			15	実験動物施設	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	医学統計学		必修/選択	選択	
担当教員	上野 隆彦	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位 (後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	医学研究の科学的統計評価法を身につける				
講義計画	医学研究統計学				
達成目標	基礎的研究で得られた結果を科学的に評価できる。 臨床的研究で得られた結果を科学的に評価できる。				
教科書・参考書	医学的研究のデザイン (木原雅子、木原正博(訳)メディカルサイエンスインターナショナル)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自身の研究に対し科学的に評価する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1			1	医学統計学の基本	
2			2	基本統計量	
3			3	正規母集団	
4			4	独立した2群の差の検定	
5			5	関連のある2群の差の検定	
6			6	独立した多群の差の検定	
7			7	2要因で分類される多群の差の検定 (1)	
8			8	2要因で分類される多群の差の検定 (2)	
9			9	多重比較	
10			10	相関関係	
11			11	回帰分析	
12			12	2X2分割表の検定	
13			13	mXn分割表の検定	
14			14	生存分析	
15			15	総合討論と発表	

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	バイオインフォマティクス学		必修/選択	選択	
担当教員	太田 有紀	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位 (後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	医学研究の立案、実施、結果の解析に必要な情報取得法を身につける。				
講義計画	各種データベースアクセス データベースを利用した研究結果の解析法				
達成目標	各種データベースアクセス法を理解する。 データベースを利用した研究結果の解析法を理解する				
教科書・参考書	ゲノム医科学と基礎からのバイオインフォマティクス (羊土社)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表とレポートによる総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	バイオインフォマティクス学の知識に基づき、自立して研究を行い、論文を作成し発表する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	バイオインフォマティクス学の基本 (1)	
2			2	バイオインフォマティクス学の基本 (2)	
3			3	医学に役立つデータベース (1)	
4			4	医学に役立つデータベース (2)	
5			5	医学に役立つデータベース (3)	
6			6	医学に役立つデータベース (4)	
7			7	インフォマティクス技術とツール (1)	
8			8	インフォマティクス技術とツール (2)	
9			9	実験支援用インフォマティクス (1)	
10			10	実験支援用インフォマティクス (2)	
11			11	インフォマティクスによるゲノム医学 (1)	
12			12	インフォマティクスによるゲノム医学 (2)	
13			13	インフォマティクスと創薬 (1)	
14			14	インフォマティクスと創薬 (2)	
15			15	総合討論と発表	

【 48-2 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>高田 礼子</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>本コースの教育目標は、1)健康に関わる環境要因の定量的把握と管理方法、2)科学的根拠の作成による保健・医療・福祉政策を理解することにある。</p> <p>1)健康に関わる環境要因の定量的把握と管理方法では、産業保健上問題になる有害要因の実測評価をおこない、評価結果に基づく対策の立案および事後評価について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 産業保健上問題になる有害要因の実測評価ができる。 ② 有害要因に関する既存の知識の統合ができる。 ③ 対策の立案ができる。 ④ 対策に対する事後評価ができる。 <p>2)科学的根拠の作成による保健・医療・福祉政策では、集団としての健康課題の把握をおこない、政策(科学的対策)の提言および事後評価について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 集団としての健康課題の把握ができる。 ② 健康課題の優先順位の設定ができる。 ③ 健康課題に関する既存の知識の統合ができる。 ④ 政策(科学的対策)の提言ができる。 ⑤ 政策(科学的対策)に対する事後評価ができる。 <p>教育目標にしたがい、事業所や市町村におけるフィールド調査、疫学的データ解析、システムティックレビュー(メタアナリシス)など、必要な知識とスキルを習得して、学位論文を作成する。</p>
<p>研究項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 産業保健現場(事業所)における健康課題の把握と対策の立案 2. 地域保健現場(市町村)における健康課題の把握と対策の立案 3. アスベストによる健康被害の実態把握 4. リスクアセスメント、リスクマネージメント、リスクコミュニケーション 5. システムティックレビュー(メタアナリシス)
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>必修科目、選択科目ともに、各科目の指示通りに、予習と復習を行い、学習内容の理解を深めること。また各授業内で指示された課題に関する検討および発表準備を行うこと。</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	基本疫学 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	本橋 隆子	担当教員連絡先	内線 3419		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	疫学の基本事項を理解する。				
講義計画	疫学の指標と研究デザインを学習する。				
達成目標	疫学の指標を説明できる。 研究デザインを説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	基本疫学 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	本橋 隆子	担当教員連絡先	内線 3419		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	疫学の研究方法を理解する。				
講義計画	仮説検証のながれを理解し、研究課題にあう研究計画を検討する。				
達成目標	仮説検証のながれを説明できる。 研究課題にあう研究計画を提案できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	分析疫学 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	分析疫学の概要を理解する。				
講義計画	分析疫学の目的と方法を学習する。				
達成目標	分析疫学の目的を説明できる。 分析疫学の方法を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	分析疫学 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	分析疫学の実践を理解する。				
講義計画	分析疫学による仮説検証のながれを理解し、研究課題にあう研究計画を検討する。				
達成目標	分析疫学による仮説検証のながれを説明できる。 研究課題にあう研究計画を提案できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、担当教員とのディスカッションに基づいて、課題に関する検討と発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	知識確認		2		
3	知識確認		3		
4	知識確認		4		
5	演習		5		
6	演習		6		
7	演習		7		
8	演習		8		
9	演習		9		
10	演習		10		
11	演習		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	介入疫学 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	介入疫学の概要を理解する。				
講義計画	介入疫学の目的と方法を学習する。				
達成目標	介入疫学の目的を説明できる。 介入疫学の方法を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	基本知識	
3			3	基本知識	
4			4	基本知識	
5			5	基本知識	
6			6	基本知識	
7			7	応用知識	
8			8	応用知識	
9			9	応用知識	
10			10	応用知識	
11			11	応用知識	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	介入疫学 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	介入疫学の実践を理解する。				
講義計画	介入疫学による仮説検証のながれを理解し、研究課題にあう研究計画を検討する。				
達成目標	介入疫学による仮説検証のながれを説明できる。 研究課題にあう研究計画を提案できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、担当教員とのディスカッションに基づいて、課題に関する検討と発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	知識確認	
3			3	知識確認	
4			4	知識確認	
5			5	演習	
6			6	演習	
7			7	演習	
8			8	演習	
9			9	演習	
10			10	演習	
11			11	演習	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	介入疫学 (3)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	無作為化比較対照試験(RCT)を理解する。				
講義計画	臨床的なテーマを設定して、RCT の研究計画を作成する。				
達成目標	RCT の特徴を説明できる。 RCT の研究計画を提案できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、担当教員とのディスカッションに基づいて、課題に関する検討と発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	知識確認	
3			3	知識確認	
4			4	知識確認	
5			5	演習	
6			6	演習	
7			7	演習	
8			8	演習	
9			9	演習	
10			10	演習	
11			11	演習	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	メタアナリシス (1)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	メタアナリシスの概要を理解する。				
講義計画	メタアナリシスの目的と方法を学習する。				
達成目標	メタアナリシスの目的を説明できる。 メタアナリシスの方法を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	基本知識	
3			3	基本知識	
4			4	基本知識	
5			5	基本知識	
6			6	基本知識	
7			7	応用知識	
8			8	応用知識	
9			9	応用知識	
10			10	応用知識	
11			11	応用知識	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	メタアナリシス (2) 実習		必修/選択	必修	
担当教員	人見 敏明	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	メタアナリシスの実践を理解する。				
講義計画	メタアナリシスによる仮説検証のながれを理解し、研究課題にあう研究計画を検討する。				
達成目標	メタアナリシスによる仮説検証のながれを説明できる。 研究課題にあう研究計画を提案できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、担当教員とのディスカッションに基づいて、課題に関する検討と発表準備を行うこと。2 時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疫学の知識と手法を理解し、科学的データ収集と解析等を行う能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	知識確認		2		
3	知識確認		3		
4	知識確認		4		
5	実習		5		
6	実習		6		
7	実習		7		
8	実習		8		
9	実習		9		
10	実習		10		
11	実習		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	中毒学 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	人見 敏明	担当教員連絡先	内線 3416		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	金属中毒を理解する。				
講義計画	金属中毒の病態と生物学的モニタリングを学習する。				
達成目標	金属中毒の病態を説明できる。 生物学的モニタリングを説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	中毒学に関する知見を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	中毒学 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	人見 敏明	担当教員連絡先	内線 3416		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	有機溶剤中毒を理解する。				
講義計画	有機溶剤中毒の病態と生物学的モニタリングを学習する。				
達成目標	有機溶剤中毒の病態を説明できる。 生物学的モニタリングを説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	中毒学に関する知見を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	中毒学 (3)		必修/選択	必修	
担当教員	人見 敏明	担当教員連絡先	内線 3416		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	化学物質過敏症を理解する。				
講義計画	化学物質過敏症の病態と診断を学習する。				
達成目標	化学物質過敏症の病態を説明できる。 化学物質過敏症の診断を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	中毒学に関する知見を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	基本知識	
3			3	基本知識	
4			4	基本知識	
5			5	基本知識	
6			6	基本知識	
7			7	応用知識	
8			8	応用知識	
9			9	応用知識	
10			10	応用知識	
11			11	応用知識	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	中毒学 (4)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	アスベストによる健康被害を理解する。				
講義計画	アスベストによる健康被害の病態と診断を学習する。				
達成目標	アスベストによる健康被害の病態を説明できる。 アスベストによる健康被害の診断を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	中毒学に関する知見を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	基本知識	
3			3	基本知識	
4			4	基本知識	
5			5	基本知識	
6			6	基本知識	
7			7	応用知識	
8			8	応用知識	
9			9	応用知識	
10			10	応用知識	
11			11	応用知識	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	産業医学 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	人見 敏明	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	産業医の職務を理解する。				
講義計画	産業医の役割と職場巡視のポイントを学習する。				
達成目標	産業医の役割を説明できる。 職場巡視のポイントを説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	健康課題の把握と対策の立案に必要な知識と手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	産業医学 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	産業保健活動を理解する。				
講義計画	産業保健現場における健康課題の把握と対策の立案を学習する。				
達成目標	産業保健現場における健康課題の把握を説明できる。 対策の立案を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	健康課題の把握と対策の立案に必要な知識と手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	政策科学 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	本橋 隆子	担当教員連絡先	内線 3419		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	政策科学の概要を理解する。				
講義計画	集団としての健康課題の把握と優先順位の決定を学習する。				
達成目標	集団としての健康課題の把握を説明できる。 健康課題の優先順位の決定を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	健康課題の把握と対策の立案に必要な知識と手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	基本知識	
3			3	基本知識	
4			4	基本知識	
5			5	基本知識	
6			6	基本知識	
7			7	応用知識	
8			8	応用知識	
9			9	応用知識	
10			10	応用知識	
11			11	応用知識	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	政策科学 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	本橋 隆子	担当教員連絡先	内線 3419		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	政策科学の実践を理解する。				
講義計画	政策科学における PDCA サイクルを理解し、科学的対策を検討する。				
達成目標	政策科学における PDCA サイクルを説明できる。 科学的対策を提言できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、担当教員とのディスカッションに基づいて、課題に関する検討と発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	健康課題の把握と対策の立案に必要な知識と手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	知識確認	
3			3	知識確認	
4			4	知識確認	
5			5	演習	
6			6	演習	
7			7	演習	
8			8	演習	
9			9	演習	
10			10	演習	
11			11	演習	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	政策科学 (3)		必修/選択	必修	
担当教員	本橋 隆子	担当教員連絡先	内線 3419		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	地域保健現場における政策科学の応用を理解する。				
講義計画	地域の優先的健康課題の抽出と政策(科学的対策)の提言を学習する。				
達成目標	地域の優先的健康課題の抽出を説明できる。 政策(科学的対策)の提言を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、担当教員とのディスカッションに基づいて、課題に関する検討と発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	健康課題の把握と対策の立案に必要な知識と手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	知識確認	
3			3	知識確認	
4			4	知識確認	
5			5	演習	
6			6	演習	
7			7	演習	
8			8	演習	
9			9	演習	
10			10	演習	
11			11	演習	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (19)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	環境リスク (1)		必修/選択	必修	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	環境リスクのリスクアセスメントを理解する。				
講義計画	リスクアセスメントの目的と方法を学習する。				
達成目標	リスクアセスメントの目的を説明できる。 リスクアセスメントの方法を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	環境リスクの評価・対策手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

2026 年度講義シラバス (20)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	環境リスク (2)		必修/選択	必修	
担当教員	奥田 裕子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	環境リスクのリスクマネージメントを理解する。				
講義計画	リスクマネージメントの目的と方法を学習する。				
達成目標	リスクマネージメントの目的を説明できる。 リスクマネージメントの方法を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	環境リスクの評価・対策手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	基本知識	
3			3	基本知識	
4			4	基本知識	
5			5	基本知識	
6			6	基本知識	
7			7	応用知識	
8			8	応用知識	
9			9	応用知識	
10			10	応用知識	
11			11	応用知識	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (21)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	環境リスク (3)		必修/選択	必修	
担当教員	奥田 裕子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	環境リスクのリスクコミュニケーションを理解する。				
講義計画	リスクコミュニケーションの目的と方法を学習する。				
達成目標	リスクコミュニケーションの目的を説明できる。 リスクコミュニケーションの方法を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	環境リスクの評価・対策手法を理解し、自身の研究を遂行、論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	イントロダクション	
2			2	基本知識	
3			3	基本知識	
4			4	基本知識	
5			5	基本知識	
6			6	基本知識	
7			7	応用知識	
8			8	応用知識	
9			9	応用知識	
10			10	応用知識	
11			11	応用知識	
12			12	発表	
13			13	発表	
14			14	発表	
15			15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (22)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	医療の Total Quality Management		必修/選択	選択	
担当教員	本橋 隆子	担当教員連絡先	内線 3419		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	Total Quality Management (TQM) の手法のひとつである診療情報を活用した医療評価や改善手法を習得する。				
講義計画	TQM 推進のための診療情報の利活用や診療情報の研究への利活用を講義する。				
達成目標	TQM や診療情報について説明できる。 診療情報を利活用して、医療の評価や研究ができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	医療(診療)情報の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	医療保険論 1		1	診療報酬	
2	医療保険論 2		2	DPC 診断群分類包括評価	
3	介護保険論 1		3	診療情報管理の基礎	
4	介護保険論 2		4	DPC データと診療情報分析手法の基礎	
5	医療経営論 1		5	医療の質指標(QI/CI) 1	
6	医療経営論 2		6	医療の質指標(QI/CI) 2	
7	医療機能評価 1		7	クリニカルパス分析 1	
8	医療機能評価 2		8	クリニカルパス分析 2	
9	患者満足度・職員満足度評価 1		9	地域医療分析 1	
10	患者満足度・職員満足度評価 2		10	地域医療分析 2	
11	医療の質の評価 1		11	診療ガイドライン評価 1	
12	医療の質の評価 2		12	診療ガイドライン評価 1	
13	医療の質の改善 1		13	DPC データや診療情報を用いた研究 1	
14	医療の質の改善 2		14	DPC データや診療情報を用いた研究 2	
15	医療の質の改善 3		15	DPC データや診療情報を用いた研究 3	

2026 年度講義シラバス (23)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	遺伝性疾患 I		必修/選択	選択	
担当教員	人見 敏明	担当教員連絡先	内線 3416		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	遺伝性疾患の基礎から遺伝子解析技術、その応用について学ぶ。				
講義計画	遺伝性疾患の基本的なメカニズムを理解し、最新の研究手法について、機能解析、遺伝子編集、遺伝子治療等について講義する。				
達成目標	遺伝性疾患の基礎知識と原因・関連遺伝子の機能解析技術について説明できる。 遺伝子編集や遺伝子治療の最新技術について説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	遺伝性疾患の基礎と解析技術、遺伝子治療を理解し、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1	機能解析の基礎	
2	遺伝性疾患とは 1		2	原因遺伝子・関連遺伝子の機能解析 1	
3	遺伝性疾患とは 2		3	原因遺伝子・関連遺伝子の機能解析 2	
4	遺伝学の基礎とヒトゲノムプロジェクト		4	遺伝子編集技術 1	
5	遺伝子変異の検出技術 1		5	遺伝子編集技術 2	
6	遺伝子変異の検出技術 2		6	iPS 細胞を用いた機能解析	
7	ゲノムワイド関連解析(GWAS) 1		7	ES 細胞を用いた機能解析	
8	ゲノムワイド関連解析(GWAS) 2		8	遺伝子検査 1	
9	遺伝子クローニングと連鎖解析 1		9	遺伝子検査 2	
10	遺伝子クローニングと連鎖解析 2		10	遺伝子治療 1	
11	エピジェネティクスと疾患 1		11	遺伝子治療 2	
12	エピジェネティクスと疾患 2		12	疾患予防のためのライフスタイル 1	
13	次世代シーケンシング(NGS) 1		13	疾患予防のためのライフスタイル 2	
14	次世代シーケンシング(NGS) 2		14	発表	
15	中間発表		15	まとめ	

2026 年度講義シラバス (24)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	遺伝性疾患 II		必修/選択	選択	
担当教員	奥田 裕子	担当教員連絡先	内線 3424		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	遺伝性疾患の発症メカニズムと環境要因の関わりについて学ぶ。				
講義計画	遺伝性疾患の発症が環境要因に影響を受けることを理解し、その科学的因果関係について講義する。				
達成目標	遺伝性疾患の発症メカニズムを説明できる。 環境要因が遺伝性疾患に及ぼす影響を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	遺伝性疾患の発症メカニズムと環境要因との関わりを理解し、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1	遺伝子解析の基礎	
2	単一遺伝子疾患		2	データベースを用いた遺伝子解析 1	
3	多因子遺伝性疾患		3	データベースを用いた遺伝子解析 2	
4	ゲノム解析の基礎		4	データベースを用いた遺伝子解析 3	
5	原因遺伝子の探求 1		5	病態機能解析の基礎 1	
6	原因遺伝子の探求 2		6	病態機能解析の基礎 2	
7	病態メカニズムの解明 1		7	モデル生物の機能解析評価 1	
8	病態メカニズムの解明 2		8	モデル生物の機能解析評価 2	
9	病態メカニズムの解明 3		9	環境要因による病態変化の評価法 1	
10	環境要因とは 1		10	環境要因による病態変化の評価法 2	
11	環境要因とは 2		11	遺伝性疾患と医療 1	
12	遺伝性疾患と環境要因 1		12	遺伝性疾患と医療 2	
13	遺伝性疾患と環境要因 2		13	発表	
14	遺伝性疾患と環境要因 3		14	発表	
15	遺伝性疾患と環境要因 4		15	まとめ	

【 48-3 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>遊道 和雄</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>難治性疾患病態制御学とは、従来の治療法に著しい抵抗性を示し原因が不明である一連の疾患群を研究する学問を指す。難治性疾患病態制御学は他大学でも例を見ない研究分野・領域であるが、本学附属研究所の専任教員を中心に一連の難治疾患を対象として、その病因・治療体系の確立を目指してこれまで複数の大型の研究プロジェクトを設定し、多くの成果を内外に問いかけてきた。そして、これまでの実績に基づいて一連の難治疾患を学問体系として集大成し、病因究明のための遺伝子解析、疾患制御のための分子レベルでの創薬・再生医療研究、さらに発症の外的要因を解明する為の分子疫学といった分野の研究体制を確立してきた。</p> <p>さらに、生命現象を意識した複雑系の研究の中で、特に『複雑適応系』という最適化の方向や『自己組織化』の延長として生命を理解する流れも異なる視点の創造において非常に重要である。すなわち、分子生物学的バイオインフォマティクス一辺倒な研究ではなく、生命を物理現象から生じてきたものとして理解する、すなわち不確定に変化するダイナミクスの中から理論的な規則が生じることを研究する複雑系生命研究的視点も重要である。このような方向での難病疾患へのアプローチは、論理機械的側面を持つ生物学と併せて学ぶことで、新しい治療法を見出すことにつながると考えられる。</p> <p>本専攻分野では、この新しい 21 世紀的医科学の基礎を構築するために必要と考えられる難治疾患の病因・病態、遺伝子解析、細胞制御、創薬・新薬の研究開発等に関する基礎的および臨床的研究手法を学ぶとともに、分子生物学から複雑系生命研究に至る種々の思考過程および論理構築法を十分に修得することを目的とする。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 難治性疾患の病因、病態の研究 2. 生体防御学・免疫学 3. 臨床薬理学 4. DDS を中心とした薬物治療学、ナノメディシン 5. 細胞再生治療学 6. 生体応用物理学
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>配布資料の内容を確認し、授業後にレポートを提出すること</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	難病治療における社会活動		必修/選択	必修	
担当教員	遊道和雄	担当教員連絡先	内線 4029		
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	難病治療における社会活動を理解する				
講義計画	難病の認定制度、ネットワーク、療養相談、身体障害者認定、患者会との関わり、災害時対策				
達成目標	① 難病患者の疫学、認定制度の理解 ② 難病患者の支援活動の理解 ③ 難病患者会、災害時対策の理解				
教科書・参考書	リウマチ基本テキスト(第2版)(日本リウマチ財団、2006 年) 社団法人 日本リウマチ友の会 会報「流」				
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間				
成績評価法	出席と講義内の発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	難病治療に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	厚生労働省の指定の難病		1	難病患者の診療の注意点	
2	介護保険と難病		2	難病の診断 (1)	
3	難病の疫学		3	難病の診断 (2)	
4	難病の申請/身体障害者の申請		4	難病患者のケア	
5	市・県との関わり		5	ケースプレゼンテーション (1)	
6	難病支援と友の会		6	ケースプレゼンテーション (2)	
7	講演・療養相談の実際		7	ケースプレゼンテーション (3)	
8	難病のデータベース構築 (1)		8	災害時の対策 (1)	
9	難病のデータベース構築 (2)		9	災害時の対策 (2)	
10	難病のネットワーク作り (1)		10	災害時の対策 (3)	
11	難病のネットワーク作り (2)		11	難病診療の提携	
12	関節リウマチをモデルとした患者支援		12	難病支援の社会的意義 (1)	
13	線維筋痛症をモデルとした患者支援		13	難病支援の社会的意義 (2)	
14	ベーチェット病をモデルとした患者支援		14	これからの難病支援	
15	シェーグレン症候群をモデルとした患者支援		15	難病支援のまとめ	

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	免疫学・生体防御学概論		必修/選択	必修
担当教員	遊道和雄	担当教員連絡先	内線 4029	
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	生体に備わった免疫系のシステムを理解し、難治性疾患との関係について学ぶ			
講義計画	免疫系を構成する各細胞の機能と特徴について詳述し、その解析法を体系的に説明する。各種難治性疾患における免疫反応の関与を概説する。			
達成目標	免疫系を構成する細胞群の特徴と生体反応の分子機構を説明できる。 難治性疾患における免疫反応の重要性とその制御について理解する。			
教科書・参考書	標準免疫学(医学書院) Clinical Immunology (Edited by Rich, Mosby)			
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	免疫学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	免疫システムとは	1	免疫系細胞のシグナル伝達	
2	自然免疫	2	サイトカインとレセプター	
3	獲得免疫	3	免疫記憶	
4	免疫の多様性とその分子基盤	4	アポトーシスとストレス応答	
5	免疫制御系	5	感染免疫	
6	骨髄からの免疫細胞の発生、分化	6	自己免疫反応と疾患	
7	T 細胞の機能	7	移植免疫反応	
8	B 細胞の機能	8	血液幹細胞移植の理論	
9	抗原提示のシステム	9	アレルギーの病態生理	
10	樹状細胞の特徴と機能	10	腫瘍免疫	
11	骨髄からの免疫細胞の発生、分化	11	免疫と加齢	
12	食細胞、NK 細胞	12	粘膜免疫	
13	NKT 細胞	13	生殖免疫	
14	補体の構造と機能	14	免疫制御の方法論	
15	前期のまとめと討論、発表	15	後期のまとめと討論、発表	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	遺伝子・細胞制御学特論		必修/選択	必修
担当教員	唐澤里江	担当教員連絡先	内線 4273	
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	難治性疾患制御のための遺伝子制御法、細胞操作法の理論と実際を学ぶ			
講義計画	分子細胞生物学の体系的・網羅的理解と遺伝子操作、細胞培養の基本を詳述する			
達成目標	難治性疾患における遺伝子・細胞制御、その重要性を理解する 遺伝子・細胞制御法の理解と実践を可能にし、難治性疾患の制御へ応用を図る			
教科書・参考書	分子生物学集中講義中継(井出利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)			
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	分子生物学・生化学的研究手法の概要	1	発現ベクターの構築 (1)	
2	DNA の構造と機能 (1)	2	発現ベクターの構築 (2)	
3	DNA の構造と機能 (2)	3	遺伝子クローニング (1)	
4	RNA の構造と機能 (1)	4	遺伝子クローニング (2)	
5	RNA の構造と機能 (2)	5	遺伝子クローニング (3)	
6	遺伝子発現 (1)	6	遺伝子配列のシーケンス (1)	
7	遺伝子発現 (2)	7	遺伝子配列のシーケンス (2)	
8	DNA の増幅、PCR (1)	8	動物細胞の培養法 (1)	
9	DNA の増幅、PCR (2)	9	動物細胞の培養法 (2)	
10	DNA の増幅、PCR (3)	10	細胞工学、モノクローナル抗体 (1)	
11	核酸ハイブリダイゼーション (1)	11	細胞工学、モノクローナル抗体 (2)	
12	核酸ハイブリダイゼーション (2)	12	発生工学的手法の概要と実際 (1)	
13	遺伝子組み換え実験の理論と実際 (1)	13	発生工学的手法の概要と実際 (2)	
14	遺伝子組み換え実験の理論と実際 (2)	14	機器分析手法の概要と実際	
15	遺伝子組み換え実験の理論と実際 (3)	15	総合討論と発表	

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	関節リウマチの免疫異常概論		必修/選択	必修	
担当教員	遊道和雄	担当教員連絡先	内線 4029		
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	関節リウマチの免疫異常を理解し、滑膜細胞の培養を行う				
講義計画	関節リウマチの免疫学的講義 関節リウマチの滑膜細胞の培養と継代				
達成目標	① 関節リウマチの免疫学的特異性を理解する ② 関節リウマチの滑膜細胞の分離・培養し、さらに継代することにより細胞免疫学の基礎を学ぶ				
教科書・参考書	Kelly's Text book of Rheumatology (7th Edition,2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	関節リウマチにおける自己免疫異常に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	関節リウマチの疫学		1	関節リウマチの滑膜細胞の観察	
2	自己免疫反応		2	細胞培養の基礎 (1)	
3	自己抗体		3	細胞培養の基礎 (2)	
4	炎症のサイトカイン		4	細胞培養の基礎 (3)	
5	疾患遺伝子		5	関節リウマチの滑膜細胞の分離 (1)	
6	蛋白分解酵素		6	関節リウマチの滑膜細胞の分離 (2)	
7	関節の構造 (関節滑膜)		7	関節リウマチの滑膜細胞の分離 (3)	
8	関節の構造 (骨と骨髄)		8	関節リウマチの滑膜細胞の培養 (1)	
9	関節リウマチの病理像 (滑膜組織)		9	関節リウマチの滑膜細胞の培養 (2)	
10	関節リウマチの病理像 (軟骨・骨組織)		10	関節リウマチの滑膜細胞の培養 (3)	
11	関節リウマチの抗サイトカイン療法 (1)		11	関節リウマチの滑膜細胞の継代 (1)	
12	関節リウマチの抗サイトカイン療法 (2)		12	関節リウマチの滑膜細胞の継代 (2)	
13	関節リウマチ滑膜細胞のアポトーシス		13	関節リウマチの滑膜細胞の継代 (3)	
14	関節リウマチ治療の将来の展望		14	関節リウマチの滑膜細胞の凍結保存 (1)	
15	関節リウマチの免疫異常のまとめ		15	関節リウマチの滑膜細胞の凍結保存 (2)	

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	遺伝子・蛋白機能解析学		必修/選択	必修
担当教員	佐藤 工	担当教員連絡先	内線 4029	
単位数	4 単位 (前期 2・後期 2)	履修年次	2 年	
テーマと目的	治療標的分子を同定するため、病態に重要な分子を同定し、その病態発現機構を解析するために、遺伝子や蛋白の解析、操作方法に関する理論と実際を学ぶ			
講義計画	分子細胞生物学的解析、ゲノム解析、プロテオーム解析の原理や操作方法を概説する			
達成目標	分子細胞生物学的解析方法の原理を理解し、操作方法を修得する ゲノム解析、プロテオーム解析の原理を理解する			
教科書・参考書	分子生物学集中講義中継(井出利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)			
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	遺伝子・蛋白機能解析学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	分子生物学的研究手法の概要	1	遺伝子組み換え実験の理論	
2	DNA の構造と機能	2	遺伝子クローニング (1)	
3	RNA の構造と機能	3	遺伝子クローニング (2)	
4	タンパク質の構造と機能	4	制限酵素・修飾酵素の使用法	
5	遺伝子発現調節機構	5	発現ベクターの設計・作製 (1)	
6	DNA 抽出の実際	6	発現ベクターの設計・作製 (2)	
7	核酸の定量	7	レポーターアッセイ法	
8	PCR プライマーの設計方法	8	ChiP アッセイの原理と実際	
9	PCR	9	ウエスタンブロットニング	
10	定量的 PCR	10	免疫組織染色	
11	RNA 抽出の実際	11	ELISA	
12	cDNA の作製	12	マイクロアレイ解析の原理	
13	RT-PCR	13	ゲノム解析の原理	
14	定量的 RT-PCR	14	プロテオミクス解析の原理	
15	遺伝子配列のシーケンス	15	総合討論、発表	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	ナノバイオテクノロジー概論 (I)		必修/選択	必修
担当教員	藤井亮爾	担当教員連絡先	内線 3606	
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	ナノテクノロジーの医療への貢献と新技術創製へ向けた基礎的知識を修得する			
講義計画	ナノテクノロジーの国内外における現状を踏まえ、ナノテクノロジーの医療応用の現状と問題点を詳述する。			
達成目標	1. ナノバイオテクノロジーの最新技術を理解する知識を修得する。 2. ナノテクノロジーの医療応用の現状を理解し、問題点を考察する知識を修得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間			
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	ナノバイオロジーに関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	ナノテクノロジー研究の歴史と現状 (1)	1	ナノ素材(分子)の医療応用 (1)	
2	ナノテクノロジー研究の歴史と現状 (2)	2	ナノ素材(分子)の医療応用 (2)	
3	ナノバイオテクノロジー: 総論	3	生体・組織構築とナノ分子 (1): 構造	
4	ナノバイオテクノロジー: 経済学的視点	4	生体・組織構築とナノ分子 (2): 精製	
5	ナノバイオテクノロジー: 問題点と展望	5	生体・組織構築とナノ分子 (3): 分析	
6	生体高分子化学の基礎 (1)	6	生体・組織構築とナノ分子 (4): 機能	
7	生体高分子化学の基礎 (2)	7	機能ナノ分子の基礎: 構造	
8	生体高分子化学の基礎 (3)	8	機能ナノ分子の基礎: 精製	
9	高分子化学の医療応用 (1)	9	機能ナノ分子の基礎: 分析	
10	高分子化学の医療応用 (2)	10	機能ナノ分子の基礎: 機能	
11	高分子化学の医療応用 (3)	11	機能ナノ分子の医療応用 (1)	
12	高分子化学の新技術と医療展開 (1)	12	機能ナノ分子の医療応用 (2)	
13	高分子化学の新技術と医療展開 (2)	13	機能ナノ分子の医療応用 (3)	
14	前期総合討論と発表 (1)	14	後期総合討論と発表 (1)	
15	前期総合討論と発表 (2)	15	後期総合討論と発表 (2)	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	ナノバイオテクノロジー概論 (II)		必修/選択	必修
担当教員	遊道和雄	担当教員連絡先	内線 4029	
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	ナノバイオテクノロジーの医療応用を研究するための基礎的知識・技術を修得する。			
講義計画	ナノバイオテクノロジーの医療に向けた取り組みを通して、有用性と問題点を詳解する。			
達成目標	ナノバイオテクノロジー研究例の詳解を通じて、最新知見の修得ならびに研究計画立案と遂行の能力を修得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間			
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	ナノバイオテクノロジーの医療応用に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	ナノバイオテクノロジー応用: 皮膚 (序)	1	ナノバイオテクノロジー応用: 軟骨 (序)	
2	皮膚組織と高分子: 構造	2	軟骨組織と高分子: 構造	
3	皮膚組織と高分子: 機能	3	軟骨組織と高分子: 機能	
4	皮膚組織機能維持・再生と高分子	4	軟骨組織機能維持・再生と高分子	
5	皮膚組織の再生医療 (1)	5	軟骨組織の再生医療 (1)	
6	皮膚組織の再生医療 (2)	6	軟骨組織の再生医療 (2)	
7	ナノバイオテクノロジー応用: 骨 (序)	7	ナノバイオテクノロジー応用: 血管 (序)	
8	骨組織と高分子: 構造	8	血管組織と高分子: 構造	
9	骨組織と高分子: 機能	9	血管組織と高分子: 機能	
10	骨組織と高分子: 機能	10	血管組織と高分子: 機能	
11	骨組織機能維持・再生と高分子	11	血管組織機能維持・再生と高分子	
12	骨組織の再生医療 (1)	12	血管組織の再生医療 (1)	
13	骨組織の再生医療 (2)	13	血管組織の再生医療 (2)	
14	前期総合討論と発表 (1)	14	後期総合討論と発表 (1)	
15	前期総合討論と発表 (2)	15	後期総合討論と発表 (2)	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	再生医療概論 - 細胞治療学 -		必修/選択	必修	
担当教員	宮部 千恵	担当教員連絡先	内線 4278		
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	再生医療の歴史的背景および現状を理解し、疾患への応用方法を学ぶ。				
講義計画	細胞培養法、疾患動物作製法、細胞移植法およびそれぞれを用いた解析法を体系的に詳述する。				
達成目標	1. 再生医療で用いられる幹細胞の特徴を理解する。 2. 細胞、疾患モデル動物を使った種々の解析法を理解する。				
教科書・参考書	1. 再生医療のための分子生物学(コロナ社) 2. 再生医療へのブレイクスルー(遺伝子医学 MOOK 株式会社メディカルドウ)				
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間				
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	再生医療学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	胚性幹細胞 (1)		1	病態モデル動物 (1)	
2	胚性幹細胞 (2)		2	病態モデル動物 (2)	
3	体性幹細胞 (1)		3	病態モデル動物 (3)	
4	体性幹細胞 (2)		4	薬物療法 (1)	
5	iPS 細胞 (1)		5	薬物療法 (2)	
6	iPS 細胞 (2)		6	薬物療法 (3)	
7	細胞培養 (1)		7	細胞移植療法 (1)	
8	細胞培養 (2)		8	細胞移植療法 (2)	
9	脂肪細胞への分化誘導		9	細胞移植療法 (3)	
10	軟骨細胞への分化誘導		10	再生医療のためのバイオマテリアル (1)	
11	骨細胞への分化誘導		11	再生医療のためのバイオマテリアル (2)	
12	神経細胞への分化誘導		12	再生医療のためのバイオマテリアル (3)	
13	In vitro 分化誘導と検証 (1)		13	移植細胞生着と分化の検証 (1)	
14	In vitro 分化誘導と検証 (2)		14	移植細胞生着と分化の検証 (2)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	ドラッグデリバリーシステム概論		必修/選択	必修
担当教員	藤井 亮爾	担当教員連絡先	内線 3606	
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	ドラッグデリバリーシステム概念を理解し、疾患治療への最善処方論を学ぶ。			
講義計画	医療におけるドラッグデリバリーシステムの重要性と薬理効果評価法およびその解析法を体系的に詳述する。			
達成目標	1. 薬物療法に生かされているドラッグデリバリーシステム概念を理解する。 2. 細胞、モデル動物を使った薬物治療実験の組み立てと結果の解析法を理解する。			
教科書・参考書	1. DDSの基礎と開発(シーエムシー出版) 2. ドラッグデリバリーシステム DDS 技術の新たな展開とその活用法(株式会社メデイカルドウ)			
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間			
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	ドラッグデリバリーシステム学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	ドラッグデリバリーシステム(DDS) 概論	1	病態モデル動物 (1)	
2	ターゲティングと薬物治療 (1)	2	病態モデル動物 (2)	
3	ターゲティングと薬物治療 (2)	3	病態モデル動物 (3)	
4	徐放性と薬物治療 (1)	4	薬物療法各論 (1)	
5	徐放性と薬物治療 (2)	5	薬物療法各論 (2)	
6	薬物キャリアと細胞内動態 (1)	6	薬物療法各論 (3)	
7	薬物キャリアと細胞内動態 (2)	7	細胞内動態解析法 (1)	
8	薬物キャリアと体内動態 (1)	8	細胞内動態解析法 (2)	
9	薬物キャリアと体内動態 (2)	9	細胞内動態解析法 (3)	
10	生理活性物質の化学修飾 (1)	10	体内動態解析法 (1)	
11	生理活性物質の化学修飾 (2)	11	体内動態解析法 (2)	
12	化学修飾生理活性物質の動態 (1)	12	データ解析法 (1)	
13	化学修飾生理活性物質の動態 (2)	13	データ解析法 (2)	
14	化学修飾生理活性物質の動態 (3)	14	データ解析法 (3)	
15	前期総合討論と発表	15	後期総合討論と発表	

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	遺伝子・細胞制御学 実習		必修/選択	必修	
担当教員	藤井亮爾	担当教員連絡先	内線 3606		
単位数	1単位 (前期・後期)	履修年次	2年		
テーマと目的	分子生物学、細胞工学の基本技術を実習する				
講義計画	基本的な分子細胞生物学的実験を実際に行う				
達成目標	DNA、RNA の抽出や増幅の原理を理解したうえで適切に操作できる 基本的な遺伝子組み換えを自分で計画し実行できる 細胞培養の基礎と解析法を学ぶ				
教科書・参考書	分子生物学集中講義中継(井出利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)				
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	遺伝子・細胞制御学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	哺乳類細胞からの DNA の抽出		1	遺伝子発現の実際 (1)	
2	RNA 抽出の実際 (1)		2	遺伝子発現の実際 (2)	
3	RNA 抽出の実際 (2)		3	細胞株の細胞培養	
4	核酸の定量		4	初代細胞培養	
5	cDNA の作製 (1)		5	細胞分離の原理と実際	
6	cDNA の作製 (2)		6	FACS の原理と操作 (1)	
7	RT-PCR (1)		7	FACS の原理と操作 (2)	
8	RT-PCR (2)		8	ウエスタンブロッティング (1)	
9	様々な PCR (1)		9	ウエスタンブロッティング (2)	
10	様々な PCR (2)		10	ELISA (1)	
11	発現ベクターの設計 (1)		11	ELISA (2)	
12	発現ベクターの設計 (2)		12	免疫組織染色 (1)	
13	発現ベクターの作製 (1)		13	免疫組織染色 (2)	
14	発現ベクターの作製 (2)		14	各種細胞の機能解析	
15	発現ベクターの作製 (3)		15	総合討論と発表	

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	運動器再生・再建治療学概論 (I)		必修/選択	選択
担当教員	遊道和雄	担当教員連絡先	内線 4029	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	運動器疾患の病因に根ざした再生医療の基本を理解し、発展させるための基礎知識を修得する。			
講義計画	運動器疾患の病因・病態を総括し、運動器の再建、再生に向けた治療法を詳解する。			
達成目標	再生医療を主眼に据えた運動器疾患治療の最新知見を修得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	運動器再生・再建治療学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	運動器の特性 (1: 解剖学的見地)	1	骨関節再建・再生医療の実際 (序)	
2	運動器の特性 (2: 組織学的見地)	2	骨組織再生医療の現状 (1)	
3	運動器疾患の病因・病態 (1)	3	骨組織再生医療の現状 (2)	
4	運動器疾患の病因・病態 (2)	4	骨組織再生医療の最新展開	
5	運動器疾患の病因・病態 (3)	5	軟骨組織再生医療の現状 (1)	
6	運動器疾患の病因・病態 (3)	6	軟骨組織再生医療の現状 (2)	
7	運動器疾患治療: 再建術 (1)	7	軟骨組織再生医療の現状 (3)	
8	運動器疾患治療: 再建術 (2)	8	軟骨組織再生医療の最新展開	
9	運動器疾患治療: 再建術 (3)	9	靭帯再建・再生の現状 (1)	
10	運動器疾患治療: 再生医療の現状 (1)	10	靭帯再建・再生の現状 (2)	
11	運動器疾患治療: 再生医療の現状 (2)	11	靭帯再建・再生の最新展開	
12	運動器疾患治療: 再生医療の現状 (3)	12	骨関節組織の複合的再建法	
13	運動器再生医療の問題点	13	骨関節組織の複合的再生医療	
14	前期総合討論と発表 (1)	14	後期総合討論と発表 (1)	
15	前期総合討論と発表 (2)	15	後期総合討論と発表 (2)	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	運動器再生・再建治療学概論(II)		必修/選択	選択
担当教員	遊道和雄	担当教員連絡先	内線 4029	
単位数	2 単位 (前期 1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	運動器疾患に対する再生医療を目的とした、自己組織化技術を用いた複合的組織・臓器再生法を理解する知識を修得する。			
講義計画	自己組織化技術を用いた複合的(階層的)組織・臓器再生の最新知見を詳解する。			
達成目標	1. 自己組織化技術の医療応用を研究するための基礎知識を修得する。 2. 自己組織化技術を用いた運動器再生医療の最新研究を理解する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自己組織化技術に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	自己組織化技術について (1)	1	自己組織化とナノカーボン分子(1)	
2	自己組織化技術について (2)	2	自己組織化とナノカーボン分子(2)	
3	自己組織化技術の産業応用の現状	3	自己組織化とナノカーボン分子(3)	
4	自己組織化技術の最新展開 (工業編)	4	ナノカーボン分子の医療応用について	
5	自己組織化技術の医療応用 (既存技術)	5	自己組織化技術による階層的関節再建・再生について (序)	
6	自己組織化技術による運動器再建 (1)	6	階層的骨組織再生 (1)	
7	自己組織化技術による運動器再建 (2)	7	階層的骨組織再生 (2)	
8	自己組織化技術による運動器再建 (3)	8	階層的軟骨組織再生 (1)	
9	自己組織化技術による運動器再建 (4)	9	階層的軟骨組織再生 (2)	
10	自己組織化技術と運動器再生 (小括)	10	統合的骨軟骨組織再生 (1)	
11	自己組織化技術の医療応用将来構想	11	統合的骨軟骨組織再生 (2)	
12	自己組織化技術医療応用の問題点 (1)	12	階層性骨軟骨再生の問題点	
13	自己組織化技術医療応用の問題点 (2)	13	階層性骨軟骨再生の具体的応用法	
14	前期総合討論と発表 (1)	14	後期総合討論と発表 (1)	
15	前期総合討論と発表 (2)	15	後期総合討論と発表 (2)	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	ヒト T 細胞白血病ウイルスと疾患概論		必修/選択	選択	
担当教員	佐藤知雄	担当教員連絡先	内線 4007		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	全国に 120 万人存在する成人T細胞白血病ウイルス(HTLV-1)感染症を理解し、それによる疾患との関わりについて学ぶ				
講義計画	HTLV-1 の発見から現在までの研究の歴史、HTLV-1 により発症する疾患の概説、HTLV-1 感染症と宿主免疫との関係、HTLV-1 による免疫異常と病態との関係、HTLV-1 による炎症や発癌との関わりについて概説、HTLV-1 関連疾患患者との交流				
達成目標	HTLV-1 を含めたレトロウイルスの理解、ウイルス感染症に対する免疫監視機構の理解、HTLV-1 による自己免疫疾患発症機序の理解、HTLV-1 による発癌機構の理解				
教科書・参考書	HTLV-1 と疾患 (文光堂)				
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポートを作成すること 1 時間				
成績評価法	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	成人 T 細胞白血病ウイルスに関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	HTLV-1 研究の歴史		1	HTLV-1 の動物モデル	
2	ヒトレトロウイルス研究の現状		2	ATL と HTLV-1 感染免疫	
3	HTLV-1 の自然史と疫学		3	HAM の免疫異常	
4	HTLV-1 の感染経路		4	HTLV-1 感染細胞の特徴	
5	HTLV-1 のウイルス学		5	HTLV-1 感染と T 細胞分化	
6	HTLV-1 の分子生物学 (基礎と臨床)		6	HTLV-1 感染と制御性 T 細胞	
7	HTLV-1 関連脊髄症(HAM)の臨床		7	HTLV-1 感染と樹状細胞	
8	HAM の病態と治療		8	HTLV-1 感染と NKT 細胞	
9	HAM の免疫遺伝学		9	HTLV-1 感染と NF- κ B 活性化	
10	HTLV-1 関連ぶどう膜炎、唾液腺炎		10	HTLV-1 による炎症機構	
11	HTLV-1 関連関節炎、肺疾患、筋炎		11	HTLV-1 による発癌機構	
12	成人 T 細胞白血病(ATL)の診断		12	HTLV-1 のエピジェネティクス	
13	ATL の化学療法		13	HAM と ATL の分子標的治療	
14	ATL の造血幹細胞移植		14	HAM の再生治療	
15	ATL の細胞生物学		15	HAM, ATL 患者との交流	

【 48-4 】 2026 年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	呼吸器内科学 (Respiratory Medicine)
研究指導教員	峯下 昌道
研究・教育の概略	<p>当科では呼吸器疾患全般を対象として、研究・教育を行なう。中でも呼吸器インターベンションに関する研究は当科の特徴である。中枢気道狭窄に対する治療として、硬性気管支鏡と軟性気管支鏡を組み合わせ用い、腫瘍の焼灼、バルーン拡張、気道ステント留置等を行っているが、本治療の適応や効果判定に関する臨床研究は今年度も継続し、新たに動態画像解析の応用に関する研究も開始する。気道狭窄の治療前後におけるチョークポイントの移動に関する気道内圧の測定や局所肺の呼気中CO₂、O₂を用いた病態解析に関する研究も継続して行う。難治性気胸に関しては造影による瘻孔診断とEWS挿入および胸膜癒着による治療を行っており症例を集積している。肺癌の診断、治療に関しては豊富な臨床例に基づいて、画像診断、気管支鏡検査(クライオバイオプシー含む)、胸腔鏡検査、遺伝子診断、化学療法などの研究・教育を行い、臨床試験や治験にも積極的に参加する。気管支鏡検査に関しては、超音波内視鏡のエラストグラムの診断における有用性や、気管支鏡検査中のCO₂モニタリングに関する研究を行っている。気管支腔内超音波検査法は肺癌診断のみならず、気道狭窄や再発性多発軟骨炎などの病態把握のための研究にも活用している。慢性閉塞性肺疾患(COPD)については豊富な臨床例に基づいて、その病態、診断法、生物学的製剤を含む治療法を教育するとともに、内視鏡的治療に関する臨床研究を継続し、都立大学との協同研究でレーダーを用いた呼吸モニターや肺機能検査に関する研究も推進していく。</p>
研究項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気道狭窄に対する呼吸器インターベンション(動態画像解析の応用に関する研究も含む) 2. 気道内圧、および呼気中CO₂、O₂を用いた呼吸生理学的検討 3. 難治性気胸の治療 4. COPDの内視鏡的治療 5. 肺癌の診断と治療 6. 気管支腔内超音波検査法 7. レーダーを用いた呼吸モニターおよび肺機能検査
準備学習(予習・復習)	<p>事前に参考資料を読み、内容を確認すること。</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病態学		必修/選択	必修	
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患を症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な呼吸器疾患の病態に基づいた管理を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	閉塞性換気障害の病態		1		
2	拘束性換気障害の病態		2		
3	急性呼吸不全の病態 1		3		
4	急性呼吸不全の病態 2		4		
5	ARDSの病態 1		5		
6	ARDSの病態 2		6		
7	慢性呼吸不全の病態 1		7		
8	慢性呼吸不全の病態 2		8		
9	過換気症候群の病態		9		
10	肺胞低換気の病態		10		
11	肺循環障害の病態 1		11		
12	肺循環障害の病態 2		12		
13	無気肺の病態		13		
14	中枢気道狭窄の病態 1		14		
15	中枢気道狭窄の病態 2		15		

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学 I		必修/選択	必修	
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて、気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	気管支鏡の歴史		1		
2	気管支鏡の適応と禁忌 1		2		
3	気管支鏡の適応と禁忌 2		3		
4	軟性気管支鏡の機器と準備 1		4		
5	周辺機器 1		5		
6	局所麻酔 1		6		
7	気管支鏡の挿入と観察 1		7		
8	気管支の解剖 1		8		
9	気管支鏡所見 - 正常編 1		9		
10	気管支鏡所見 - 異常編 1		10		
11	気管支鏡所見 - 異常編 2		11		
12	気管支鏡所見 - 異常編 3		12		
13	胸腔鏡の歴史1		13		
14	flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と禁忌 1		14		
15	flexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備 1		15		

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	経気管支的肺生検 1	
2			2	経気管支的肺生検 2	
3			3	経気管支的肺生検 3	
4			4	EBUS—中枢気道への応用 1	
5			5	EBUS—中枢気道への応用 2	
6			6	EBUS—中枢気道への応用 3	
7			7	EBUS—中枢気道への応用 4	
8			8	EBUS—末梢病変への応用 1	
9			9	EBUS—末梢病変への応用 2	
10			10	EBUS—末梢病変への応用 3	
11			11	EBUS—末梢病変への応用 4	
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 1	
13			13	胸腔鏡所見 1	
14			14	胸腔鏡所見 2	
15			15	胸腔鏡の合併症と対処法 1	

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学	
講義題目	呼吸器画像診断学 I		必修/選択	必修
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307	
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する			
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線, 胸部CTの読影法を解説する			
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線, 胸部CTを読影できる 2. 画像所見に基づいて, 鑑別診断を列挙できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	胸部単純エックス線 - 正常編	1		
2	胸部単純エックス線 - 浸潤影	2		
3	胸部単純エックス線 - 結節影	3		
4	胸部単純エックス線 - びまん性陰影	4		
5	胸部単純エックス線 - 無気肺	5		
6	胸部単純エックス線 - 応用編 1	6		
7	胸部単純エックス線 - 応用編 2	7		
8	胸部CT - 正常編	8		
9	胸部CT - GGO	9		
10	胸部CT - consolidation	10		
11	胸部CT - 結節影	11		
12	胸部CT - びまん性陰影	12		
13	胸部CT - 無気肺	13		
14	胸部CT - 応用編1	14		
15	胸部CT - 応用編2	15		

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器画像診断学Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307		
単位数	1単位 (後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する				
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線, 胸部CTの読影法を解説する				
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線, 胸部CTを読影できる 2. 画像所見に基づいて, 鑑別診断を列挙できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	肺炎の画像診断 1	
2			2	肺炎の画像診断 2	
3			3	COPDの画像診断	
4			4	胸膜炎, 膿胸の画像診断	
5			5	間質性肺炎の画像診断 1	
6			6	間質性肺炎の画像診断 2	
7			7	サルコイドーシスの画像診断	
8			8	肺胞蛋白症の画像診断	
9			9	肺水腫の画像診断	
10			10	肺癌の画像診断 1	
11			11	肺癌の画像診断 2	
12			12	縦隔リンパ節の読影	
13			13	胸膜中皮腫の画像診断	
14			14	PET	
15			15	胸部MRI	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学	
講義題目	呼吸器病理と臨床各論 I		必修/選択	必修
担当教員	粒来 崇博	担当教員連絡先	内線 81737	
単位数	2単位 (前期 2)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する			
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して, その病理と臨床像を検討する			
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2. 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	気管支喘息の病理 1	1		
2	気管支喘息の臨床 1	2		
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床 1	3		
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床 1	4		
5	特発性間質性肺炎の病理 1	5		
6	特発性間質性肺炎の臨床 1	6		
7	好酸球性肺炎の病理 1	7		
8	好酸球性肺炎の臨床 1	8		
9	過敏性肺臓炎の病理 1	9		
10	過敏性肺臓炎の臨床 1	10		
11	膠原病肺の病理 1	11		
12	膠原病肺の臨床 1	12		
13	サルコイドーシスの病理 1	13		
14	サルコイドーシスの臨床 1	14		
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床 1	15		

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307		
単位数	2単位 (後期 2)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して、その病理と臨床像を検討する				
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2. 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	肺腺癌の病理 1	
2			2	肺腺癌の臨床 1	
3			3	肺扁平上皮癌の病理 1	
4			4	肺扁平上皮癌の臨床 1	
5			5	小細胞肺癌の病理 1	
6			6	小細胞肺癌の臨床 1	
7			7	大細胞肺癌の病理 1	
8			8	大細胞肺癌の臨床 1	
9			9	細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床 1	
10			10	非小細胞肺癌の化学療法 1	
11			11	小細胞肺癌の化学療法 1	
12			12	転移性肺癌の病理 1	
13			13	転移性肺癌の臨床 1	
14			14	悪性胸膜中皮腫の病理 1	
15			15	悪性胸膜中皮腫の臨床 1	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学	
講義題目	呼吸器内視鏡実習 I		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463	
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	気管支鏡の実技を習得する			
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。			
達成目標	1.気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 2.経気管支肺生検ができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	気管支鏡の挿入および観察手技 1	1		
2	気管支鏡の挿入および観察手技 2	2		
3	気管支命名法 1	3		
4	気管支命名法 2	4		
5	気管支鏡所見 1	5		
6	気管支鏡所見 2	6		
7	気管支鏡所見 3	7		
8	気管支鏡所見 4	8		
9	経気管支肺生検 1	9		
10	経気管支肺生検 2	10		
11	経気管支肺生検 3	11		
12	ナビゲーション 1	12		
13	ナビゲーション 2	13		
14	EBUS-GS法 1	14		
15	EBUS-GS法 2	15		

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡実習Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307		
単位数	1単位 (後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	気管支鏡と flexi-rigid type 胸腔鏡の実技を習得する				
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。 flexi-rigid type 胸腔鏡の手技を実施する。				
達成目標	1.気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 2.経気管支肺生検ができる。 3.flexi-rigid type 胸腔鏡を用いて観察と生検ができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	気管支鏡所見 5	
2			2	気管支鏡所見 6	
3			3	気管支鏡所見 7	
4			4	EBUS - TBNA 1	
5			5	EBUS - TBNA 2	
6			6	EBUS - TBNA 3	
7			7	蛍光気管支鏡 1	
8			8	蛍光気管支鏡 2	
9			9	NBI 1	
10			10	NBI 2	
11			11	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 1	
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 2	
13			13	胸腔鏡所見 1	
14			14	胸腔鏡所見 2	
15			15	胸腔鏡所見 3	

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅲ		必修/選択	必修	
担当教員	木田 博隆	担当教員連絡先	内線 80737		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて, 気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	気管支鏡の歴史 2		1		
2	気管支鏡の適応と禁忌 3		2		
3	気管支鏡の適応と禁忌 4		3		
4	軟性気管支鏡の機器と準備 2		4		
5	周辺機器 2		5		
6	局所麻酔 2		6		
7	気管支鏡の挿入と観察 2		7		
8	気管支の解剖 2		8		
9	気管支鏡所見 - 正常編 2		9		
10	気管支鏡所見 - 異常編 4		10		
11	気管支鏡所見 - 異常編 5		11		
12	気管支鏡所見 - 異常編 6		12		
13	胸腔鏡の歴史 2		13		
14	flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と禁忌 2		14		
15	flexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備 2		15		

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅳ		必修/選択	必修	
担当教員	木田 博隆	担当教員連絡先	内線 80737		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて、気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	経気管支的肺生検 - ナビゲーション 1	
2			2	経気管支的肺生検 - ナビゲーション 2	
3			3	経気管支的肺生検 - ナビゲーション 3	
4			4	EBUS - TBNA 1	
5			5	EBUS - TBNA 2	
6			6	EBUS - TBNA 3	
7			7	蛍光気管支鏡 1	
8			8	蛍光気管支鏡 2	
9			9	クライオバイオプシー 1	
10			10	クライオバイオプシー 2	
11			11	気管支鏡の合併症と対処法 2	
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 2	
13			13	胸腔鏡所見 3	
14			14	胸腔鏡所見 4	
15			15	胸腔鏡の合併症と対処法 2	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅲ		必修/選択	必修	
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536		
単位数	2単位 (前期 2)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して, その病理と臨床像を検討する				
達成目標	1.基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2.基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	気管支喘息の病理	2	1		
2	気管支喘息の臨床	2	2		
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床	2	3		
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床	2	4		
5	特発性間質性肺炎の病理	2	5		
6	特発性間質性肺炎の臨床	2	6		
7	好酸球性肺炎の病理	2	7		
8	好酸球性肺炎の臨床	2	8		
9	過敏性肺臓炎の病理	2	9		
10	過敏性肺臓炎の臨床	2	10		
11	膠原病肺の病理	2	11		
12	膠原病肺の臨床	2	12		
13	サルコイドーシスの病理	2	13		
14	サルコイドーシスの臨床	2	14		
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床	2	15		

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅳ		必修/選択	必修	
担当教員	古屋 直樹	担当教員連絡先	内線 80988		
単位数	2単位 (後期 2)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して, その病理と臨床像を検討する				
達成目標	1.基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2.基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	肺腺癌の病理 2	
2			2	肺腺癌の臨床 2	
3			3	肺扁平上皮癌の病理 2	
4			4	肺扁平上皮癌の臨床 2	
5			5	小細胞肺癌の病理 2	
6			6	小細胞肺癌の臨床 2	
7			7	大細胞肺癌の病理 2	
8			8	大細胞肺癌の臨床 2	
9			9	細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床 2	
10			10	非小細胞肺癌の化学療法 2	
11			11	小細胞肺癌の化学療法 2	
12			12	転移性肺癌の病理 2	
13			13	転移性肺癌の臨床 2	
14			14	悪性胸膜中皮腫の病理 2	
15			15	悪性胸膜中皮腫の臨床	

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器疾患特論 I		必修/選択	必修	
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する				
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する				
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2. 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し、対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	気管支拡張症		1		
2	嚢胞性肺疾患		2		
3	慢性閉塞性肺疾患 1		3		
4	慢性閉塞性肺疾患 2		4		
5	過換気症候群		5		
6	気管支喘息 1		6		
7	気管支喘息 2		7		
8	PIE症候群		8		
9	アレルギー性気管支肺アスペルギルス		9		
10	過敏性肺臓炎		10		
11	肺ヒストサイトーシスX		11		
12	膠原病に伴う肺疾患		12		
13	サルコイドーシス		13		
14	特発性間質性肺炎 1		14		
15	特発性間質性肺炎 2		15		

2026 年度講義シラバス (15)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器疾患特論Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する				
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する				
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2. 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し, 対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	薬剤性間質性肺炎	
2			2	無気肺	
3			3	ARDS	
4			4	肺胞蛋白症	
5			5	肺胞微石症	
6			6	原発性肺癌 - 主要症候	
7			7	原発性肺癌 - 診断	
8			8	原発性肺癌 - 治療	
9			9	転移性肺腫瘍	
10			10	肺血栓, 塞栓症	
11			11	自然気胸	
12			12	胸膜炎, 膿胸	
13			13	胸膜腫瘍	
14			14	縦隔炎	
15			15	縦隔腫瘍	

2026 年度講義シラバス (16)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器インターベンション実習 I		必修/選択	必修	
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する				
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する				
達成目標	1.呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し, 対処できる 2.適切な手技選択し, 実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	呼吸器インターベンション適応と禁忌 1		1		
2	呼吸器インターベンション適応と禁忌 2		2		
3	硬性気管支鏡 1		3		
4	硬性気管支鏡 2		4		
5	気道狭窄の診断 1		5		
6	気道狭窄の診断 2		6		
7	気道ステントの種類と適応 1		7		
8	気道ステントの種類と適応 2		8		
9	気道ステント挿入の実際 1		9		
10	気道ステント挿入の実際 2		10		
11	気道異物 1		11		
12	気道異物 2		12		
13	APC焼灼 1		13		
14	APC焼灼 2		14		
15	バルーン拡張		15		

2026 年度講義シラバス (17)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器インターベンション実習Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536		
単位数	1単位 (後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する				
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する				
達成目標	1.呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し、対処できる 2.適切な手技選択し、実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	Nd-YAGレーザー	
2			2	クライオセラピー	
3			3	気道内圧測定1	
4			4	気道内圧測定2	
5			5	気道狭窄とチョークポイント 1	
6			6	気道狭窄とチョークポイント 2	
7			7	良性気道狭窄とインターベンション	
8			8	悪性気道狭窄とインターベンション	
9			9	食道気管瘻の治療法 1	
10			10	食道気管瘻の治療法 2	
11			11	呼吸器インターベンションの合併症 1	
12			12	呼吸器インターベンションの合併症 2	
13			13	COPDの内視鏡的治療 1	
14			14	COPDの内視鏡的治療 2	
15			15	COPDの内視鏡的治療 3	

2026 年度講義シラバス (18)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学	
講義題目	呼吸器腫瘍学		必修/選択	選択
担当教員	古屋 直樹	担当教員連絡先	内線 80988	
単位数	2単位 (前期1, 後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	呼吸器の腫瘍性疾患の臨床を理解する			
講義計画	原発性肺癌, 転移性肺癌, 悪性胸膜中皮腫の診断と治療を解説する			
達成目標	原発性肺癌, 転移性肺癌, 悪性胸膜中皮腫の診断と治療について説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内容 (出席Ⓞ)	
1	非小細胞肺癌の診断 1	1	転移性肺癌の診断 1	
2	非小細胞肺癌の診断 2	2	転移性肺癌の診断 2	
3	非小細胞肺癌の診断 3	3	転移性肺癌の診断 3	
4	非小細胞肺癌の治療 1	4	転移性肺癌の治療 1	
5	非小細胞肺癌の治療 2	5	転移性肺癌の治療 2	
6	非小細胞肺癌の治療 3	6	転移性肺癌の治療 3	
7	非小細胞肺癌の治療 4	7	転移性肺癌の治療 4	
8	小細胞肺癌の診断 1	8	悪性胸膜中皮腫の診断 1	
9	小細胞肺癌の診断 2	9	悪性胸膜中皮腫の診断 2	
10	小細胞肺癌の診断 3	10	悪性胸膜中皮腫の診断 3	
11	小細胞肺癌の治療 1	11	悪性胸膜中皮腫の治療 1	
12	小細胞肺癌の治療 2	12	悪性胸膜中皮腫の治療 2	
13	小細胞肺癌の治療 3	13	悪性胸膜中皮腫の治療 3	
14	小細胞肺癌の治療 4	14	悪性胸膜中皮腫の治療 4	
15	化学療法の有害事象と対処法 1	15	化学療法の有害事象と対処法 2	

2026 年度講義シラバス (19)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器感染症学		必修/選択	選択	
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307		
単位数	2単位 (前期1, 後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器領域における感染症を理解する				
講義計画	呼吸器領域における感染症を解説する				
達成目標	呼吸器領域における感染症の診断, 治療, 感染拡大予防対策について説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	細菌感染症の診断 1		1	肺結核の治療 1	
2	細菌感染症の診断 2		2	肺結核の治療 2	
3	細菌感染症の診断 3		3	肺結核の治療 3	
4	細菌感染症の治療 1		4	マイコプラズマ感染症の診断 1	
5	細菌感染症の治療 2		5	マイコプラズマ感染症の診断 2	
6	細菌感染症の治療 3		6	マイコプラズマ感染症の治療 1	
7	ウイルス感染症の診断 1		7	マイコプラズマ感染症の治療 2	
8	ウイルス感染症の診断 2		8	クラミジア, リケッチア感染症の診断 1	
9	ウイルス感染症の診断 3		9	クラミジア, リケッチア感染症の診断 2	
10	ウイルス感染症の治療 1		10	クラミジア, リケッチア感染症の治療 1	
11	ウイルス感染症の治療 2		11	クラミジア, リケッチア感染症の治療 2	
12	ウイルス感染症の治療 3		12	非定型肺炎の診断1	
13	肺結核の診断 1		13	非定型肺炎の診断2	
14	肺結核の診断 2		14	非定型肺炎の治療1	
15	肺結核の診断 3		15	非定型肺炎の治療2	

2026 年度講義シラバス (20)

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学	
講義題目	気道内圧測定		必修/選択	選択
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 3371	
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	気道内圧測定とその臨床的価値を理解する。			
講義計画	気道内圧測定の原理、臨床的価値、及び問題点について解説する			
達成目標	気道内圧測定の原理と臨床応用の実際について述べるができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は当科における呼吸器系臨床研究の一例を提示する講義である。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	気道内圧測定について	1		
2	気道内圧測定の原理	2		
3	気道内圧測定の実際	3		
4	健常人の気道内圧所見	4		
5	気道狭窄時の気道内圧所見 1	5		
6	気道狭窄時の気道内圧所見 2	6		
7	気道狭窄時の気道内圧所見 3	7		
8	気道狭窄時の気道内圧所見 4	8		
9	気道拡張術の効果判定と気道内圧 1	9		
10	気道拡張術の効果判定と気道内圧 2	10		
11	気道拡張術の効果判定と気道内圧 3	11		
12	気道拡張術の効果判定と気道内圧 4	12		
13	事例検討 1	13		
14	事例検討 2	14		
15	気道内圧測定の問題点と将来展望	15		

【 48-5 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>明石 嘉浩</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>循環器疾患は緊急の状況が多く、指導医や研修医なども加わり、チーム医療が必要とされる。そのため責任をもって一員として加わり、上級医の指示、指導のもとに適切な医療をすすめていくことが大切である。そのために必要な知識や技術を系統的に理解し、実践できるようにすることが目的となる。</p> <p>午前中は循環器疾患における病態、症候、診断法、治療法などを、臨床の現場で経験した症例より学び、午後では各疾患における循環器特有の診断法、画像診断、カテーテル検査などを学ぶようにした。また循環器疾患は全身疾患の一環として発症することも少なくないので、全身疾患を系統的に見ることが可能なようにカリキュラムを設定した。</p> <p>また医学特論では循環器の臨床的なエキスパートを学外から呼び、アップデートな実践的な話をしてもらう予定である。</p> <p>それらの習得した知識により収集した情報から問題点を抽出し、個々の情報に意味づけをして優先順位を考慮した診断、治療計画がたてられるようになるよう教育していく。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冠動脈画像及び機能診断 (IVUS、OCT、FFR) の研究 2. 心房細動への三次元マッピングシステムによる新しい治療法の研究 3. 心臓超音波における心機能解析に関する研究 4. 慢性心不全患者の運動療法に関する研究 5. 循環器疾患と睡眠時無呼吸症候群の研究 6. 肺高血圧症の診断方法に関する研究
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>カンファレンス前後では、経験する疾患の治療ガイドラインを確認する。虚血性心疾患に関しては、心電図、エコー、核医学、CT、MRI 等の非侵襲的検査の組み合わせ方と、心臓カテーテル検査に至るまでの選択方法を学ぶ。不整脈疾患に関しては、心電図の読み方、そこから予想される不整脈起源、診断と治療法に関して学ぶ。心不全に関しては急性期と慢性期の違いの理解、急性心不全における血行動態の評価と管理方法を学び、慢性期には内服薬の使い方と心移植への橋渡しに関して学ぶ。</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器病態学 (I)		必修/選択	必修
担当教員	田邊 康宏	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の病態を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して病態を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器病態学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	心疾患へのアプローチの仕方 ①	1	循環器疾患 心電図の役割について ①	
2	心疾患へのアプローチの仕方 ②	2	循環器疾患 心電図の役割について ②	
3	心疾患へのアプローチの仕方 ③	3	心電図の装着法について ①	
4	循環器疾患の症候 ①	4	心電図の装着法について ②	
5	循環器疾患の症候 ②	5	モニター心電図でわかること ①	
6	循環器疾患の身体所見 視診	6	モニター心電図でわかること ②	
7	循環器疾患の身体所見 触診	7	徐脈性不整脈とは ①	
8	循環器疾患の身体所見 聴診 ①	8	徐脈性不整脈とは ②	
9	循環器疾患の身体所見 聴診 ②	9	頻脈性不整脈とは ①	
10	循環器疾患の身体所見 聴診 ③	10	頻脈性不整脈とは ②	
11	循環器疾患の身体所見 打診	11	虚血性心疾患の心電図 ①	
12	循環器疾患の身体所見 まとめ	12	虚血性心疾患の心電図 ②	
13	循環器疾患の問診の取り方 ①	13	弁膜症の心電図	
14	循環器疾患の問診の取り方 ②	14	心筋症の心電図	
15	循環器疾患の OSCE による評価	15	大動脈疾患の診断について	

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器病態学 (Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	出雲 昌樹	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の病態を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して病態を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器病態学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	心疾患へのアプローチの仕方 ①	1	循環器疾患 心電図の役割について ①	
2	心疾患へのアプローチの仕方 ②	2	循環器疾患 心電図の役割について ②	
3	心疾患へのアプローチの仕方 ③	3	心電図の装着法について ①	
4	循環器疾患の症候 ①	4	心電図の装着法について ②	
5	循環器疾患の症候 ②	5	モニター心電図でわかること ①	
6	循環器疾患の身体所見 視診	6	モニター心電図でわかること ②	
7	循環器疾患の身体所見 触診	7	徐脈性不整脈とは ①	
8	循環器疾患の身体所見 聴診 ①	8	徐脈性不整脈とは ②	
9	循環器疾患の身体所見 聴診 ②	9	頻脈性不整脈とは ①	
10	循環器疾患の身体所見 聴診 ③	10	頻脈性不整脈とは ②	
11	循環器疾患の身体所見 打診	11	虚血性心疾患の心電図 ①	
12	循環器疾患の身体所見 まとめ	12	虚血性心疾患の心電図 ②	
13	循環器疾患の問診の取り方 ①	13	弁膜症の心電図	
14	循環器疾患の問診の取り方 ②	14	心筋症の心電図	
15	循環器疾患の OSCE による評価	15	大動脈疾患の診断について	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器症候学 (I)		必修/選択	必修
担当教員	貝原 俊樹	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の症状を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して症状を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について症候を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の症候に基づいた診断、治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器症候学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	
1	虚血性心疾患の症候のとりえ方 ①	1	循環器疾患と浮腫 ①	
2	虚血性心疾患の症候のとりえ方 ②	2	循環器疾患と浮腫 ②	
3	不整脈の症候のとりえ方 ①	3	循環器疾患と動悸 ①	
4	不整脈の症候のとりえ方 ②	4	循環器疾患と動悸 ②	
5	弁膜症の症候のとりえ方 ①	5	循環器疾患と呼吸困難 ①	
6	弁膜症の症候のとりえ方 ②	6	循環器疾患と呼吸困難 ②	
7	心筋症の症候のとりえ方 ①	7	循環器疾患と胸痛 ①	
8	心筋症の症候のとりえ方 ②	8	循環器疾患と胸痛 ②	
9	大動脈疾患の症候のとりえ方 ①	9	循環器疾患とチアノーゼ	
10	大動脈疾患の症候のとりえ方 ②	10	循環器疾患と血圧異常 ①	
11	肺循環障害の症候のとりえ方	11	循環器疾患と血圧異常 ②	
12	左心不全の症候のとりえ方 ①	12	循環器疾患と脈拍異常 ①	
13	左心不全の症候のとりえ方 ②	13	循環器疾患と脈拍異常 ②	
14	右心不全の症候のとりえ方 ①	14	循環器疾患と失神 ①	
15	左心不全の症候のとりえ方 ②	15	循環器疾患と失神 ②	

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器症候学 (Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	原田 智雄	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の症状を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して症状を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について症候を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の症候に基づいた診断、治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器症候学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	虚血性心疾患の症候のとりえ方 ①	1	循環器疾患と浮腫 ①	
2	虚血性心疾患の症候のとりえ方 ②	2	循環器疾患と浮腫 ②	
3	不整脈の症候のとりえ方 ①	3	循環器疾患と動悸 ①	
4	不整脈の症候のとりえ方 ②	4	循環器疾患と動悸 ②	
5	弁膜症の症候のとりえ方 ①	5	循環器疾患と呼吸困難 ①	
6	弁膜症の症候のとりえ方 ②	6	循環器疾患と呼吸困難 ②	
7	心筋症の症候のとりえ方 ①	7	循環器疾患と胸痛 ①	
8	心筋症の症候のとりえ方 ②	8	循環器疾患と胸痛 ②	
9	大動脈疾患の症候のとりえ方 ①	9	循環器疾患とチアノーゼ	
10	大動脈疾患の症候のとりえ方 ②	10	循環器疾患と血圧異常 ①	
11	肺循環障害の症候のとりえ方	11	循環器疾患と血圧異常 ②	
12	左心不全の症候のとりえ方 ①	12	循環器疾患と脈拍異常 ①	
13	左心不全の症候のとりえ方 ②	13	循環器疾患と脈拍異常 ②	
14	右心不全の症候のとりえ方 ①	14	循環器疾患と失神 ①	
15	左心不全の症候のとりえ方 ②	15	循環器疾患と失神 ②	

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器診断学 (I)		必修/選択	必修
担当教員	明石 嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器診断学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	循環器疾患と心電図 ①	1	Brugada 症候群の診断について	
2	循環器疾患と心電図 ②	2	WPW 症候群の診断について	
3	循環器疾患と心電図 ③	3	脚ブロックの診断について	
4	循環器疾患の胸部単純写真 ①	4	虚血性心疾患の診断法について	
5	循環器疾患の胸部単純写真 ②	5	弁膜症の診断方法について	
6	徐脈性不整脈の診断方法 ①	6	心臓超音波検査でどこまでわかるか	
7	徐脈性不整脈の診断方法 ②	7	心臓超音波検査でわからないこと	
8	頻脈性不整脈の診断方法 ①	8	M モード法でわかること	
9	頻脈性不整脈の診断方法 ②	9	B モード法でわかること	
10	心電図 P 波からなにがわかるか	10	ドップラー法でわかること	
11	心電図 QRS 波からなにがわかるか	11	経食道エコーでわかること	
12	心電図 T 波からなにがわかるか	12	心疾患と CT 検査	
13	心電図 ST 部分からなにがわかるか	13	大動脈疾患の診断方法	
14	心電図 U 波からなにがわかるか	14	肺循環障害の診断方法	
15	心電図 QT からなにがわかるか	15	心疾患と MRI 検査	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器診断学 (Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	原田 智雄	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器診断学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	循環器疾患と心電図 ①	1	Brugada 症候群の診断について	
2	循環器疾患と心電図 ②	2	WPW 症候群の診断について	
3	循環器疾患と心電図 ③	3	脚ブロックの診断について	
4	循環器疾患の胸部単純写真 ①	4	虚血性心疾患の診断法について	
5	循環器疾患の胸部単純写真 ②	5	弁膜症の診断方法について	
6	徐脈性不整脈の診断方法 ①	6	心臓超音波検査でどこまでわかるか	
7	徐脈性不整脈の診断方法 ②	7	心臓超音波検査でわからないこと	
8	頻脈性不整脈の診断方法 ①	8	M モード法でわかること	
9	頻脈性不整脈の診断方法 ②	9	B モード法でわかること	
10	心電図 P 波からなにがわかるか	10	ドップラー法でわかること	
11	心電図 QRS 波からなにがわかるか	11	経食道エコーでわかること	
12	心電図 T 波からなにがわかるか	12	心疾患と CT 検査	
13	心電図 ST 部分からなにがわかるか	13	大動脈疾患の診断方法	
14	心電図 U 波からなにがわかるか	14	肺循環障害の診断方法	
15	心電図 QT からなにがわかるか	15	心疾患と MRI 検査	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学 (I)		必修/選択	必修
担当教員	出雲 昌樹	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	循環器疾患の治療法の基本について	1	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
2	虚血性心疾患の治療の基本	2	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
3	虚血性心疾患の薬物療法 ①	3	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ③	
4	虚血性心疾患の薬物療法 ②	4	徐脈性不整脈の薬物療法 ①	
5	虚血性心疾患の薬物療法 ③	5	徐脈性不整脈の薬物療法 ②	
6	虚血性心疾患のカテーテル治療 ①	6	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
7	虚血性心疾患のカテーテル治療 ②	7	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
8	虚血性心疾患のカテーテル治療 ③	8	除細動について ①	
9	虚血性心疾患の非薬物療法 ①	9	除細動について ②	
10	虚血性心疾患の非薬物療法 ②	10	ショック治療の基本的考えかた ①	
11	虚血性心疾患の非薬物療法 ③	11	ショックの治療の基本的考えかた ②	
12	不整脈疾患の治療の基本	12	致死的不整脈の薬物治療 ①	
13	頻脈性不整脈の薬物療法 ①	13	致死的不整脈の薬物治療 ②	
14	頻脈性不整脈の薬物療法 ②	14	致死的不整脈の非薬物療法 ①	
15	頻脈性不整脈の薬物療法 ③	15	致死的不整脈の非薬物療法 ②	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学 (Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	栗田 真吾	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内容 (出席Ⓞ)	
1	心不全の治療の基本的考えかた ①	1	弁膜症の最近の動向 ①	
2	心不全の治療の基本的考えかた ②	2	弁膜症の最近の動向 ②	
3	心不全の薬物治療 ①	3	弁膜症と薬物治療 ①	
4	心不全の薬物治療 ②	4	弁膜症と薬物治療 ②	
5	心不全の薬物治療 ③	5	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ①	
6	心不全の非薬物療法について ①	6	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ②	
7	心不全の非薬物療法について ②	7	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ①	
8	急性心不全と慢性心不全の違い ①	8	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ②	
9	急性心不全と慢性心不全の違い ②	9	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ①	
10	急性心不全の治療計画法 ①	10	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ②	
11	急性心不全の治療計画法 ②	11	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ①	
12	慢性心不全の治療計画法 ①	12	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ②	
13	慢性心不全の治療計画法 ②	13	感染性心内膜炎の治療戦略 ①	
14	心不全と心臓リハビリテーション ①	14	感染性心内膜炎の治療戦略 ②	
15	心不全と心臓リハビリテーション ②	15	収縮性心膜炎の治療戦略	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学 (Ⅲ)		必修/選択	必修
担当教員	田邊 康宏	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	循環器疾患の治療法の基本について	1	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
2	虚血性心疾患の治療の基本	2	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
3	虚血性心疾患の薬物療法 ①	3	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ③	
4	虚血性心疾患の薬物療法 ②	4	徐脈性不整脈の薬物療法 ①	
5	虚血性心疾患の薬物療法 ③	5	徐脈性不整脈の薬物療法 ②	
6	虚血性心疾患のカテーテル治療 ①	6	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
7	虚血性心疾患のカテーテル治療 ②	7	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
8	虚血性心疾患のカテーテル治療 ③	8	除細動について ①	
9	虚血性心疾患の非薬物療法 ①	9	除細動について ②	
10	虚血性心疾患の非薬物療法 ②	10	ショック治療の基本的考えかた ①	
11	虚血性心疾患の非薬物療法 ③	11	ショックの治療の基本的考えかた ②	
12	不整脈疾患の治療の基本	12	致死的不整脈の薬物治療 ①	
13	頻脈性不整脈の薬物療法 ①	13	致死的不整脈の薬物治療 ②	
14	頻脈性不整脈の薬物療法 ②	14	致死的不整脈の非薬物療法 ①	
15	頻脈性不整脈の薬物療法 ③	15	致死的不整脈の非薬物療法 ②	

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学 (IV)		必修/選択	必修
担当教員	出雲 昌樹	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	心不全の治療の基本的考えかた ①	1	弁膜症の最近の動向 ①	
2	心不全の治療の基本的考えかた ②	2	弁膜症の最近の動向 ②	
3	心不全の薬物治療 ①	3	弁膜症と薬物治療 ①	
4	心不全の薬物治療 ②	4	弁膜症と薬物治療 ②	
5	心不全の薬物治療 ③	5	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ①	
6	心不全の非薬物療法について ①	6	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ②	
7	心不全の非薬物療法について ②	7	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ①	
8	急性心不全と慢性心不全の違い ①	8	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ②	
9	急性心不全と慢性心不全の違い ②	9	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ①	
10	急性心不全の治療計画法 ①	10	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ②	
11	急性心不全の治療計画法 ②	11	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ①	
12	慢性心不全の治療計画法 ①	12	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ②	
13	慢性心不全の治療計画法 ②	13	感染性心内膜炎の治療戦略 ①	
14	心不全と心臓リハビリテーション ①	14	感染性心内膜炎の治療戦略 ②	
15	心不全と心臓リハビリテーション ②	15	収縮性心膜炎の治療戦略	

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器疾患特論実習		必修/選択	必修
担当教員	長田 尚彦	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	1 単位 (前期・後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて、循環器の専門的な知識を深める			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、循環器に特有の検査、診断、治療についての知識を習得すること			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患に対して行われる診断技術を理解できる 2. 基本的な循環器疾患に対して行われる治療技術を理解できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器疾患の診断と治療の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	心臓カテーテル検査の実際について	1	カテーテル治療について	
2	心臓カテーテル検査の合併症について	2	バルーンのための拡張について(POBA)	
3	スパズム誘発検査	3	ステント治療について	
4	冠動脈内エコー検査について	4	DES 治療について	
5	核医学検査について ①	5	カテーテル治療と抗血小板治療	
6	核医学検査について ②	6	EPS 検査について	
7	運動負荷心電図について ①	7	EPS 検査でわかること	
8	運動負荷心電図について ②	8	徐脈性不整脈と EPS	
9	ホルター心電図検査について ①	9	頻脈性不整脈と EPS	
10	ホルター心電図検査について ②	10	頻脈性不整脈とアブレーション ①	
11	LP 検査とは	11	頻脈性不整脈とアブレーション ②	
12	睡眠時無呼吸症候群とは	12	冠動脈 CT 検査について	
13	睡眠時無呼吸症候群と心疾患	13	心臓 MRI 検査について	
14	睡眠時無呼吸症候群検査方法について	14	閉塞性動脈硬化症について	
15	睡眠時無呼吸症候群治療法について	15	閉塞性動脈硬化症の治療法について	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	循環器疾患と薬物治療各論		必修/選択	選択	
担当教員	貝原 俊樹	担当教員連絡先	内線 3313		
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患における薬物治療の実際を把握する				
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、薬物治療の実際を説明していく				
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について薬物治療の意義を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた薬物治療を実際処方できるようになる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器疾患の薬物治療の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	高血圧治療の実際について ①		1	急性心不全とhANP 治療	
2	高血圧治療の実際について ②		2	急性心不全とカテコラミン	
3	高血圧治療の実際について		3	急性心不全と血管拡張薬	
4	高血圧治療における ACE 阻害薬		4	急性心不全のその他の薬剤治療	
5	高血圧治療における ARB		5	慢性心不全の ACE 阻害薬	
6	高血圧治療における利尿薬		6	慢性心不全の ARB	
7	高血圧治療における Ca 拮抗薬		7	慢性心不全の β 遮断薬	
8	高血圧治療における β 遮断薬		8	慢性心不全と強心薬	
9	高血圧治療におけるその他薬剤		9	慢性心不全のその他の薬剤	
10	狭心症治療における ACE 阻害薬		10	抗不整脈薬の使い方について	
11	狭心症治療における β 遮断薬		11	上室性不整脈と I 群抗不整脈薬	
12	狭心症治療における Ca 拮抗薬		12	上室性不整脈と III 群抗不整脈薬	
13	狭心症治療における抗血小板薬		13	心室性不整脈と I 群抗不整脈薬	
14	慢性心不全と急性心不全の薬物の差異		14	心室性不整脈と III 群抗不整脈薬	
15	急性心不全と利尿薬		15	不整脈治療とジギタリスについて	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器疾患と画像診断各論		必修/選択	選択
担当教員	長田 尚彦	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患における画像診断の実際を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、画像診断の実際を説明していく			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について画像診断の意義を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた画像診断が適切に予約できるようになる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器疾患の画像診断の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	冠動脈造影の基本的読影について ①	1	冠動脈カテーテル治療の実際	
2	冠動脈造影の基本的読影について ②	2	冠動脈カテーテル治療の種類について	
3	左室造影について	3	冠動脈カテーテル治療と内科治療	
4	心内圧曲線の読み方 ①	4	冠動脈カテーテル治療の未来について	
5	心内圧曲線の読み方 ②	5	冠動脈 CT の臨床的意義について	
6	胸部単純写真の読み方 ①	6	冠動脈疾患と MRI 検査について	
7	胸部単純写真の読み方 ②	7	心臓内腫瘍と超音波検査	
8	肺塞栓症の胸部 CT 検査の読み方	8	心内血栓と超音波検査	
9	大動脈疾患の胸部 CT 検査の読み方	9	先天性心疾患と超音波検査	
10	大動脈疾患の MRI 検査の役割について	10	成人の先天性心疾患 ①	
11	大動脈疾患の経食道超音波検査	11	成人の先天性心疾患 ②	
12	閉塞性動脈硬化症の血管造影検査 ①	12	頸動脈エコーの臨床的意義 ①	
13	閉塞性動脈硬化症の血管造影検査 ②	13	頸動脈エコーの臨床的意義 ②	
14	閉塞性動脈硬化症の血管超音波検査	14	腎血管性高血圧の画像診断	
15	閉塞性動脈硬化症の血管内治療	15	腎血管性高血圧のカテーテル治療	

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器疾患と全身性疾患特論		必修/選択	選択
担当教員	中島 育太郎	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患における画像診断の実際を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、全身性心疾患を評価できるようになる			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患を合併する全身性疾患を説明できる 2. 基本的な循環器疾患に合併する全身性疾患を鑑別でき、診断計画が可能になる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	循環器疾患を合併する全身性疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	動脈硬化とは	1	アルコールと心臓について	
2	動脈硬化と冠動脈	2	喫煙と心臓について	
3	動脈硬化と全身疾患	3	サルコイドーシスと心疾患 ①	
4	動脈硬化を予防するためには ①	4	サルコイドーシスと心疾患 ②	
5	動脈硬化を予防するためには ②	5	アミロイドーシスと心疾患 ①	
6	糖尿病と心疾患 ①	6	アミロイドーシスと心疾患 ②	
7	糖尿病と心疾患 ②	7	甲状腺機能異常と心疾患 ①	
8	膠原病と心疾患 ①	8	甲状腺機能異常と心疾患 ②	
9	膠原病と心疾患 ②	9	筋ジストロフィー症と心疾患	
10	遺伝子異常と心疾患 ①	10	抗ガン剤治療と心疾患	
11	遺伝子異常と心疾患 ②	11	ストレスと心疾患	
12	心疾患に対する遺伝子治療 ①	12	たこつぼ型心筋症とは ①	
13	心疾患に対する遺伝子治療 ②	13	たこつぼ型心筋症とは ②	
14	2次性心筋症とは ①	14	内分泌疾患と高血圧	
15	2次性心筋症とは ②	15	電解質異常と心疾患	

【 48-6 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>山野 嘉久</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>脳神経内科が対象とする疾患は、脳血管障害、変性疾患(パーキンソン病関連疾患、運動ニューロン疾患他)、感染性疾患(脳炎、髄膜炎)、免疫性神経疾患など幅広く、いまだ病態不明の疾患、治療法未確立の疾患も多い。これら神経疾患の診断や、あらたな治療法確立に対し、自ら研究すべき課題を発見し、独立して問題を解決することのできる人材を育てることが本コースの狙いである。</p> <p>コース前半では、幅広い内科学の知識と方法論に加え、より深く臨床神経学の知識を主体的に学ぶとともに、研究すべき課題を発見する。教官の指導のもと、仮説の立てかた、高い倫理性をもった研究計画の立てかたという、臨床研究のアプローチを学び、他の研究者との討議のもと、透明性の高いデータ収集を行う力を養う。特に、仮説の証明に必要な、後方視的データ収集の技術、前方視的研究方法、サロゲートマーカーの選択方法、サンプルサイズの決定方法などを実践的に学ぶ。同時に研究課題に則して、免疫学、生化学、血栓止血学などの基礎医学の知識を主体的に学び、教官の指導のもと病態解明に必要な文献の効果的検索法や解釈について体得する。コース後半では、自ら得た臨床データを科学的に吟味するための統計学的手法を学び、学会発表の方法や論文としてまとめて自ら公表する力を養う。</p> <p>質の高い臨床研究を行うことのできる医師となるためには、病態の解明に必要な基礎医学の知識のみならず、高い臨床技能を有し、質の高い臨床データを自ら収集できる臨床医であることも重要である。コース全体にわたり、教官の指導のもと、症例を中心に、またハンズオンで自ら実践することにより、神経・筋の電気生理学、脳循環代謝学、神経病理学、神経超音波学、神経放射線学など、仮説を証明する上で必須となる検査の深い知識と技術を習得するのも本専攻分野の教育の目的の一つである。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳梗塞急性期治療法の開発 2. 神経疾患の免疫学的機序に関する研究 3. 神経変性疾患の運動解析、自律神経障害に関する研究 4. 神経超音波学的研究 5. 脳卒中医療システム開発に関する研究
<p>準備学習(予習復習)</p>	<p>自らの研究のプロトコル等を生命倫理委員会に申請するための準備として、本学研究推進課のホームページにアクセスし、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」等をよく読み、どの指針に該当するか確認する。教官と相談し、適切な統計ソフトを入手して統計解析の基本を学ぶこと。臨床試験を行う場合は臨床試験の倫理指針に関する講習会に参加して受講証番号を得ること。</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	神経救急医学特論		必修/選択	必修
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	神経救急の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ			
講義計画	種々の基本的神経救急疾患例を通して病態を理解し、診断・治療法を検討する入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある			
達成目標	1.基本的な神経救急疾患について病態を論理的に説明できる 2.基本的な神経救急疾患について病態に基づいた診断・治療計画を作成できる			
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を涵養し、研究開発に資する unmet needs を見出す。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	神経救急疾患の対応	1	脳梗塞への救急対応	
2	意識障害のとりえ方	2	超急性期血栓溶解療法への対応	
3	遷延性意識障害	3	高血圧性脳出血への救急対応	
4	頭痛を呈する神経救急疾患	4	脊髄梗塞への救急対応	
5	めまいを呈する神経救急疾患	5	低酸素脳症への救急対応	
6	複視を呈する神経救急疾患	6	代謝性脳症への救急対応	
7	筋力低下を呈する神経救急疾患	7	Guillain-Barre 症候群への救急対応	
8	運動麻痺を呈する神経救急疾患	8	脳炎、髄膜炎への救急対応	
9	痙攣を呈する神経救急疾患	9	重症筋無力症クリーゼへの救急対応	
10	不随意運動を呈する神経救急疾患	10	横紋筋融解症への救急対応	
11	認知機能の低下を呈する神経救急疾患	11	悪性症候群への救急対応	
12	頭蓋内圧亢進、脳浮腫への対応	12	多発性硬化症への救急対応	
13	中心性橋白質融解症への対応	13	てんかん重積症への救急対応	
14	前期のまとめ (1)	14	後期のまとめ (1)	
15	前期のまとめ (2)	15	後期のまとめ (2)	

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	神経変性疾患特論		必修/選択	必修
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	神経変性疾患の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ			
講義計画	種々の神経変性疾患例を通して病態を理解し、診断・治療法を検討する 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある			
達成目標	1.基本的な神経変性疾患について病態を論理的に説明できる 2.基本的な神経変性疾患について病態に基づいた診断・治療計画を作成できる			
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経変性疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	舞踏病、アテトーシス、バリスム、チック	1	パーキンソン病	
2	ジストニア	2	薬物性パーキンソン症候群	
3	痙性斜頸、Meige 症候群、書痙	3	進行性核上性麻痺	
4	瀬川病	4	線条体黒質変性症	
5	本態性振戦	5	大脳皮質基底核変性症	
6	進行性ミオクローヌステんかん	6	Hallervorden-Spatz 病	
7	Cherry-red spot myoclonus 症候群	7	淡蒼球黒質ルイ体委縮症 (DRPLA)	
8	MERRF	8	びまん性レビー小体病	
9	Restless legs 症候群	9	Huntington 病	
10	脊髄小脳変性症	10	有棘赤血球舞踏病	
11	孤発性皮質小脳委縮症	11	McLeod 症候群	
12	多系統委縮症	12	運動ニューロン疾患 (ALS)	
13	Shy-Drager 症候群	13	Alzheimer 病、Pic 病	
14	前期のまとめ (1)	14	後期のまとめ (1)	
15	前期のまとめ (2)	15	後期のまとめ (2)	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	免疫性神経疾患特論		必修/選択	必修	
担当教員	白石 眞	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	神経疾患における免疫異常の臨床的意義を学ぶ				
講義計画	免疫異常と関連のある神経疾患を通して病態を理解し、診断・治療法を検討する入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある				
達成目標	1.各神経疾患について免疫異常の観点から病態を説明できる 2.各神経疾患の免疫学的診断ならびに治療計画を作成できる				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を学び、研究テーマの発想、仮説を見出す。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	多発性硬化症		1	CNS ループス	
2	同心円硬化症		2	多発性単神経炎	
3	進行性多巣性白質脳症		3	神経サルコイドーシス	
4	散在性壊死性白質脳症		4	神経 Behcet 病	
5	急性散在性脳脊髄炎		5	Wegener 肉芽腫症	
6	急性炎症性脱髄性多発ニューロパチー		6	AIDS	
7	Fisher 症候群		7	Isaacs 症候群	
8	M 蛋白血症に伴う多発ニューロパチー		8	Stiffman 症候群	
9	重症筋無力症		9	HAM	
10	多発性筋炎/皮膚筋炎		10	テンシロンテストの実施と評価	
11	Lambert-Eaton 筋無力症候群		11	免疫学的検査の指示と評価	
12	辺縁系脳炎		12	免疫学的疾患の画像診断	
13	亜急性ニューロパチー		13	免疫系の機能、病態生理	
14	前期のまとめ (1)		14	後期のまとめ (1)	
15	前期のまとめ (2)		15	後期のまとめ (2)	

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	神経症候学特論		必修/選択	必修
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年(2年時でも可)	
テーマと目的	神経疾患の局所診断における神経症候学的アプローチについて学ぶ 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある			
講義計画	局所診断学の意義を神経放射線学的診断と対比させて理解する			
達成目標	1.神経症候学的観点から各疾患の局所診断ができる 2.神経放射線学的診断と神経症候学とを対比して病態を説明できる			
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を涵養し、研究開発に資する unmet needs を見出す。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	前頭葉症状のとらえ方	1	症候学症例検討 (1)	
2	頭頂葉症状のとらえ方	2	症候学症例検討 (2)	
3	側頭葉症状のとらえ方	3	症候学症例検討 (3)	
4	後頭葉症状のとらえ方	4	症候学症例検討 (4)	
5	錐体路徴候	5	症候学症例検討 (5)	
6	小脳失調	6	症候学症例検討 (6)	
7	筋委縮の分布	7	症候学症例検討 (7)	
8	感覚障害のとらえ方	8	症候学症例検討 (8)	
9	認知機能のとらえ方	9	症候学症例検討 (9)	
10	離断症候群	10	症候学症例検討 (10)	
11	失認	11	症候学症例検討 (11)	
12	失行	12	症候学症例検討 (12)	
13	失語	13	症候学症例検討 (13)	
14	前期のまとめ (1)	14	後期のまとめ (1)	
15	前期のまとめ (2)	15	後期のまとめ (2)	

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	神経治療学特論 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	秋山 久尚	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	神経疾患の治療法に関する最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ				
講義計画	種々の基本的神経疾患例を通して病態に適した治療法を検討する 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある				
達成目標	1.基本的な神経疾患の治療法を論理的に説明できる 2.基本的な神経疾患について病態に基づいた治療計画を作成できる				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	各種神経疾患の治療法に関する基礎知識をもち、最新の知識も適切に論じることができる。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	抗脳浮腫療法		1	ガンマグロブリン大量静注療法	
2	抗血小板療法		2	血漿交換療法	
3	抗凝固療法		3	免疫吸着療法	
4	血栓溶解療法		4	リンパ球除去療法	
5	抗てんかん薬		5	全身放射線照射療法	
6	てんかんの外科適応		6	神経筋接合部作用薬	
7	抗パーキンソン病薬		7	重症筋無力症の手術適応	
8	振戦、異常運動治療薬		8	頭痛治療薬、鎮痛薬	
9	パーキンソン病の外科適応		9	自律神経作用薬	
10	抗痙縮薬、筋弛緩薬		10	抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬	
11	抗菌薬、抗ウイルス薬		11	抗精神病薬	
12	ステロイドパルス療法		12	抗めまい薬	
13	免疫抑制療法		13	排尿障害治療薬	
14	前期のまとめ (1)		14	後期のまとめ (1)	
15	前期のまとめ (2)		15	後期のまとめ (2)	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	神経治療学特論 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	神経疾患の治療法に関する最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ				
講義計画	種々の基本的神経疾患例を通して病態に適した治療法を検討する 特に最新の EBM に基づく治療法を検討する				
達成目標	1.基本的な神経疾患の治療法を論理的に説明できる 2.基本的な神経疾患について病態に基づいた治療計画を作成できる				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を涵養し、研究開発に資する unmet needs を見出す。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内容	(出席Ⓞ)
1	症例検討、EBM		1	症例検討、EBM	
2	症例検討、EBM		2	症例検討、EBM	
3	症例検討、EBM		3	症例検討、EBM	
4	症例検討、EBM		4	症例検討、EBM	
5	症例検討、EBM		5	症例検討、EBM	
6	症例検討、EBM		6	症例検討、EBM	
7	症例検討、EBM		7	症例検討、EBM	
8	症例検討、EBM		8	症例検討、EBM	
9	症例検討、EBM		9	症例検討、EBM	
10	症例検討、EBM		10	症例検討、EBM	
11	症例検討、EBM		11	症例検討、EBM	
12	症例検討、EBM		12	症例検討、EBM	
13	症例検討、EBM		13	症例検討、EBM	
14	前期のまとめ (1)		14	後期のまとめ (1)	
15	前期のまとめ (2)		15	後期のまとめ (2)	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	神経放射線学特論		必修/選択	必修
担当教員	白石 眞	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	1 単位 (通年、第2,4,5週)	履修年次	1年(2年時でも可)	
テーマと目的	神経放射線学の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある			
講義計画	種々の基本的神経疾患を通して神経放射線学的診断法を検討する			
達成目標	1.基本的な神経疾患について神経放射線学的に病態を論理的に説明できる 2.基本的な神経疾患について病態に基づいた神経放射線学的診断計画を作成できる			
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を学び、研究テーマの発想、仮説を見出す。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	頭蓋、頸椎、胸椎、腰仙椎単純 X 線	1	神経放射線学的検査症例検討 (1)	
2	X 線 CT スキャン	2	神経放射線学的検査症例検討 (2)	
3	脳血管撮影法	3	神経放射線学的検査症例検討 (3)	
4	MRA、3D-CTA	4	神経放射線学的検査症例検討 (4)	
5	MRI 拡散強調画像と ADCmap	5	神経放射線学的検査症例検討 (5)	
6	MRI T1、T2、FLAIR、T2*、造影法	6	神経放射線学的検査症例検討 (6)	
7	MRS	7	神経放射線学的検査症例検討 (7)	
8	SPECT と PET	8	神経放射線学的検査症例検討 (8)	
9	Functional MRI	9	神経放射線学的検査症例検討 (9)	
10	頸動脈エコー検査	10	神経放射線学的検査症例検討 (10)	
11	経頭蓋ドプラー検査	11	神経放射線学的検査症例検討 (11)	
12	経食道心エコー検査	12	神経放射線学的検査症例検討 (12)	
13	下肢静脈エコー検査	13	神経放射線学的検査症例検討 (13)	
14	123I-MIBG 心筋シンチグラフィ	14	後期のまとめ (1)	
15	前期のまとめ	15	後期のまとめ (2)	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	神経疾患特殊診断学実習		必修/選択	必修
担当教員	秋山 久尚	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	1単位 (通年・隔週)	履修年次	1年(2年時でも可)	
テーマと目的	神経疾患の診断に用いられる特殊検査の実技を学ぶ			
講義計画	基本的診断法について実技実習を行う			
達成目標	1.神経内科医として必須の基本的診断技術の意義を説明できる 2.神経内科医が行う特殊検査を実施できる			
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経変性疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	Schellong 試験とヘッドアップティルト	1	10-20 法の原理と誘導法	
2	Aschner 試験、寒冷昇圧試験	2	Artifact と脳波の区別	
3	嚥下機能検査	3	Artifact を除く方法	
4	排尿機能検査	4	EEG による Sleep stage の識別	
5	薬物瞳孔検査	5	脳波の左右差の判別	
6	MCV,SCV、終末潜時の測定と解釈	6	年齢による脳波の違い	
7	Inching 法、Conduction block	7	Sharp wave, spike, spike and wave	
8	F 波と H 波	8	三相波と代謝性脳症	
9	M 波の temporal dispersion	9	PSD、PLEDS	
10	Waning と waxing	10	磁気刺激による神経生理学的検査	
11	Single fiber EMG	11	眼振図	
12	SEP、SSEP	12	電気生理学的観点からみた症例検討	
13	ABR、VEP	13	電気生理学報告書の作成	
14	P300	14	筋生検	
15	前期のまとめ	15	神経生検	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	内科学特論		必修/選択	必修
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	1単位 (通年、月1回2時間)	履修年次	1年(2年時でも可)	
テーマと目的	内科疾患の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ			
講義計画	各臓器別内科から提示された内科疾患の最新の知識を整理し、内科的診断治療のアプローチについて理解する			
達成目標	1. 個々の内科疾患の概念、病態を説明できる 2. 疾患概念の変化をもたらした研究成果の概要を説明できる			
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を涵養し、研究開発に資する unmet needs を見出す。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	臓器別内科の最新知識 (1)	1	臓器別内科の最新知識 (16)	
2	臓器別内科の最新知識 (2)	2	臓器別内科の最新知識 (17)	
3	臓器別内科の最新知識 (3)	3	臓器別内科の最新知識 (18)	
4	臓器別内科の最新知識 (4)	4	臓器別内科の最新知識 (19)	
5	臓器別内科の最新知識 (5)	5	臓器別内科の最新知識 (20)	
6	臓器別内科の最新知識 (6)	6	臓器別内科の最新知識 (21)	
7	臓器別内科の最新知識 (7)	7	臓器別内科の最新知識 (22)	
8	臓器別内科の最新知識 (8)	8	臓器別内科の最新知識 (23)	
9	臓器別内科の最新知識 (9)	9	臓器別内科の最新知識 (24)	
10	臓器別内科の最新知識 (10)	10	臓器別内科の最新知識 (25)	
11	臓器別内科の最新知識 (11)	11	臓器別内科の最新知識 (26)	
12	臓器別内科の最新知識 (12)	12	臓器別内科の最新知識 (27)	
13	臓器別内科の最新知識 (13)	13	臓器別内科の最新知識 (28)	
14	臓器別内科の最新知識 (14)	14	臓器別内科の最新知識 (29)	
15	臓器別内科の最新知識 (15)	15	臓器別内科の最新知識 (30)	

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	神経病理学・神経遺伝学特論		必修/選択	必修
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年(2年時でも可)	
テーマと目的	神経病理学的見地から神経疾患の分類、病態を学ぶ			
講義計画	種々の基本的神経疾患の疾患概念と神経病理学的特徴、類縁疾患の病態について、症例を中心に学ぶ			
達成目標	1.基本的な神経疾患について神経病理学的特徴を説明できる 2.神経病理学的観点から当該疾患ならびに類縁疾患の分類を説明できる			
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する基礎的知識を学び、研究テーマの発想、仮説を見出す。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	Informed consent とカウンセリング	1	てんかん、片頭痛の遺伝	
2	MELAS,MERRF,Leber 病	2	Alzheimer 病	
3	トリプレットリピート病の概念	3	Fronto-temporal dementia	
4	脆弱 X 症候群	4	Wilson 病	
5	筋強直性ジストロフィー	5	Menkes 病	
6	Huntington 病	6	Ceruloplasmin 欠損症	
7	球脊髄性筋萎縮症	7	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)	
8	脊髄小脳変性症 1 型 (SCA1)	8	Werdnig-Hoffmann 病/Kugelberg-Welander 病	
9	SCA2	9	Charcot-Marie-Tooth 病(1 型 2 型)	
10	Machado-Joseph 病 (SCA3)	10	家族性ポリアミロイドニューロパチー	
11	SCA6	11	筋ジストロフィー	
12	SCA7	12	先天性非進行性ミオパチー	
13	DRPLA	13	糖原病、代謝異常症	
14	Friedreich 失調症	14	白質ジストロフィー	
15	前期のまとめ	15	CADASIL	

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	臨床神経病学演習 (1)		必修/選択	必修	
担当教員	白石 眞	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年(2年時でも可)		
テーマと目的	神経疾患の問題点を自ら発見し、その解決方法、探究方法を学ぶ				
講義計画	神経疾患の問題点を自ら発見し、研究テーマとする。講師との討議の中で科学的アプローチの具体的方法を身につける				
達成目標	1.自ら研究テーマを発見できる 2.問題解決に向けて、仮説を立てこれを検証する臨床的方法を体得する				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	自ら考え、問題を解決する経過を総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床神経病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	臨床演習 (1)		1	臨床演習 (1)	
2	臨床演習 (1)		2	臨床演習 (1)	
3	臨床演習 (1)		3	臨床演習 (1)	
4	臨床演習 (1)		4	臨床演習 (1)	
5	臨床演習 (1)		5	臨床演習 (1)	
6	臨床演習 (1)		6	臨床演習 (1)	
7	臨床演習 (1)		7	臨床演習 (1)	
8	臨床演習 (1)		8	臨床演習 (1)	
9	臨床演習 (1)		9	臨床演習 (1)	
10	臨床演習 (1)		10	臨床演習 (1)	
11	臨床演習 (1)		11	臨床演習 (1)	
12	臨床演習 (1)		12	臨床演習 (1)	
13	臨床演習 (1)		13	臨床演習 (1)	
14	臨床演習 (1)		14	臨床演習 (1)	
15	臨床演習 (1)		15	臨床演習 (1)	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	臨床神経病学演習 (2)		必修/選択	必修	
担当教員	山野 嘉久	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年(2年時でも可)		
テーマと目的	神経疾患の問題点を自ら発見し、その解決方法、探究方法を学ぶ				
講義計画	神経疾患の問題点を自ら発見し、研究テーマとする。講師との討議の中で科学的アプローチの具体的方法を身につける				
達成目標	1.自ら研究テーマを発見できる 2.問題解決に向けて、仮説を立てこれを検証する臨床的方法を体得する				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	自ら考え、問題を解決する経過を総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経疾患に対する unmet needs の解消に向けた研究方法を身に着ける。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	臨床演習 (2)		1	臨床演習 (2)	
2	臨床演習 (2)		2	臨床演習 (2)	
3	臨床演習 (2)		3	臨床演習 (2)	
4	臨床演習 (2)		4	臨床演習 (2)	
5	臨床演習 (2)		5	臨床演習 (2)	
6	臨床演習 (2)		6	臨床演習 (2)	
7	臨床演習 (2)		7	臨床演習 (2)	
8	臨床演習 (2)		8	臨床演習 (2)	
9	臨床演習 (2)		9	臨床演習 (2)	
10	臨床演習 (2)		10	臨床演習 (2)	
11	臨床演習 (2)		11	臨床演習 (2)	
12	臨床演習 (2)		12	臨床演習 (2)	
13	臨床演習 (2)		13	臨床演習 (2)	
14	臨床演習 (2)		14	臨床演習 (2)	
15	臨床演習 (2)		15	臨床演習 (2)	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	神経内科学演習 (1)		必修/選択	選択	
担当教員	秋山 久尚	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	1単位 (前期)	履修年次	2年		
テーマと目的	神経内科学の専門医レベルの知識を臨床の症例を通じてまとめ、現状と医療が直面する課題について理解する。				
講義計画	神経疾患のテーマごとに、専門医レベルの知識を講師との討議の中で確認し、同疾患の現状と課題を自ら発見する。				
達成目標	1. 専門医レベルの知識の再確認を行う 2. 神経疾患が抱える問題点と最新の EBM をもとに研究途上の課題について学ぶ				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	専門医レベルの知識と、自ら考え、問題を解決する経過を総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	各種神経疾患に対して EBM に基づいた専門的な知識をもち、診断から治療まで自ら施行し解決できる。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	神経内科学演習 (1)		1		
2	神経内科学演習 (1)		2		
3	神経内科学演習 (1)		3		
4	神経内科学演習 (1)		4		
5	神経内科学演習 (1)		5		
6	神経内科学演習 (1)		6		
7	神経内科学演習 (1)		7		
8	神経内科学演習 (1)		8		
9	神経内科学演習 (1)		9		
10	神経内科学演習 (1)		10		
11	神経内科学演習 (1)		11		
12	神経内科学演習 (1)		12		
13	神経内科学演習 (1)		13		
14	神経内科学演習 (1)		14		
15	神経内科学演習 (1)		15		

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	神経内科学演習 (2)		必修/選択	選択	
担当教員	秋山 久尚	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	1単位 (前期)	履修年次	2年		
テーマと目的	神経内科学の専門医レベルの知識を臨床の症例を通じてまとめ、現状と医療が直面する課題について理解する。				
講義計画	神経疾患のテーマごとに、専門医レベルの知識を講師との討議の中で確認し、同疾患の現状と課題を自ら発見する。				
達成目標	1. 専門医レベルの知識の再確認を行う 2. 神経疾患が抱える問題点と最新の EBM をもとに研究途上の課題について学ぶ				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	各種神経疾患に対してEBMに基づいた専門的な知識をもち、診断から治療まで自ら施行し解決できる。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	神経内科学演習 (2)		1		
2	神経内科学演習 (2)		2		
3	神経内科学演習 (2)		3		
4	神経内科学演習 (2)		4		
5	神経内科学演習 (2)		5		
6	神経内科学演習 (2)		6		
7	神経内科学演習 (2)		7		
8	神経内科学演習 (2)		8		
9	神経内科学演習 (2)		9		
10	神経内科学演習 (2)		10		
11	神経内科学演習 (2)		11		
12	神経内科学演習 (2)		12		
13	神経内科学演習 (2)		13		
14	神経内科学演習 (2)		14		
15	神経内科学演習 (2)		15		

2026 年度講義シラバス (15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	神経内科学演習 (3)		必修/選択	選択	
担当教員	秋山 久尚	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	1単位 (前期)	履修年次	2年		
テーマと目的	神経内科学の専門医レベルの知識を臨床の症例を通じてまとめ、現状と医療が直面する課題について理解する。				
講義計画	神経疾患のテーマごとに、専門医レベルの知識を講師との討議の中で確認し、同疾患の現状と課題を自ら発見する。				
達成目標	1. 専門医レベルの知識の再確認を行う 2. 神経疾患が抱える問題点と最新の EBM をもとに研究途上の課題について学ぶ				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	専門医レベルの知識と、自ら考え、問題を解決する経過を総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	各種神経疾患に対して EBM に基づいた専門的な知識をもち、診断から治療まで自ら施行し解決できる。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	神経内科学演習 (3)		1		
2	神経内科学演習 (3)		2		
3	神経内科学演習 (3)		3		
4	神経内科学演習 (3)		4		
5	神経内科学演習 (3)		5		
6	神経内科学演習 (3)		6		
7	神経内科学演習 (3)		7		
8	神経内科学演習 (3)		8		
9	神経内科学演習 (3)		9		
10	神経内科学演習 (3)		10		
11	神経内科学演習 (3)		11		
12	神経内科学演習 (3)		12		
13	神経内科学演習 (3)		13		
14	神経内科学演習 (3)		14		
15	神経内科学演習 (3)		15		

2026 年度講義シラバス (16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	神経内科学演習 (4)		必修/選択	選択	
担当教員	秋山 久尚	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	1単位 (後期)	履修年次	2年		
テーマと目的	神経内科学の専門医レベルの知識を臨床の症例を通じてまとめ、現状と医療が直面する課題について理解する。				
講義計画	神経疾患のテーマごとに、専門医レベルの知識を講師との討議の中で確認し、同疾患の現状と課題を自ら発見する。				
達成目標	1. 専門医レベルの知識の再確認を行う 2. 神経疾患が抱える問題点と最新の EBM をもとに研究途上の課題について学ぶ				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	専門医レベルの知識と、自ら考え、問題を解決する経過を総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	各種神経疾患に対して EBM に基づいた専門的な知識をもち、診断から治療まで自ら施行し解決できる。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1			1	神経内科学演習 (4)	
2			2	神経内科学演習 (4)	
3			3	神経内科学演習 (4)	
4			4	神経内科学演習 (4)	
5			5	神経内科学演習 (4)	
6			6	神経内科学演習 (4)	
7			7	神経内科学演習 (4)	
8			8	神経内科学演習 (4)	
9			9	神経内科学演習 (4)	
10			10	神経内科学演習 (4)	
11			11	神経内科学演習 (4)	
12			12	神経内科学演習 (4)	
13			13	神経内科学演習 (4)	
14			14	神経内科学演習 (4)	
15			15	神経内科学演習 (4)	

2026 年度講義シラバス (17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	神経内科学演習 (5)		必修/選択	選択	
担当教員	秋山 久尚	担当教員連絡先	内線 3150		
単位数	1単位 (後期)	履修年次	2年		
テーマと目的	神経内科学の専門医レベルの知識を臨床の症例を通じてまとめ、現状と医療が直面する課題について理解する。				
講義計画	神経疾患のテーマごとに、専門医レベルの知識を講師との討議の中で確認し、同疾患の現状と課題を自ら発見する。				
達成目標	1. 専門医レベルの知識の再確認を行う 2. 神経疾患が抱える問題点と最新の EBM をもとに研究途上の課題について学ぶ				
教科書・参考書	医学生・研修医のための脳神経内科				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間				
成績評価法	専門医レベルの知識と、自ら考え、問題を解決する経過を総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	各種神経疾患に対して EBM に基づいた専門的な知識をもち、診断から治療まで自ら施行し解決できる。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	神経内科学演習 (5)	
2			2	神経内科学演習 (5)	
3			3	神経内科学演習 (5)	
4			4	神経内科学演習 (5)	
5			5	神経内科学演習 (5)	
6			6	神経内科学演習 (5)	
7			7	神経内科学演習 (5)	
8			8	神経内科学演習 (5)	
9			9	神経内科学演習 (5)	
10			10	神経内科学演習 (5)	
11			11	神経内科学演習 (5)	
12			12	神経内科学演習 (5)	
13			13	神経内科学演習 (5)	
14			14	神経内科学演習 (5)	
15			15	神経内科学演習 (5)	

【 48-7-① 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>清水 直樹</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>小児科学とは、小児の保健・健康を研究することを基礎とし、種々の疾病を有する患児の診断・治療を研究する臨床科学である。小児科学を研究するためには、小児の正常な発育・発達・栄養はじめ各種疾病の病理・病態の十分な見識に加え、高度化した医療にともなう侵襲的医療機器が装着された特異な状態における病態生理をも、正しく理解しようとする姿勢が欠かせない。複雑化する医療のなかで <i>Children Centered</i> の立場からの生命倫理観や、<i>Advocacy</i> の素養も求められる。臨床としては、小児救急・集中治療の急性期から始まり、在宅・緩和・移行期医療の慢性期までを見すえた小児総合診療の指向性を基礎として、臓器系統別専門の道を志すことになる。研究としては、<i>Breakthrough</i> となりうる新規性の高い研究を、臨床現場からの動機づけをもって遂行し、成果を論文として纏め上げる課程を通じて自立的な研究遂行能力を涵養し、後続の研究指導ができるようになることを目標とする。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期：(集中治療)ヘリウムと超高頻度振動換気、ECMO/蘇生研究、エクソーム死因検索、搬送遠隔医療電子化、(新生児)早産低出生体重児の薬物動態と生理的パラメータ研究、生体情報ビッグデータ解析、(循環器)妊娠中投薬による心筋収縮蛋白と小胞体構成蛋白発現変化、新生児左房機能、川崎病新規治療 2. 神経遺伝：長時間ビデオ脳波検査の有用性、抗てんかん薬の血中濃度に関する研究 3. 感染免疫：住民健康改善に資するエビデンス創出を目指した多地域コホート研究(LIFE study)、Baked egg を用いた食物アレルギー早期介入研究 4. 血液腫瘍：血友病患者の QOL の実態調査、ステロイドの抗血栓性の機序解明、FVIIa の滑膜炎抑制効果、小児リンパ腫に対する治療診断・バイオマーカー開発 5. 総合：(救急、虐待、在宅、移行期、緩和)小児救急・災害時 AI トリアージ、小児外傷鎮静、虐待予測診断、(腎臓・消化器・代謝・内分泌)各領域に関する研究
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>小児科学は非常に幅の広い学問分野である。対象は新生児から学童期・思春期にまで及んでいる。精神、運動面で発達変化していくことが大きな特徴であり、昨今は成人への移行期医療も大きな課題となりつつある。小児科を学ぶ準備段階として、正常な新生児から学童期にわたる発育・発達を、学習しておくことが前提である。さらに、高度医療機器・在宅緩和医療・生命倫理など、幅広い知見を柔軟に身につける姿勢を養うことが大切である。</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	新生児学 I		必修/選択	必修
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	正常新生児の適応過程の理解			
講義計画	正常新生児症例を通して出生後の適応生理を理解し、実際に個々の管理法を体得する。 母親の泌乳過程と心理を理解し、よりよいコミュニケーション法を体得する。			
達成目標	1. 正常新生児の適応過程を説明できる。 2. 新生児低血糖、新生児黄疸、水分電解質、酸-塩基平衡管理法を計画できる。 3. 母乳育児支援のしくみを説明できる。			
教科書・参考書	母乳育児成功のための10カ条のエビデンス			
準備学習(予習・復習・時間)	正常新生児の基礎知識を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	境界領域の症例シミュレーションに基づく討議内容の評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)			
1	新生児の呼吸適応・経膈分娩での呼吸適応			
2	帝王切開での呼吸適応・新生児一過性多呼吸			
3	新生児の循環適応・動脈管の意義・卵円孔の意義			
4	胎盤循環から肺循環へ・新生児特発性肺高血圧症			
5	新生児体温調節・分娩室での体温低下			
6	出生直後の skin to skin			
7	新生児の血液・貧血と多血			
8	母体出血による影響			
9	新生児のエネルギー代謝・新生児低血糖のしくみ・新生児低血糖への対処			
10	新生児黄疸・光線療法の適応			
11	腸肝循環の理解			
12	新生児飢餓と吸啜意欲・体重減少と脱水の鑑別			
13	NRP にもとづく新生児蘇生法・新生児仮死の病態理解			
14	母乳栄養・完全母乳栄養と母子同室			
15	乳業メーカー関与が母乳育児阻害因子となる・母乳分泌遅延に対する対処法			

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	新生児学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	小町 詩織	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新生児呼吸障害の病態の理解			
講義計画	種々の新生児呼吸障害の成因・病態・経過・診断・管理法について			
達成目標	1. 新生児期に特有な呼吸障害について病態を踏まえて説明できる。 2. 新生児呼吸管理法を自ら行うことができる。			
教科書・参考書	Assisted Ventilation of the Neonate			
準備学習(予習・復習・時間)	新生児特有の呼吸状態を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	筆記・口頭試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1		1	胎児期の呼吸器の発育・肺成熟度評価	
2		2	RDS・人工サーファクタント	
3		3	TTN・MAS	
4		4	空気遮断・無呼吸発作	
5		5	慢性肺疾患・肺の形成異常	
6		6	先天性食道閉鎖・横隔膜ヘルニア	
7		7	Dry lung syndrome・呼吸機能評価	
8		8	新生児期管内挿管	
9		9	IMV・HFO・様々な換気法(PTV 等)	
10		10	Lung protective policy・人工換気と循環	
11		11	気道損傷の予防・気道吸引法・肺理学療法	
12		12	体位性ドレナージ・気管切開	
13		13	NO 吸入療法・ECMO	
14		14	呼吸器疾患と薬物療法	
15		15	テオフィリン・ステロイド吸入療法	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	一般小児科学 I		必修/選択	必修	
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児の栄養、小児保健を理解できる。				
講義計画	小児の栄養、栄養所要量、小児保健全体について学習する。				
達成目標	1. 小児の栄養、栄養所要量について理解する。 2. 小児保健全体、学校保健について理解する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期それぞれの時期での必要な栄養について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	小児栄養の意義		1		
2	栄養素の代謝:糖質代謝		2		
3	栄養素の代謝:脂質代謝		3		
4	栄養素の代謝:蛋白質代謝		4		
5	小児の栄養所要量:水分		5		
6	小児の栄養所要量:エネルギー		6		
7	小児の栄養所要量:蛋白質		7		
8	小児の栄養所要量:脂質・糖質		8		
9	ビタミン欠乏症・過剰症		9		
10	新生児マススクリーニング		10		
11	乳幼児健康調査・健康診断		11		
12	学校保健		12		
13	心臓検診		13		
14	腎臓検診		14		
15	小児保健統計		15		

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	一般小児科学Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	川口 敦	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児の成長・発達・成熟および発育の概念と定義を理解する。				
講義計画	小児期特有の発達、成長、発育を理解した上で、病的な状態を学習する。				
達成目標	1. 基本的な小児の発育に関する因子を理解できる。 2. 基本的な小児の身体構成と年齢的变化を理解、発表できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	正常な小児の成長、発育について学習しておく。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	発育期の分類	
2			2	発育の一般原則	
3			3	遺伝因子・環境因子	
4			4	胎児の発育	
5			5	成長:体重・身長・頭囲	
6			6	歯の成長	
7			7	骨年齢	
8			8	体脂肪	
9			9	体水分量	
10			10	骨格筋	
11			11	成長の評価:身体計測	
12			12	発育指数	
13			13	成長曲線	
14			14	成長速度曲線	
15			15	青年期の身長・体重の変化	

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児血液学 I		必修/選択	必修	
担当教員	長江千愛	担当教員連絡先	PHS 71-8108		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づき小児の血液疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の小児の血液疾患の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な小児の血液疾患について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の血液疾患について病態に基づいた治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の血液疾患の特徴を学習準備する。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児科血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	造血のしくみ - 1		1	止血のしくみ - 1	
2	造血のしくみ - 2		2	止血のしくみ - 2	
3	造血のしくみ - 3		3	止血のしくみ - 3	
4	造血のしくみ - 4		4	止血のしくみ - 4	
5	造血のしくみ - 5		5	止血のしくみ - 5	
6	小児の赤血球系疾患 - 1		6	小児の出血性疾患 - 1	
7	小児の赤血球系疾患 - 2		7	小児の出血性疾患 - 2	
8	小児の赤血球系疾患 - 3		8	小児の出血性疾患 - 3	
9	小児の赤血球系疾患 - 4		9	小児の出血性疾患 - 4	
10	小児の赤血球系疾患 - 5		10	小児の出血性疾患 - 5	
11	小児の赤血球系疾患 - 6		11	小児の出血性疾患 - 6	
12	小児の赤血球系疾患 - 7		12	小児の血栓性疾患 - 1	
13	小児の赤血球系疾患 - 8		13	小児の血栓性疾患 - 2	
14	小児の赤血球系疾患 - 9		14	小児の血栓性疾患 - 3	
15	小児の赤血球系疾患 - 10		15	小児の血栓性疾患 - 4	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児神経疾患		必修/選択	必修
担当教員	岩崎俊之	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する			
講義計画	小児の神経疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。			
達成目標	1. 基本的な小児神経疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	正常な神経発達について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児神経疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	小児の神経系の発達 - 1	1	小児のけいれん性疾患 - 1 (慢性疾患)	
2	小児の神経系の発達 - 2	2	小児のけいれん性疾患 - 2	
3	小児の神経系の発達 - 3	3	小児のけいれん性疾患 - 3	
4	小児の神経系の発達 - 4	4	小児のけいれん性疾患 - 4	
5	小児の神経系の発達 - 5	5	小児のけいれん性疾患 - 5	
6	小児の神経系の発達 - 6	6	神経皮膚症候群 - 1	
7	小児のけいれん性疾患 - 1 (急性疾患)	7	神経皮膚症候群 - 2	
8	小児のけいれん性疾患 - 2	8	神経皮膚症候群 - 3	
9	小児のけいれん性疾患 - 3	9	神経皮膚症候群 - 4	
10	小児のけいれん性疾患 - 4	10	神経皮膚症候群 - 5	
11	小児のけいれん性疾患 - 5	11	筋緊張低下児 - 1	
12	小児のけいれん性疾患 - 6	12	筋緊張低下児 - 2	
13	小児のけいれん性疾患 - 7	13	筋緊張低下児 - 3	
14	小児のけいれん性疾患 - 8	14	筋緊張低下児 - 4	
15	小児のけいれん性疾患 - 9	15	筋緊張低下児 - 5	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	感染症学		必修/選択	必修	
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な感染症の病態を理解する				
講義計画	種々の基本的な感染症疾患を病態を通して理解し治療法を検討する				
達成目標	1. 基本的な感染症疾患について病態を理解し、論理的に説明できる 2. 基本的な感染症疾患の病態に基づいた治療を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な感染症について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児感染症学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	感染症概論		1		
2	臓器別感染症Ⅰ (中枢神経、呼吸器)		2		
3	臓器別感染症Ⅱ (消化器、肝胆道系)		3		
4	臓器別感染症Ⅲ (循環器、腎泌尿器)		4		
5	臓器別感染症Ⅳ (運動器、皮膚、その他)		5		
6	特殊な状況下での感染症		6		
7	細菌感染症Ⅰ		7		
8	細菌感染症Ⅱ		8		
9	細菌感染症Ⅲ		9		
10	細菌感染症Ⅳ		10		
11	ウイルス感染症Ⅰ		11		
12	ウイルス感染症Ⅱ		12		
13	ウイルス感染症Ⅲ		13		
14	ウイルス感染症Ⅳ		14		
15	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア		15		

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	ワクチン学		必修/選択	必修	
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	各種予防接種(ワクチン)について理解する				
講義計画	各種予防接種(ワクチン)の効果、副反応等を理解し接種計画を立てる				
達成目標	1.各種予防接種(ワクチン)の接種時期、効果、副反応等を説明できる 2.ワクチンの基本的な手技ができる。基礎疾患のある児への対応について説明できる。				
教科書・参考書	予防接種の手引き(近代出版)				
準備学習(予習・復習・時間)	予防接種とは何かを学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	ワクチンの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	予防接種の概要	
2			2	予防接種のリスクマネジメント	
3			3	疾患とワクチン ① (麻疹)	
4			4	疾患とワクチン ② (風疹)	
5			5	疾患とワクチン ③ (DTP)	
6			6	疾患とワクチン ④ (ポリオ)	
7			7	疾患とワクチン ⑤ (BCG)	
8			8	疾患とワクチン ⑥ (日本脳炎)	
9			9	疾患とワクチン ⑦ (インフルエンザ)	
10			10	疾患とワクチン ⑧ (ムンプス)	
11			11	疾患とワクチン ⑨ (水痘)	
12			12	疾患とワクチン ⑩ (A 型、B 型肝炎)	
13			13	疾患とワクチン ⑪ (Hib、肺炎球菌、他)	
14			14	基礎疾患のある児への予防接種	
15			15	予防接種と関連する法律	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児循環器病学 I		必修/選択	必修	
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
達成目標	1. チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 非チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	先天性心疾患について学習しておく。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	チアノーゼ性心疾患の診断 1		1		
2	チアノーゼ性心疾患の診断 2		2		
3	チアノーゼ性心疾患の診断 3		3		
4	チアノーゼ性心疾患の管理 1		4		
5	チアノーゼ性心疾患の管理 2		5		
6	チアノーゼ性心疾患の管理 3		6		
7	非チアノーゼ性心疾患の診断 1		7		
8	非チアノーゼ性心疾患の診断 2		8		
9	非チアノーゼ性心疾患の診断 3		9		
10	非チアノーゼ性心疾患の診断 4		10		
11	非チアノーゼ性心疾患の診断 5		11		
12	非チアノーゼ性心疾患の管理 1		12		
13	非チアノーゼ性心疾患の管理 2		13		
14	非チアノーゼ性心疾患の管理 3		14		
15	非チアノーゼ性心疾患の管理 4		15		

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児循環器病学Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	小児期の不整脈および後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
達成目標	1. 小児期不整脈の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児の循環器疾患の基礎を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	新生児不整脈総論 1	
2			2	新生児不整脈総論 2	
3			3	新生児不整脈各論 1	
4			4	新生児不整脈各論 2	
5			5	小児期不整脈総論 1	
6			6	小児期不整脈総論 2	
7			7	小児期不整脈各論 1	
8			8	小児期不整脈各論 2	
9			9	後天性心疾患総論 1	
10			10	後天性心疾患総論 2	
11			11	後天性心疾患各論 1	
12			12	後天性心疾患各論 2	
13			13	後天性心疾患各論 3	
14			14	後天性心疾患各論 4	
15			15	後天性心疾患各論 5	

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児内分泌・代謝学 I		必修/選択	必修
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2単位 (前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	小児期に発症する内分泌・代謝疾患の基礎的事項と問題点を理解する			
講義計画	小児における内分泌・代謝疾患の病態を理解し、管理方法について検討する			
達成目標	1. 基本的な内分泌・代謝疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な内分泌・代謝疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の代謝、内分泌疾患にはどのようなものがあるか学習しておく。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	総論 1: ホルモンとその作用について	1	各論 10: 性分化異常症	
2	総論 2: 小児の成長とホルモンの関係	2	症例検討会①	
3	総論 3: マス・スクリーニングについて	3	各論 11: 水・電解質異常	
4	総論 4: 内分泌・代謝疾患と遺伝学	4	各論 12: 骨代謝異常	
5	総論 5: 負荷試験の実際	5	各論 13: 染色体・遺伝子異常疾患	
6	特集抄読会: 内分泌・代謝班	6	各論 14: 小児糖尿病の疫学・病態	
7	各論 1: 視床下部・下垂体ホルモン	7	各論 15: 1型糖尿病・2型糖尿病	
8	各論 2: 成長ホルモンと関連疾患	8	各論 16: インスリン治療・その他	
9	各論 3: 汎下垂体機能低下症	9	各論 17: 小児メタボリックシンドローム	
10	各論 4: 甲状腺ホルモンの作用と調節	10	各論 18: 高脂血症・高尿酸血症	
11	各論 5: 先天性甲状腺機能低下症	11	各論 19: 低血糖をきたす疾患	
12	各論 6: 自己免疫性甲状腺疾患	12	各論 20: 高アンモニア・乳酸血症	
13	各論 7: 副腎の構造とホルモンの作用	13	症例検討会 ②	
14	各論 8: 先天性副腎過形成症	14	総括・復習 1:	
15	各論 9: ゴナドトロピンと性腺ホルモン	15	総括・復習 2:	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児悪性腫瘍 I		必修/選択	必修	
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。				
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。				
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児に対する化学療法について修得する。 4. 化学療法の急性および慢性の合併症に対する予防と対策について修得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い悪性腫瘍を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	小児悪性腫瘍の疫学		1	小児悪性リンパ腫の疫学	
2	小児悪性腫瘍の遺伝学		2	小児悪性リンパ腫の病態	
3	小児急性リンパ性白血病の病態		3	小児悪性リンパ腫の診断	
4	小児急性リンパ性白血病の診断方法		4	小児悪性リンパ腫の治療	
5	小児急性リンパ性白血病の治療		5	小児悪性腫瘍の遺伝子診断	
6	小児急性骨髄性白血病の病態		6	小児悪性腫瘍の免疫診断	
7	小児急性骨髄性白血病の診断方法		7	小児悪性腫瘍の病理診断	
8	小児急性骨髄性白血病の治療		8	小児悪性腫瘍における細菌感染症	
9	化学療法の実際		9	小児悪性腫瘍におけるウイルス感染	
10	化学療法の急性毒性		10	小児悪性腫瘍における真菌感染症	
11	化学療法の晩期障害		11	小児悪性腫瘍患者の栄養管理	
12	小児慢性白血病の病態・診断・治療		12	小児悪性腫瘍患者の感染予防	
13	小児悪性固形腫瘍の病態		13	小児悪性腫瘍患者の輸血	
14	小児悪性固形腫瘍の診断		14	小児悪性腫瘍患者の緩和医療	
15	小児悪性固形腫瘍の治療		15	小児悪性腫瘍患者の疼痛対策	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児腎臓病学 I		必修/選択	必修
担当教員	三浦慎也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する			
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の腎臓病の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	腎臓・泌尿器の発生学 - 1		1	腎生検の適応と臨床評価 - 1
2	腎臓・泌尿器の発生学 - 2		2	腎生検の適応と臨床評価 - 2
3	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 - 1		3	腎・泌尿器感染症の診断と治療 - 1
4	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 - 2		4	腎・泌尿器感染症の診断と治療 - 2
5	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 - 3		5	検尿データが読める - 1
6	腎臓・泌尿器の正常組織 - 1		6	検尿データが読める - 2
7	腎臓・泌尿器の正常組織 - 2		7	学校検尿の判定と評価 - 1
8	腎臓疾患の病理像 - 1		8	学校検尿の判定と評価 - 2
9	腎臓疾患の病理像 - 2		9	乳幼児ARFの病態の理解 - 1
10	腎臓疾患の病理像 - 3		10	乳幼児ARFの病態の理解 - 2
11	糸球体機能と尿管機能とその検査法 - 1		11	乳幼児CRFの病態の理解 - 1
12	糸球体機能と尿管機能とその検査法 - 2		12	乳幼児CRFの病態の理解 - 2
13	小児水・電解質代謝とその異常 - 1		13	小児輸液療法の理論と実際 - 1
14	小児水・電解質代謝とその異常 - 2		14	小児輸液療法の理論と実際 - 2
15	小児水・電解質代謝とその異常 - 3		15	小児輸液療法の理論と実際 - 3

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児アレルギー学		必修/選択	必修	
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	小児アレルギー疾患(食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息)の病態、症状、治療を学習し、外来フォローの仕方、環境との関係、家族への対処を学ぶ				
講義計画	小児呼吸器の特性とアレルギーのメカニズムを理解し、各疾患の治療を理解する。				
達成目標	1. 食物アレルギーの診断、食事・栄養指導ができる。 2. アトピー性皮膚炎、気管支喘息の診断、治療ができる。 3. 外来フォロー、親の心理的負担などを理解し、家族への対処ができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期のアレルギー疾患で多いものと、アレルギーという概念を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	講義の理解度、積極性などを総合して評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児アレルギーの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内容	(出席Ⓞ)
1	アレルギーのメカニズム - 1		1	小児喘息と環境 - 1	
2	アレルギーのメカニズム - 2		2	小児喘息と環境 - 2	
3	アレルギーのメカニズム - 3		3	小児喘息の外来フォロー - 1	
4	アレルギーの検査 - 1		4	小児喘息の外来フォロー - 2	
5	アレルギーの検査 - 2		5	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン - 1	
6	食物アレルギー - 1		6	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン - 2	
7	食物アレルギー - 2		7	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン - 3	
8	アトピー性皮膚炎 - 1		8	食物アレルギーの外来フォロー - 1	
9	アトピー性皮膚炎 - 2		9	食物アレルギーの外来フォロー - 2	
10	アレルギー性鼻炎 - 1		10	One airway,one disease とは - 1	
11	アレルギー性鼻炎 - 2		11	One airway,one disease とは - 2	
12	外用薬の使用法		12	アレルギー児を持つ家族 - 1	
13	抗アレルギー薬の使用法		13	アレルギー児を持つ家族 - 2	
14	食物負荷試験の実際 - 1		14	アレルギー疾患今後の展望 - 1	
15	食物負荷試験の実際 - 2		15	アレルギー疾患今後の展望 - 2	

2026 年度講義シラバス (15)

講義コード	専攻分野		最新医学研究コース		
講義題目	小児科実習		必修/選択	必修	
担当教員	長江千愛	担当教員連絡先	PHS 71-8108		
単位数	1単位 (前期・後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児に対する実技を習得する				
講義計画	検査や手技の実技、実習を実際の検査などを通じて行う				
達成目標	必要な検査・手技を正確に、患児に負担なく実施できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児科特有の手技について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	実技の習得、到達度				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児科の知識に基づき各種実習を行い、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	小児診察法 - 1		1	乳幼児健診 - 1	
2	小児診察法 - 2		2	乳幼児健診 - 2	
3	小児診察法 - 3		3	乳幼児健診 - 3	
4	小児診察法 - 4		4	心臓カテーテル検査 - 1	
5	小児診察法 - 5		5	心臓カテーテル検査 - 2	
6	小児の採血と点滴の手技 - 1		6	心臓カテーテル検査 - 3	
7	小児の採血と点滴の手技 - 2		7	脳波所見の読み方 - 1	
8	小児の採血と点滴の手技 - 3		8	脳波所見の読み方 - 2	
9	小児の髄液採取の手技		9	脳波所見の読み方 - 3	
10	小児の骨髄液採取の手技		10	予防接種の実際 - 1	
11	小児救急 - 気管内挿管の手技		11	予防接種の実際 - 2	
12	小児救急 - 心肺蘇生法		12	予防接種の実際 - 3	
13	小児救急 - ハイムリック法		13	腎生検の実際 - 1	
14	新生児蘇生 - 1		14	腎生検の実際 - 2	
15	新生児蘇生 - 2		15	腎生検の実際 - 3	

2026 年度講義シラバス (16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児循環器病学Ⅲ		必修/選択	選択	
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	先天性心疾患の出生前診断および出生後の管理を理解する				
達成目標	1. 先天性心疾患の出生前診断について症例に基づいて説明できる。 2. 出生後の管理、治療方針を症例に基づいて計画できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な心疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	出生前診断総論 1		1		
2	出生前診断総論 2		2		
3	出生前診断各論 1		3		
4	出生前診断各論 2		4		
5	出生前診断各論 3		5		
6	出生後管理総論 1		6		
7	出生後管理総論 2		7		
8	出生後管理各論 1		8		
9	出生後管理各論 2		9		
10	出生後管理各論 3		10		
11	出生前治療総論		11		
12	出生前治療各論		12		
13	出生後治療総論		13		
14	出生後治療各論 1		14		
15	出生後治療各論 2		15		

2026 年度講義シラバス (17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	免疫学		必修/選択	選択
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	原発性免疫不全症候群の基本を理解する			
講義計画	症例を通して、原発性免疫不全症候群は易感染性を呈する症状から診断を疑い、種々の生化学検査によって確定診断へと導く			
達成目標	1. 原発性免疫不全症候群診断のアプローチができる 2. 原発性免疫不全症候群患者の感染のコントロールと治療が説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	免疫不全とは何か学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児免疫学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	原発性免疫不全症の分類	1		
2	原発性免疫不全症の診断	2		
3	原発性免疫不全症の治療	3		
4	原発性免疫不全症患者の感染コントロール	4		
5	各論 ① (複合型免疫不全症)	5		
6	各論 ② (抗体不全免疫不全症)	6		
7	各論 ③ (他に大きな欠損を付随した免疫不全症)	7		
8	各論 ④ (食細胞系異常)	8		
9	各論 ⑤ (補体因子欠損症)	9		
10	各論 ⑥ (その他の免疫不全症)	10		
11	各論 ⑦ (HIV)	11		
12	各論 ⑧ (ウイルス感染と続発性免疫不全)	12		
13	各論 ⑨ (薬物)	13		
14	自己免疫とリウマチ性疾患総論	14		
15	自己免疫とリウマチ性疾患各論	15		

2026 年度講義シラバス (18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	新生児学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	低出生体重児・早産児の管理			
講義計画	低出生体重児の総合管理について学ぶ			
達成目標	1. 適切な・輸液・栄養管理について理解する 2. 中枢神経保護について理解する 3. 親子関係について理解する 4. 適切な哺育環境の整備について理解する			
教科書・参考書	Avery,Fletcher,MacDonald:Neonatology			
準備学習(予習・復習・時間)	低出生体重児の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	口頭試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)			
1	低出生体重児の水分代謝・不感蒸泄と腎機能			
2	腎の Na 維持能力・超低出生体重児の高 K 血症			
3	母乳による低出生体重児の哺育・未熟児骨代謝性疾患の管理			
4	中心静脈カテーテル挿入法・高カロリー輸液・栄養状態の評価			
5	新生児脳障害の理解・低酸素性虚血性脳症の管理			
6	新生児頭蓋内出血への対処・低出生体重児の脳室内出血の予防			
7	脳室周囲白質軟化症			
8	中枢神経奇形への対処			
9	成熟度評価・発達評価			
10	NICU 入院児の親の心理・母子分離下の母乳育児			
11	親参加型ケアとは・タッチケア			
12	カンガルーケア			
13	NICU 環境の整備・新生児へのなだめ			
14	音環境・光環境・温度環境			
15	新生児行動評価・ストレスサイン・ポジショニング			

2026 年度講義シラバス (19)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児血液学Ⅱ		必修/選択	選択	
担当教員	山下敦己	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づき小児の輸血感染症の病態を理解する				
講義計画	種々の小児の輸血感染症の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な小児の輸血感染症について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の輸血感染症について病態に基づいた治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	輸血感染症にはどのようなものがあるか学習しておく。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	HBV - 1	
2			2	HBV - 2	
3			3	HBV - 3	
4			4	HBV - 4	
5			5	HBV - 5	
6			6	HCV - 1	
7			7	HCV - 2	
8			8	HCV - 3	
9			9	HCV - 4	
10			10	HCV - 5	
11			11	HIV - 1	
12			12	HIV - 2	
13			13	HIV - 3	
14			14	HIV - 4	
15			15	HIV - 5	

2026 年度講義シラバス (20)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児救急・集中治療医学		必修/選択	選択
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	小児救急・集中治療医学の基礎から応用までを学ぶ			
講義計画	呼吸生理学・小児麻酔学の基本から、臨床応用実践、研究の動機づけまで教授する			
達成目標	1. 正常と疾病での呼吸生理、小児麻酔の基本精神である医療安全を理解する 2. 小児救急・集中治療の見識に加え、アドボカシーや生命倫理の重要性を理解する			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	Nunn's Applied Respiratory Physiology, Roger's Pediatric Intensive Care Care 3時間			
成績評価法	講義の理解度、積極性			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児救急・集中治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	呼吸生理学 (正常肺)	1		
2	呼吸生理学 (疾患肺)	2		
3	小児麻酔と医療安全・危機管理	3		
4	小児救急医学と蘇生科学	4		
5	トリアージ・搬送医療・救急医療体制	5		
6	アドボカシー・傷害防止・虐待対応	6		
7	小児集中治療医学総論	7		
8	呼吸不全と集中治療	8		
9	循環不全と集中治療	9		
10	意識障害と集中治療	10		
11	肝腎不全と集中治療	11		
12	体外式膜型人工肺 (ECMO)	12		
13	ECMO 管理下の特殊病態生理	13		
14	新興再興感染症・災害医療と集中治療	14		
15	脳機能停止と終末期医療	15		

2026 年度講義シラバス (21)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児内分泌・代謝学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	小児期に発症する特殊な内分泌・代謝疾患を理解し診断・管理能力を身につける			
講義計画	小児における特殊な内分泌・代謝疾患を知り、病態・診断法・管理について検討する			
達成目標	1. 比較的稀な内分泌・代謝疾患について病態と遺伝学的特徴について理解する 2. 特殊な内分泌・代謝疾患の診断方法と病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い内分泌、代謝疾患を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1		1	総論 1: 内分泌臓器の発生について	
2		2	総論 2: 集団検診の役割	
3		3	総論 3: 遺伝子診断の適応と実際	
4		4	総論 4: 代謝疾患診断における特殊検査	
5		5	総論 5: 特殊ミルクによる治療について	
6		6	症例検討会 ①	
7		7	各論 1: 下垂体発生に関わる転写因子	
8		8	各論 2: 腫瘍性疾患と内分泌異常	
9		9	各論 3: 自己免疫性多腺性内分泌障害	
10		10	各論 4: 先天性副腎機能低下症	
11		11	各論 5: 骨系統疾患	
12		12	各論 6: 低血糖をきたす代謝異常症	
13		13	各論 7: 特殊な先天代謝異常症	
14		14	各論 8: 稀な染色体・遺伝子異常	
15		15	総括・復習	

2026 年度講義シラバス (22)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅱ		必修/選択	選択	
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。				
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。				
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児悪性腫瘍に対する臨床試験について理解する。 4. 小児悪性腫瘍の臨床試験を立案する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期特有の悪性疾患について学習しておく。1時間				
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	臨床試験の歴史		1		
2	臨床試験の目的		2		
3	標準治療と臨床試験の違い		3		
4	臨床試験の計画方法		4		
5	臨床試験の統計学		5		
6	小児悪性腫瘍の EBM		6		
7	小児悪性腫瘍の国際共同研究		7		
8	小児悪性腫瘍に関わる倫理		8		
9	小児悪性腫瘍のデータ管理		9		
10	小児悪性腫瘍の社会的問題		10		
11	インフォームドコンセントとアセント		11		
12	小児がんのトランスレーショナルリサーチ		12		
13	小児悪性腫瘍の分子標的治療		13		
14	小児悪性腫瘍の新規治療		14		
15	小児悪性腫瘍の免疫療法		15		

2026 年度講義シラバス (23)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児筋疾患		必修/選択	選択	
担当教員	岩崎俊之	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する				
講義計画	小児の筋疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。				
達成目標	1. 基本的な小児筋疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期からみられる筋疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児筋疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	筋ジストロフィー - 1	
2			2	筋ジストロフィー - 2	
3			3	筋ジストロフィー - 3	
4			4	筋ジストロフィー - 4	
5			5	筋ジストロフィー - 5	
6			6	筋ジストロフィー - 6	
7			7	筋ジストロフィー - 7	
8			8	筋ジストロフィー - 8	
9			9	ミトコンドリア脳筋症 - 1	
10			10	ミトコンドリア脳筋症 - 2	
11			11	ミトコンドリア脳筋症 - 3	
12			12	ミトコンドリア脳筋症 - 4	
13			13	ミトコンドリア脳筋症 - 5	
14			14	ミトコンドリア脳筋症 - 6	
15			15	ミトコンドリア脳筋症 - 7	

2026 年度講義シラバス (24)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児腎臓病学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	三浦慎也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する			
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い腎疾患を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療 - 1		1	
2	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療 - 2		2	
3	急性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 1		3	
4	急性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 2		4	
5	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 1		5	
6	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 2		6	
7	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 3		7	
8	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 4		8	
9	乳幼児のARFの病態と診断・治療 - 1		9	
10	乳幼児のARFの病態と診断・治療 - 2		10	
11	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 - 1		11	
12	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 - 2		12	
13	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 - 3		13	
14	腎生検の術者・介助者として研修 - 1		14	
15	腎生検の術者・介助者として研修 - 2		15	

【 48-7-② 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>清水 直樹</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>小児科学とは、小児の保健・健康を研究することを基礎とし、種々の疾病を有する患児の診断・治療を研究する臨床科学である。小児科学を研究するためには、小児の正常な発育・発達・栄養はじめ各種疾病の病理・病態の十分な見識に加え、高度化した医療にともなう侵襲的医療機器が装着された特異な状態における病態生理をも、正しく理解しようとする姿勢が欠かせない。複雑化する医療のなかで <i>Children Centered</i> の立場からの生命倫理観や、<i>Advocacy</i> の素養も求められる。臨床としては、小児救急・集中治療の急性期から始まり、在宅・緩和・移行期医療の慢性期までを見すえた小児総合診療の指向性を基礎として、臓器系統別専門の道を志すことになる。研究としては、<i>Breakthrough</i> となりうる新規性の高い研究を、臨床現場からの動機づけをもって遂行し、成果を論文として纏め上げる課程を通じて自立的な研究遂行能力を涵養し、後続の研究指導ができるようになることを目標とする。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 急性期：(集中治療) ヘリウムと超高頻度振動換気、ECMO/蘇生研究、エクソーム死因検索、搬送遠隔医療電子化、(新生児) 早産低出生体重児の薬物動態と生理的パラメータ研究、生体情報ビッグデータ解析、(循環器) 妊娠中投薬による心筋収縮蛋白と小胞体構成蛋白発現変化、新生児左房機能、川崎病新規治療 神経遺伝：長時間ビデオ脳波検査の有用性、抗てんかん薬の血中濃度に関する研究 感染免疫：住民健康改善に資するエビデンス創出を目指した多地域コホート研究 (LIFE study)、Baked egg を用いた食物アレルギー早期介入研究 血液腫瘍：血友病患者の QOL の実態調査、ステロイドの抗血栓性の機序解明、FVIIa の滑膜炎抑制効果、小児リンパ腫に対する治療診断・バイオマーカー開発 <p>総合：(救急、虐待、在宅、移行期、緩和) 小児救急・災害時 AI トリアージ、小児外傷鎮静、虐待予測診断、(腎臓・消化器・代謝・内分泌) 各領域に関する研究</p>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>小児科学は非常に幅の広い学問分野である。対象は新生児から学童期・思春期にまで及んでいる。精神、運動面で発達変化していくことが大きな特徴であり、昨今は成人への移行期医療も大きな課題となりつつある。小児科を学ぶ準備段階として、正常な新生児から学童期にわたる発育・発達を、学習しておくことが前提である。さらに、高度医療機器・在宅緩和医療・生命倫理など、幅広い知見を柔軟に身につける姿勢を養うことが大切である。</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	新生児学 I		必修/選択	必修
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	正常新生児の適応過程の理解			
講義計画	正常新生児症例を通して出生後の適応生理を理解し、実際に個々の管理法を体得する。 母親の泌乳過程と心理を理解し、よりよいコミュニケーション法を体得する。			
達成目標	1. 正常新生児の適応過程を説明できる。 2. 新生児低血糖、新生児黄疸、水分電解質、酸-塩基平衡管理法を計画できる。 3. 母乳育児支援のしくみを説明できる。			
教科書・参考書	母乳育児成功のための10カ条のエビデンス			
準備学習(予習・復習・時間)	正常新生児の基礎知識を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	境界領域の症例シミュレーションに基づく討議内容の評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)			
1	新生児の呼吸適応・経膈分娩での呼吸適応			
2	帝王切開での呼吸適応・新生児一過性多呼吸			
3	新生児の循環適応・動脈管の意義・卵円孔の意義			
4	胎盤循環から肺循環へ・新生児特発性肺高血圧症			
5	新生児体温調節・分娩室での体温低下			
6	出生直後の skin to skin			
7	新生児の血液・貧血と多血			
8	母体出血による影響			
9	新生児のエネルギー代謝・新生児低血糖のしくみ・新生児低血糖への対処			
10	新生児黄疸・光線療法の適応			
11	腸肝循環の理解			
12	新生児飢餓と吸啜意欲・体重減少と脱水の鑑別			
13	NRP にもとづく新生児蘇生法・新生児仮死の病態理解			
14	母乳栄養・完全母乳栄養と母子同室			
15	乳業メーカー関与が母乳育児阻害因子となる・母乳分泌遅延に対する対処法			

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	新生児学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	小町詩織	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新生児呼吸障害の病態の理解			
講義計画	種々の新生児呼吸障害の成因・病態・経過・診断・管理法について			
達成目標	1. 新生児期に特有な呼吸障害について病態を踏まえて説明できる。 2. 新生児呼吸管理法を自ら行うことができる。			
教科書・参考書	Assisted Ventilation of the Neonate			
準備学習(予習・復習・時間)	新生児特有の呼吸状態を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	筆記・口頭試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1		1	胎児期の呼吸器の発育・肺成熟度評価	
2		2	RDS・人工サーファクタント	
3		3	TTN・MAS	
4		4	空気遮断・無呼吸発作	
5		5	慢性肺疾患・肺の形成異常	
6		6	先天性食道閉鎖・横隔膜ヘルニア	
7		7	Dry lung syndrome・呼吸機能評価	
8		8	新生児期管内挿管	
9		9	IMV・HFO・様々な換気法(PTV 等)	
10		10	Lung protective policy・人工換気と循環	
11		11	気道損傷の予防・気道吸引法・肺理学療法	
12		12	体位性ドレナージ・気管切開	
13		13	NO 吸入療法・ECMO	
14		14	呼吸器疾患と薬物療法	
15		15	テオフィリン・ステロイド吸入療法	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	一般小児科学 I		必修/選択	必修	
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児の栄養、小児保健を理解できる。				
講義計画	小児の栄養、栄養所要量、小児保健全体について学習する。				
達成目標	1. 小児の栄養、栄養所要量について理解する。 2. 小児保健全体、学校保健について理解する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期それぞれの時期での必要な栄養について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	小児栄養の意義		1		
2	栄養素の代謝:糖質代謝		2		
3	栄養素の代謝:脂質代謝		3		
4	栄養素の代謝:蛋白質代謝		4		
5	小児の栄養所要量:水分		5		
6	小児の栄養所要量:エネルギー		6		
7	小児の栄養所要量:蛋白質		7		
8	小児の栄養所要量:脂質・糖質		8		
9	ビタミン欠乏症・過剰症		9		
10	新生児マススクリーニング		10		
11	乳幼児健康調査・健康診断		11		
12	学校保健		12		
13	心臓検診		13		
14	腎臓検診		14		
15	小児保健統計		15		

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	一般小児科学Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	川口 敦	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児の成長・発達・成熟および発育の概念と定義を理解する。				
講義計画	小児期特有の発達、成長、発育を理解した上で、病的な状態を学習する。				
達成目標	1. 基本的な小児の発育に関する因子を理解できる。 2. 基本的な小児の身体構成と年齢的变化を理解、発表できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	正常な小児の成長、発育について学習しておく。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	発育期の分類	
2			2	発育の一般原則	
3			3	遺伝因子・環境因子	
4			4	胎児の発育	
5			5	成長:体重・身長・頭囲	
6			6	歯の成長	
7			7	骨年齢	
8			8	体脂肪	
9			9	体水分量	
10			10	骨格筋	
11			11	成長の評価:身体計測	
12			12	発育指数	
13			13	成長曲線	
14			14	成長速度曲線	
15			15	青年期の身長・体重の変化	

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児血液学 I		必修/選択	必修	
担当教員	長江千愛	担当教員連絡先	PHS 71-8108		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づき小児の血液疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の小児の血液疾患の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な小児の血液疾患について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の血液疾患について病態に基づいた治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の血液疾患の特徴を学習準備する。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児科血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	造血のしくみ - 1		1	止血のしくみ - 1	
2	造血のしくみ - 2		2	止血のしくみ - 2	
3	造血のしくみ - 3		3	止血のしくみ - 3	
4	造血のしくみ - 4		4	止血のしくみ - 4	
5	造血のしくみ - 5		5	止血のしくみ - 5	
6	小児の赤血球系疾患 - 1		6	小児の出血性疾患 - 1	
7	小児の赤血球系疾患 - 2		7	小児の出血性疾患 - 2	
8	小児の赤血球系疾患 - 3		8	小児の出血性疾患 - 3	
9	小児の赤血球系疾患 - 4		9	小児の出血性疾患 - 4	
10	小児の赤血球系疾患 - 5		10	小児の出血性疾患 - 5	
11	小児の赤血球系疾患 - 6		11	小児の出血性疾患 - 6	
12	小児の赤血球系疾患 - 7		12	小児の血栓性疾患 - 1	
13	小児の赤血球系疾患 - 8		13	小児の血栓性疾患 - 2	
14	小児の赤血球系疾患 - 9		14	小児の血栓性疾患 - 3	
15	小児の赤血球系疾患 - 10		15	小児の血栓性疾患 - 4	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児神経疾患		必修/選択	必修
担当教員	岩崎俊之	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する			
講義計画	小児の神経疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。			
達成目標	1. 基本的な小児神経疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	正常な神経発達について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児神経疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	小児の神経系の発達 - 1	1	小児のけいれん性疾患 - 1 (慢性疾患)	
2	小児の神経系の発達 - 2	2	小児のけいれん性疾患 - 2	
3	小児の神経系の発達 - 3	3	小児のけいれん性疾患 - 3	
4	小児の神経系の発達 - 4	4	小児のけいれん性疾患 - 4	
5	小児の神経系の発達 - 5	5	小児のけいれん性疾患 - 5	
6	小児の神経系の発達 - 6	6	神経皮膚症候群 - 1	
7	小児のけいれん性疾患 - 1 (急性疾患)	7	神経皮膚症候群 - 2	
8	小児のけいれん性疾患 - 2	8	神経皮膚症候群 - 3	
9	小児のけいれん性疾患 - 3	9	神経皮膚症候群 - 4	
10	小児のけいれん性疾患 - 4	10	神経皮膚症候群 - 5	
11	小児のけいれん性疾患 - 5	11	筋緊張低下児 - 1	
12	小児のけいれん性疾患 - 6	12	筋緊張低下児 - 2	
13	小児のけいれん性疾患 - 7	13	筋緊張低下児 - 3	
14	小児のけいれん性疾患 - 8	14	筋緊張低下児 - 4	
15	小児のけいれん性疾患 - 9	15	筋緊張低下児 - 5	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	感染症学		必修/選択	必修	
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な感染症の病態を理解する				
講義計画	種々の基本的な感染症疾患を病態を通して理解し治療法を検討する				
達成目標	1. 基本的な感染症疾患について病態を理解し、論理的に説明できる 2. 基本的な感染症疾患の病態に基づいた治療を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な感染症について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児感染症学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	感染症概論		1		
2	臓器別感染症Ⅰ (中枢神経、呼吸器)		2		
3	臓器別感染症Ⅱ (消化器、肝胆道系)		3		
4	臓器別感染症Ⅲ (循環器、腎泌尿器)		4		
5	臓器別感染症Ⅳ (運動器、皮膚、その他)		5		
6	特殊な状況下での感染症		6		
7	細菌感染症Ⅰ		7		
8	細菌感染症Ⅱ		8		
9	細菌感染症Ⅲ		9		
10	細菌感染症Ⅳ		10		
11	ウイルス感染症Ⅰ		11		
12	ウイルス感染症Ⅱ		12		
13	ウイルス感染症Ⅲ		13		
14	ウイルス感染症Ⅳ		14		
15	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア		15		

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	ワクチン学		必修/選択	必修	
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	各種予防接種(ワクチン)について理解する				
講義計画	各種予防接種(ワクチン)の効果、副反応等を理解し接種計画を立てる				
達成目標	1.各種予防接種(ワクチン)の接種時期、効果、副反応等を説明できる 2.ワクチンの基本的な手技ができる。基礎疾患のある児への対応について説明できる。				
教科書・参考書	予防接種の手引き(近代出版)				
準備学習(予習・復習・時間)	予防接種とは何かを学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	ワクチンの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	予防接種の概要	
2			2	予防接種のリスクマネジメント	
3			3	疾患とワクチン ① (麻疹)	
4			4	疾患とワクチン ② (風疹)	
5			5	疾患とワクチン ③ (DTP)	
6			6	疾患とワクチン ④ (ポリオ)	
7			7	疾患とワクチン ⑤ (BCG)	
8			8	疾患とワクチン ⑥ (日本脳炎)	
9			9	疾患とワクチン ⑦ (インフルエンザ)	
10			10	疾患とワクチン ⑧ (ムンプス)	
11			11	疾患とワクチン ⑨ (水痘)	
12			12	疾患とワクチン ⑩ (A 型、B 型肝炎)	
13			13	疾患とワクチン ⑪ (Hib、肺炎球菌、他)	
14			14	基礎疾患のある児への予防接種	
15			15	予防接種と関連する法律	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児循環器病学 I		必修/選択	必修	
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
達成目標	1. チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 非チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	先天性心疾患について学習しておく。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	チアノーゼ性心疾患の診断 1		1		
2	チアノーゼ性心疾患の診断 2		2		
3	チアノーゼ性心疾患の診断 3		3		
4	チアノーゼ性心疾患の管理 1		4		
5	チアノーゼ性心疾患の管理 2		5		
6	チアノーゼ性心疾患の管理 3		6		
7	非チアノーゼ性心疾患の診断 1		7		
8	非チアノーゼ性心疾患の診断 2		8		
9	非チアノーゼ性心疾患の診断 3		9		
10	非チアノーゼ性心疾患の診断 4		10		
11	非チアノーゼ性心疾患の診断 5		11		
12	非チアノーゼ性心疾患の管理 1		12		
13	非チアノーゼ性心疾患の管理 2		13		
14	非チアノーゼ性心疾患の管理 3		14		
15	非チアノーゼ性心疾患の管理 4		15		

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児循環器病学Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	小児期の不整脈および後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
達成目標	1. 小児期不整脈の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児の循環器疾患の基礎を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	新生児不整脈総論 1	
2			2	新生児不整脈総論 2	
3			3	新生児不整脈各論 1	
4			4	新生児不整脈各論 2	
5			5	小児期不整脈総論 1	
6			6	小児期不整脈総論 2	
7			7	小児期不整脈各論 1	
8			8	小児期不整脈各論 2	
9			9	後天性心疾患総論 1	
10			10	後天性心疾患総論 2	
11			11	後天性心疾患各論 1	
12			12	後天性心疾患各論 2	
13			13	後天性心疾患各論 3	
14			14	後天性心疾患各論 4	
15			15	後天性心疾患各論 5	

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児内分泌・代謝学 I		必修/選択	必修
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2単位 (前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	小児期に発症する内分泌・代謝疾患の基礎的事項と問題点を理解する			
講義計画	小児における内分泌・代謝疾患の病態を理解し、管理方法について検討する			
達成目標	1. 基本的な内分泌・代謝疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な内分泌・代謝疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の代謝、内分泌疾患にはどのようなものがあるか学習しておく。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	総論 1: ホルモンとその作用について	1	各論 10: 性分化異常症	
2	総論 2: 小児の成長とホルモンの関係	2	症例検討会①	
3	総論 3: マス・スクリーニングについて	3	各論 11: 水・電解質異常	
4	総論 4: 内分泌・代謝疾患と遺伝学	4	各論 12: 骨代謝異常	
5	総論 5: 負荷試験の実際	5	各論 13: 染色体・遺伝子異常疾患	
6	特集抄読会: 内分泌・代謝班	6	各論 14: 小児糖尿病の疫学・病態	
7	各論 1: 視床下部・下垂体ホルモン	7	各論 15: 1型糖尿病・2型糖尿病	
8	各論 2: 成長ホルモンと関連疾患	8	各論 16: インスリン治療・その他	
9	各論 3: 汎下垂体機能低下症	9	各論 17: 小児メタボリックシンドローム	
10	各論 4: 甲状腺ホルモンの作用と調節	10	各論 18: 高脂血症・高尿酸血症	
11	各論 5: 先天性甲状腺機能低下症	11	各論 19: 低血糖をきたす疾患	
12	各論 6: 自己免疫性甲状腺疾患	12	各論 20: 高アンモニア・乳酸血症	
13	各論 7: 副腎の構造とホルモンの作用	13	症例検討会 ②	
14	各論 8: 先天性副腎過形成症	14	総括・復習 1:	
15	各論 9: ゴナドトロピンと性腺ホルモン	15	総括・復習 2:	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児悪性腫瘍 I		必修/選択	必修	
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。				
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。				
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児に対する化学療法について修得する。 4. 化学療法の急性および慢性の合併症に対する予防と対策について修得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い悪性腫瘍を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	小児悪性腫瘍の疫学		1	小児悪性リンパ腫の疫学	
2	小児悪性腫瘍の遺伝学		2	小児悪性リンパ腫の病態	
3	小児急性リンパ性白血病の病態		3	小児悪性リンパ腫の診断	
4	小児急性リンパ性白血病の診断方法		4	小児悪性リンパ腫の治療	
5	小児急性リンパ性白血病の治療		5	小児悪性腫瘍の遺伝子診断	
6	小児急性骨髄性白血病の病態		6	小児悪性腫瘍の免疫診断	
7	小児急性骨髄性白血病の診断方法		7	小児悪性腫瘍の病理診断	
8	小児急性骨髄性白血病の治療		8	小児悪性腫瘍における細菌感染症	
9	化学療法の実際		9	小児悪性腫瘍におけるウイルス感染	
10	化学療法の急性毒性		10	小児悪性腫瘍における真菌感染症	
11	化学療法の晩期障害		11	小児悪性腫瘍患者の栄養管理	
12	小児慢性白血病の病態・診断・治療		12	小児悪性腫瘍患者の感染予防	
13	小児悪性固形腫瘍の病態		13	小児悪性腫瘍患者の輸血	
14	小児悪性固形腫瘍の診断		14	小児悪性腫瘍患者の緩和医療	
15	小児悪性固形腫瘍の治療		15	小児悪性腫瘍患者の疼痛対策	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児腎臓病学 I		必修/選択	必修
担当教員	三浦慎也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する			
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の腎臓病の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	腎臓・泌尿器の発生学 - 1		1	腎生検の適応と臨床評価 - 1
2	腎臓・泌尿器の発生学 - 2		2	腎生検の適応と臨床評価 - 2
3	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 - 1		3	腎・泌尿器感染症の診断と治療 - 1
4	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 - 2		4	腎・泌尿器感染症の診断と治療 - 2
5	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療 - 3		5	検尿データが読める - 1
6	腎臓・泌尿器の正常組織 - 1		6	検尿データが読める - 2
7	腎臓・泌尿器の正常組織 - 2		7	学校検尿の判定と評価 - 1
8	腎臓疾患の病理像 - 1		8	学校検尿の判定と評価 - 2
9	腎臓疾患の病理像 - 2		9	乳幼児ARFの病態の理解 - 1
10	腎臓疾患の病理像 - 3		10	乳幼児ARFの病態の理解 - 2
11	糸球体機能と尿管機能とその検査法 - 1		11	乳幼児CRFの病態の理解 - 1
12	糸球体機能と尿管機能とその検査法 - 2		12	乳幼児CRFの病態の理解 - 2
13	小児水・電解質代謝とその異常 - 1		13	小児輸液療法の理論と実際 - 1
14	小児水・電解質代謝とその異常 - 2		14	小児輸液療法の理論と実際 - 2
15	小児水・電解質代謝とその異常 - 3		15	小児輸液療法の理論と実際 - 3

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児アレルギー学		必修/選択	必修	
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	小児アレルギー疾患(食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息)の病態、症状、治療を学習し、外来フォローの仕方、環境との関係、家族への対処を学ぶ				
講義計画	小児呼吸器の特性とアレルギーのメカニズムを理解し、各疾患の治療を理解する。				
達成目標	1. 食物アレルギーの診断、食事・栄養指導ができる。 2. アトピー性皮膚炎、気管支喘息の診断、治療ができる。 3. 外来フォロー、親の心理的負担などを理解し、家族への対処ができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期のアレルギー疾患で多いものと、アレルギーという概念を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	講義の理解度、積極性などを総合して評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児アレルギーの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	アレルギーのメカニズム - 1		1	小児喘息と環境 - 1	
2	アレルギーのメカニズム - 2		2	小児喘息と環境 - 2	
3	アレルギーのメカニズム - 3		3	小児喘息の外来フォロー - 1	
4	アレルギーの検査 - 1		4	小児喘息の外来フォロー - 2	
5	アレルギーの検査 - 2		5	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン - 1	
6	食物アレルギー - 1		6	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン - 2	
7	食物アレルギー - 2		7	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン - 3	
8	アトピー性皮膚炎 - 1		8	食物アレルギーの外来フォロー - 1	
9	アトピー性皮膚炎 - 2		9	食物アレルギーの外来フォロー - 2	
10	アレルギー性鼻炎 - 1		10	One airway,one disease とは - 1	
11	アレルギー性鼻炎 - 2		11	One airway,one disease とは - 2	
12	外用薬の使用法		12	アレルギー児を持つ家族 - 1	
13	抗アレルギー薬の使用法		13	アレルギー児を持つ家族 - 2	
14	食物負荷試験の実際 - 1		14	アレルギー疾患今後の展望 - 1	
15	食物負荷試験の実際 - 2		15	アレルギー疾患今後の展望 - 2	

2026 年度講義シラバス (15)

講義コード	専攻分野		最新医学研究コース		
講義題目	小児科実習		必修/選択	必修	
担当教員	長江千愛	担当教員連絡先	PHS 71-8108		
単位数	1単位 (前期・後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児に対する実技を習得する				
講義計画	検査や手技の実技、実習を実際の検査などを通じて行う				
達成目標	必要な検査・手技を正確に、患児に負担なく実施できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児科特有の手技について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	実技の習得、到達度				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児科の知識に基づき各種実習を行い、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	小児診察法 - 1		1	乳幼児健診 - 1	
2	小児診察法 - 2		2	乳幼児健診 - 2	
3	小児診察法 - 3		3	乳幼児健診 - 3	
4	小児診察法 - 4		4	心臓カテーテル検査 - 1	
5	小児診察法 - 5		5	心臓カテーテル検査 - 2	
6	小児の採血と点滴の手技 - 1		6	心臓カテーテル検査 - 3	
7	小児の採血と点滴の手技 - 2		7	脳波所見の読み方 - 1	
8	小児の採血と点滴の手技 - 3		8	脳波所見の読み方 - 2	
9	小児の髄液採取の手技		9	脳波所見の読み方 - 3	
10	小児の骨髄液採取の手技		10	予防接種の実際 - 1	
11	小児救急 - 気管内挿管の手技		11	予防接種の実際 - 2	
12	小児救急 - 心肺蘇生法		12	予防接種の実際 - 3	
13	小児救急 - ハイムリック法		13	腎生検の実際 - 1	
14	新生児蘇生 - 1		14	腎生検の実際 - 2	
15	新生児蘇生 - 2		15	腎生検の実際 - 3	

2026 年度講義シラバス (16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児循環器病学Ⅲ		必修/選択	選択	
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する				
講義計画	先天性心疾患の出生前診断および出生後の管理を理解する				
達成目標	1. 先天性心疾患の出生前診断について症例に基づいて説明できる。 2. 出生後の管理、治療方針を症例に基づいて計画できる。				
教科書・参考書	別途指示する。				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な心疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	出生前診断総論 1		1		
2	出生前診断総論 2		2		
3	出生前診断各論 1		3		
4	出生前診断各論 2		4		
5	出生前診断各論 3		5		
6	出生後管理総論 1		6		
7	出生後管理総論 2		7		
8	出生後管理各論 1		8		
9	出生後管理各論 2		9		
10	出生後管理各論 3		10		
11	出生前治療総論		11		
12	出生前治療各論		12		
13	出生後治療総論		13		
14	出生後治療各論 1		14		
15	出生後治療各論 2		15		

2026 年度講義シラバス (17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	免疫学		必修/選択	選択
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	原発性免疫不全症候群の基本を理解する			
講義計画	症例を通して、原発性免疫不全症候群は易感染性を呈する症状から診断を疑い、種々の生化学検査によって確定診断へと導く			
達成目標	1. 原発性免疫不全症候群診断のアプローチができる 2. 原発性免疫不全症候群患者の感染のコントロールと治療が説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	免疫不全とは何か学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児免疫学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	原発性免疫不全症の分類	1		
2	原発性免疫不全症の診断	2		
3	原発性免疫不全症の治療	3		
4	原発性免疫不全症患者の感染コントロール	4		
5	各論 ① (複合型免疫不全症)	5		
6	各論 ② (抗体不全免疫不全症)	6		
7	各論 ③ (他に大きな欠損を付随した免疫不全症)	7		
8	各論 ④ (食細胞系異常)	8		
9	各論 ⑤ (補体因子欠損症)	9		
10	各論 ⑥ (その他の免疫不全症)	10		
11	各論 ⑦ (HIV)	11		
12	各論 ⑧ (ウイルス感染と続発性免疫不全)	12		
13	各論 ⑨ (薬物)	13		
14	自己免疫とリウマチ性疾患総論	14		
15	自己免疫とリウマチ性疾患各論	15		

2026 年度講義シラバス (18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	新生児学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	低出生体重児・早産児の管理			
講義計画	低出生体重児の総合管理について学ぶ			
達成目標	1. 適切な・輸液・栄養管理について理解する 2. 中枢神経保護について理解する 3. 親子関係について理解する 4. 適切な哺育環境の整備について理解する			
教科書・参考書	Avery,Fletcher,MacDonald:Neonatology			
準備学習(予習・復習・時間)	低出生体重児の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	口頭試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)			
1	低出生体重児の水分代謝・不感蒸泄と腎機能			
2	腎の Na 維持能力・超低出生体重児の高 K 血症			
3	母乳による低出生体重児の哺育・未熟児骨代謝性疾患の管理			
4	中心静脈カテーテル挿入法・高カロリー輸液・栄養状態の評価			
5	新生児脳障害の理解・低酸素性虚血性脳症の管理			
6	新生児頭蓋内出血への対処・低出生体重児の脳室内出血の予防			
7	脳室周囲白質軟化症			
8	中枢神経奇形への対処			
9	成熟度評価・発達評価			
10	NICU 入院児の親の心理・母子分離下の母乳育児			
11	親参加型ケアとは・タッチケア			
12	カンガルーケア			
13	NICU 環境の整備・新生児へのなだめ			
14	音環境・光環境・温度環境			
15	新生児行動評価・ストレスサイン・ポジショニング			

2026 年度講義シラバス (19)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児血液学Ⅱ		必修/選択	選択	
担当教員	山下敦己	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づき小児の輸血感染症の病態を理解する				
講義計画	種々の小児の輸血感染症の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な小児の輸血感染症について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の輸血感染症について病態に基づいた治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	輸血感染症にはどのようなものがあるか学習しておく。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	HBV - 1	
2			2	HBV - 2	
3			3	HBV - 3	
4			4	HBV - 4	
5			5	HBV - 5	
6			6	HCV - 1	
7			7	HCV - 2	
8			8	HCV - 3	
9			9	HCV - 4	
10			10	HCV - 5	
11			11	HIV - 1	
12			12	HIV - 2	
13			13	HIV - 3	
14			14	HIV - 4	
15			15	HIV - 5	

2026 年度講義シラバス (20)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児救急・集中治療医学		必修/選択	選択
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	小児救急・集中治療医学の基礎から応用までを学ぶ			
講義計画	呼吸生理学・小児麻酔学の基本から、臨床応用実践、研究の動機づけまで教授する			
達成目標	1. 正常と疾病での呼吸生理、小児麻酔の基本精神である医療安全を理解する 2. 小児救急・集中治療の見識に加え、アドボカシーや生命倫理の重要性を理解する			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	Nunn's Applied Respiratory Physiology, Roger's Pediatric Intensive Care Care 3時間			
成績評価法	講義の理解度、積極性			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児救急・集中治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	呼吸生理学 (正常肺)	1		
2	呼吸生理学 (疾患肺)	2		
3	小児麻酔と医療安全・危機管理	3		
4	小児救急医学と蘇生科学	4		
5	トリアージ・搬送医療・救急医療体制	5		
6	アドボカシー・傷害防止・虐待対応	6		
7	小児集中治療医学総論	7		
8	呼吸不全と集中治療	8		
9	循環不全と集中治療	9		
10	意識障害と集中治療	10		
11	肝腎不全と集中治療	11		
12	体外式膜型人工肺 (ECMO)	12		
13	ECMO 管理下の特殊病態生理	13		
14	新興再興感染症・災害医療と集中治療	14		
15	脳機能停止と終末期医療	15		

2026 年度講義シラバス (21)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児内分泌・代謝学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	清水直樹	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	小児期に発症する特殊な内分泌・代謝疾患を理解し診断・管理能力を身につける			
講義計画	小児における特殊な内分泌・代謝疾患を知り、病態・診断法・管理について検討する			
達成目標	1. 比較的稀な内分泌・代謝疾患について病態と遺伝学的特徴について理解する 2. 特殊な内分泌・代謝疾患の診断方法と病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い内分泌、代謝疾患を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	総論 1: 内分泌臓器の発生について
2			2	総論 2: 集団検診の役割
3			3	総論 3: 遺伝子診断の適応と実際
4			4	総論 4: 代謝疾患診断における特殊検査
5			5	総論 5: 特殊ミルクによる治療について
6			6	症例検討会 ①
7			7	各論 1: 下垂体発生に関わる転写因子
8			8	各論 2: 腫瘍性疾患と内分泌異常
9			9	各論 3: 自己免疫性多腺性内分泌障害
10			10	各論 4: 先天性副腎機能低下症
11			11	各論 5: 骨系統疾患
12			12	各論 6: 低血糖をきたす代謝異常症
13			13	各論 7: 特殊な先天代謝異常症
14			14	各論 8: 稀な染色体・遺伝子異常
15			15	総括・復習

2026 年度講義シラバス (22)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅱ		必修/選択	選択	
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。				
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。				
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児悪性腫瘍に対する臨床試験について理解する。 4. 小児悪性腫瘍の臨床試験を立案する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期特有の悪性疾患について学習しておく。1時間				
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	臨床試験の歴史		1		
2	臨床試験の目的		2		
3	標準治療と臨床試験の違い		3		
4	臨床試験の計画方法		4		
5	臨床試験の統計学		5		
6	小児悪性腫瘍の EBM		6		
7	小児悪性腫瘍の国際共同研究		7		
8	小児悪性腫瘍に関わる倫理		8		
9	小児悪性腫瘍のデータ管理		9		
10	小児悪性腫瘍の社会的問題		10		
11	インフォームドコンセントとアセント		11		
12	小児がんのトランスレーショナルリサーチ		12		
13	小児悪性腫瘍の分子標的治療		13		
14	小児悪性腫瘍の新規治療		14		
15	小児悪性腫瘍の免疫療法		15		

2026 年度講義シラバス (23)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	小児筋疾患		必修/選択	選択	
担当教員	岩崎俊之	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する				
講義計画	小児の筋疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。				
達成目標	1. 基本的な小児筋疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期からみられる筋疾患について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児筋疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	筋ジストロフィー - 1	
2			2	筋ジストロフィー - 2	
3			3	筋ジストロフィー - 3	
4			4	筋ジストロフィー - 4	
5			5	筋ジストロフィー - 5	
6			6	筋ジストロフィー - 6	
7			7	筋ジストロフィー - 7	
8			8	筋ジストロフィー - 8	
9			9	ミトコンドリア脳筋症 - 1	
10			10	ミトコンドリア脳筋症 - 2	
11			11	ミトコンドリア脳筋症 - 3	
12			12	ミトコンドリア脳筋症 - 4	
13			13	ミトコンドリア脳筋症 - 5	
14			14	ミトコンドリア脳筋症 - 6	
15			15	ミトコンドリア脳筋症 - 7	

2026 年度講義シラバス (24)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	小児腎臓病学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	三浦慎也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位 (前期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する			
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い腎疾患を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療 - 1		1	
2	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療 - 2		2	
3	急性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 1		3	
4	急性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 2		4	
5	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 1		5	
6	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 2		6	
7	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 3		7	
8	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療 - 4		8	
9	乳幼児のARFの病態と診断・治療 - 1		9	
10	乳幼児のARFの病態と診断・治療 - 2		10	
11	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 - 1		11	
12	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 - 2		12	
13	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応 - 3		13	
14	腎生検の術者・介助者として研修 - 1		14	
15	腎生検の術者・介助者として研修 - 2		15	

【 48-8 】 2026 年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)
研究指導教員	中川 敦夫
研究・教育の概略	<p>精神医学は、精神症状(異常精神現象)の診断と治療に力点を置くと同時に、幅広く人間の精神現象(正常精神現象も含む)を扱う学問である。「医学的方法にて心の悩み・ゆがみを如何に解決するか」が治療である。そして治療法には、精神療法と身体療法(薬物療法・電気けいれん療法など)がある。精神は、あらゆる人間の機能の中ですべてを統括する高度な機能である。ゲノム科学の発達により、物質的に生命活動(精神活動を含む)を解明できる期待感がある。しかし、現状における解明は未だ困難であるため、心を重視し、ヒト全体を把握する必要性が生じる。</p> <p>ヒトの心を診るとは目の前にいる患者の眼差し、表情、動作、身繕いなど、その一挙手一投足を真剣に見つめ、入念な面接を繰り返しながら、その異変を構成している精神医学的徴候を丹念に解き明かしていくプロセスである。これが精神医学の『臨床』というべきものであり、大変に興味深い。精神医学において、臨床的な客観徴候の大部分は患者そのものから表出されるので、このプロセスなくして精神医学の臨床は成立しない。その際、自らを客観的に中立的に置き、監視し、対応することが重要である。</p> <p>その次に生じてくる興味は、おそらく目の前にある精神現象の異変がなぜ起こってくるのかということに向けられてくるはずである。患者をよく診れば診るほど、「何故」という疑問は深くなっていく。これを解き明かしていくプロセスが『研究』で、疑問が素朴であるほど重要な研究テーマになることが多く、従って患者を目の前にした時、常に「何故」という姿勢が重要になっていく。精神医学的方法論には、生物医学的アプローチとして、生物学的精神医学、精神薬理学、分子遺伝学、大脳病理学など、心理社会的アプローチとして、精神病理学(記述精神医学)、精神分析学(力動精神医学)、社会精神医学、司法精神医学などがある。</p> <p>本分野では臨床へ還元しうる教育、研究を行う。講義・実習の内容は大学院生の研究成果、修得状況を勘案し柔軟に対応する。</p>
研究項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床精神病理学的研究 (統合失調症、気分障害、発達障害、老年精神医学) 2. 精神医学史に関する歴史的研究 3. 司法精神医学的研究 (精神鑑定、刑事責任能力)
準備学習(予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前より担当教員と連絡をとり、指導を仰ぐこと 2. 事前に参考資料を読むこと 3. 事後に要点を確認すること

2026 年度講義シラバス（1）

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神科関連疾患 I		必修/選択	必修
担当教員	小野 和哉	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 基本的な精神科疾患について基礎的な知識を説明できる。 2. 臨床への応用をおおまかに計画できる。			
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)			
準備学習(予習・復習・時間)	「双極性障害病態の理解から治療戦略まで」第2版医学書院 加藤忠史著改訂「老年精神医学講座・総論各論」「日本老年精神医学会編」を読んでおくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	大うつ病性障害の診断基準	1	双極性障害の概念	
2	大うつ病性障害の症状 I	2	双極性障害の診断基準	
3	大うつ病性障害の症状 II	3	双極 I 型障害の症状 I	
4	大うつ病性障害の症状 III	4	双極 I 型障害の症状 II	
5	大うつ病性障害の症状 IV	5	双極 I 型障害の症状 III	
6	器質性精神障害、抑うつを伴うもの	6	双極 II 型障害の症状 I	
7	物質関連障害、抑うつを伴うもの	7	双極 II 型障害の症状 II	
8	症状精神病、抑うつを伴うもの	8	双極 II 型障害の症状 III	
9	大うつ病性障害の疫学	9	混合状態の特徴、注意点	
10	老年期うつ病の特徴 I	10	双極性障害の疫学	
11	老年期うつ病の特徴 II	11	器質性精神障害、躁症状を伴うもの	
12	老年期うつ病の特徴 III	12	物質関連障害、躁症状を伴うもの	
13	希死念慮について	13	症状精神病、躁症状を伴うもの	
14	うつ病の基本的治療法	14	基本的治療法	
15	口頭試問	15	口頭試問	

2026 年度講義シラバス（2）

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神科関連疾患Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 基本的な精神科疾患について基礎的な知識を説明できる。 2. 臨床への応用をおおまかに計画できる。			
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	統合失調症の概念	1	失調感情障害の診断基準	
2	統合失調症の疫学	2	失調感情障害の症状 I	
3	統合失調症の診断基準	3	失調感情障害の症状 II	
4	統合失調症の病型	4	統合失調症と失調感情障害の鑑別	
5	統合失調症の症状 I	5	基本的治療法	
6	統合失調症の症状 II	6	短期精神病性障害の診断基準	
7	統合失調症の症状 III	7	短期精神病性障害の症状	
8	統合失調症の症状 IV	8	基本的治療法、対処法	
9	統合失調症の症状 V	9	二人組精神病の診断基準	
10	器質性精神障害、幻覚妄想を伴う	10	妄想性障害の診断基準	
11	物質関連障害、幻覚妄想を伴う	11	基本的治療法	
12	症状精神病、幻覚妄想を伴う	12	PANSS の基礎知識	
13	統合失調症の基本的治療法 I	13	DIEPSS の基礎知識	
14	統合失調症の基本的治療法 II	14	統合失調症関連疾患の鑑別ポイント	
15	口頭試問	15	口頭試問	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科治療学 I		必修/選択	必修	
担当教員	小野 和哉	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	2 単位 (前期 2)	履修年次	1 年		
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。				
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1. 基本的な精神科疾患の治療について基礎的な知識を説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	1. 事前に参考資料を読むこと 1時間 2. 事後に要点を確認すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	精神科治療の歴史		1		
2	身体療法について I		2		
3	身体療法について II		3		
4	向精神薬の歴史		4		
5	向精神薬の概要		5		
6	統合失調症急性期治療、興奮		6		
7	統合失調症急性期治療、昏迷		7		
8	基本的な抗精神病薬の使用法		8		
9	統合失調症治療の効果判定		9		
10	維持期の治療		10		
11	慢性期統合失調症の薬物治療		11		
12	アカシジア、薬原性錐体外路症状		12		
13	急性期ジストニア、遅発性ジスキネジア		13		
14	口頭試問		14		
15	口頭試問		15		

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科診断学概論 I		必修/選択	必修	
担当教員	小野 和哉	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	2 単位 (前期 2)	履修年次	1 年		
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。				
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。				
達成目標	1. 基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2. 系統だった鑑別診断を説明できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書、参考書の該当部分を読んでおくこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	状態像と症候群について		1		
2	抑うつ状態		2		
3	不安症候群		3		
4	精神運動抑制状態		4		
5	昏迷状態		5		
6	不眠症候群		6		
7	摂食障害群		7		
8	精神運動興奮状態		8		
9	躁状態		9		
10	脱抑制状態		10		
11	幻覚妄想状態		11		
12	せん妄状態		12		
13	健忘症候群		13		
14	見当識障害		14		
15	口頭試問		15		

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神科治療学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位 (前期 2)	履修年次	2 年	
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 精神科疾患の治療について説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)			
準備学習(予習・復習・時間)	1. 事前に参考資料を読むこと 1時間 2. 事後に要点を確認すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	老年期精神障害治療の概要	1		
2	老年期のストレスⅠ	2		
3	老年期のストレスⅡ	3		
4	老年期のストレスⅢ	4		
5	老年期のストレスⅣ	5		
6	老年期の代謝Ⅰ	6		
7	老年期の代謝Ⅱ	7		
8	老年期の代謝Ⅲ	8		
9	老年期うつ病の特徴	9		
10	重度うつ病に伴う幻覚妄想	10		
11	心気念慮	11		
12	治療薬の選択	12		
13	処方量	13		
14	電気けいれん療法	14		
15	口頭試問	15		

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科診断学概論実習		必修/選択	必修	
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位 (後期)	履修年次	1 年		
テーマと目的	基礎的な精神科疾患についての面接技法の修得。				
講義計画	様々な精神科疾患について基礎的な面接技法を実習、修得し、診断を検討する。				
達成目標	1. 実際に患者さんと面接し、基礎的な面接技法を修得する。 2. 系統だった面接によって診断に至ることができる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	実施後にレポート提出 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での実習内容および患者さんに対する面接態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	精神運動抑制に関する面接技法	
2			2	思考抑制に関する面接技法	
3			3	心気念慮に関する面接技法	
4			4	自責感に関する面接技法	
5			5	不眠、食思不振に関する面接技法	
6			6	家族教育	
7			7	例題 I	
8			8	例題 II	
9			9	例題 III	
10			10	人格障害患者の面接概要	
11			11	共感の重要性	
12			12	怒りの転移	
13			13	抑うつ感に関する面接技法	
14			14	イライラ感に関する面接技法	
15			15	例題	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神科関連疾患Ⅲ		必修/選択	必修
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	精神科関連疾患についての最近の知見を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について最近の知見を得、研究への応用を検討する。			
達成目標	1. 特定の精神科疾患について最近の知見を説明できる。 2. 研究への応用をおおまかに計画できる。			
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	統合失調症治療の最近の動向	1	処方薬と薬剤性認知機能障害	
2	いわゆる CATIE study について	2	大量処方 I	
3	baseline study について	3	大量処方 II	
4	各種抗精神病薬の有効性、副作用 I	4	大量処方 III	
5	各種抗精神病薬の有効性、副作用 II	5	抗コリン薬の有効性、副作用 I	
6	各種抗精神病薬の有効性、副作用 III	6	抗コリン薬の有効性、副作用 II	
7	各種抗精神病薬の有効性、副作用 IV	7	統合失調症の認知機能低下	
8	各種抗精神病薬の作用機序の差異 I	8	抗精神病薬による神経保護作用	
9	各種抗精神病薬の作用機序の差異 II	9	抗精神病薬による認知機能障害	
10	各種抗精神病薬の作用機序の差異 III	10	抗コリン薬による認知機能障害	
11	各種抗精神病薬の作用機序の差異 IV	11	主観的ウェルビーイング	
12	各種抗精神病薬のコスト、効果 I	12	GLYT1 阻害薬	
13	各種抗精神病薬のコスト、効果 II	13	NK3 受容体拮抗薬	
14	perphenazine の意味すること	14	プラセボ対照試験	
15	口頭試問	15	口頭試問	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科関連疾患Ⅳ		必修/選択	必修	
担当教員	小野 和哉	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	精神科関連疾患についての最近の知見を得る。				
講義計画	様々な精神科関連疾患について最近の知見を得、研究への応用を検討する。				
達成目標	1. 特定の精神科疾患について最近の知見を説明できる。 2. 研究への応用をおおまかに計画できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	「臨床精神薬理ハンドブック」樋口輝彦、小山司、「神庭重信編集」医学書院を読んでおくこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	感情安定薬について		1	抗精神病薬の副作用について	
2	炭酸リチウム I		2	アカシジア	
3	炭酸リチウム II		3	錐体外路症状	
4	炭酸リチウム III		4	薬剤性パーキンソニズム I	
5	バルプロ酸ナトリウム I		5	薬剤性パーキンソニズム II	
6	バルプロ酸ナトリウム II		6	急性ジストニア	
7	カルバマゼピン I		7	遅発性ジスキネジア I	
8	カルバマゼピン II		8	遅発性ジスキネジア II	
9	蛋白リン酸化		9	遅発性ジストニア I	
10	プロテインキナーゼ C		10	遅発性ジストニア II	
11	セカンドメッセンジャー		11	悪性症候群 I	
12	遺伝子への関与		12	悪性症候群 II	
13	GAP 43		13	横紋筋融解症	
14	神経成長因子、神経保護作用		14	高プロラクチン血症	
15	口頭試問		15	口頭試問	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科治療学Ⅲ		必修/選択	必修	
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	2 単位 (前期 2)	履修年次	2 年		
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。				
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1. 精神科疾患の治療について説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	第 2 世代抗精神病薬の概要		1		
2	第 2 世代抗精神病薬 I		2		
3	第 2 世代抗精神病薬 II		3		
4	第 2 世代抗精神病薬 III		4		
5	第 2 世代抗精神病薬 IV		5		
6	第 2 世代抗精神病薬 V		6		
7	単剤処方		7		
8	治療効果の評価について		8		
9	主観的ウェルビーイング		9		
10	神経保護作用		10		
11	脳由来栄養因子		11		
12	スイッチングについて I		12		
13	スイッチングについて II		13		
14	スイッチングについて III		14		
15	口頭試問		15		

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科治療学Ⅳ		必修/選択	必修	
担当教員	小野 和哉	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。				
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1. 精神科疾患の治療について説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	向精神薬の神経保護作用 I	
2			2	向精神薬の神経保護作用 II	
3			3	向精神薬の神経保護作用 III	
4			4	脳由来栄養因子	
5			5	サイトカイン	
6			6	統合失調症患者の画像検査	
7			7	統合失調症と頭部 MRI 画像 I	
8			8	統合失調症と頭部 MRI 画像 II	
9			9	統合失調症と頭部 MRI 画像 III	
10			10	向精神薬と頭部 PET 画像 I	
11			11	向精神薬と頭部 PET 画像 II	
12			12	向精神薬と頭部 PET 画像 III	
13			13	evidence based medicine I	
14			14	evidence based medicine II	
15			15	口頭試問	

2026 年度講義シラバス (1 1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神科診断学概論 II		必修/選択	必修
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位 (前期 2)	履修年次	2 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。			
達成目標	1. 基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2. 系統だった鑑別診断を説明できる。			
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)			
準備学習(予習・復習・時間)	1. 事前に参考資料を読むこと 1時間 2. 事後に要点を確認すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	長谷川式簡易知能評価スケール	1		
2	STM-COMET	2		
3	MMSE	3		
4	アルツハイマー型認知症の認知能低下 I	4		
5	アルツハイマー型認知症の認知能低下 II	5		
6	アルツハイマー型認知症の認知能低下 III	6		
7	アルツハイマー型認知症の認知能低下 IV	7		
8	mild cognitive impairment	8		
9	診断基準のあいまいさ	9		
10	AD の周辺症状 I	10		
11	AD の周辺症状 II	11		
12	AD の周辺症状 III	12		
13	アルツハイマー型認知症とうつ病	13		
14	アルツハイマー型認知症と海馬	14		
15	口頭試問	15		

2026 年度講義シラバス（12）

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科診断学概論Ⅲ		必修/選択	必修	
担当教員	小野 和哉	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位（後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。				
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。				
達成目標	1. 基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2. 系統だった鑑別診断を説明できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	1. 事前に参考資料を読むこと 1時間 2. 事後に要点を確認すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	せん妄Ⅰ	
2			2	せん妄Ⅱ	
3			3	せん妄Ⅲ	
4			4	器質性精神障害Ⅰ	
5			5	器質性精神障害Ⅱ	
6			6	器質性精神障害Ⅲ	
7			7	症状精神病Ⅰ	
8			8	症状精神病Ⅱ	
9			9	症状精神病Ⅲ	
10			10	物質関連障害Ⅰ	
11			11	物質関連障害Ⅱ	
12			12	物質関連障害Ⅲ	
13			13	睡眠障害Ⅰ	
14			14	睡眠障害Ⅱ	
15			15	口頭試問	

2026 年度講義シラバス（13）

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	臨床精神医学特論		必修/選択	選択
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位（通年第3土曜日）	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科臨床上の現在の問題をとりあげ、临床上に生かす			
講義計画	精神科関連疾患で現在話題になっていること、問題、現象、疾患、治療について特別講師を招聘し、講義いただく。			
達成目標	1. 精神科臨床上の最近の問題について説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	SSRI の最近の話題	1	認知症と生活習慣病	
2	前方型認知症について	2	SNRI の最近の話題	
3	精神疾患における認知行動療法	3	ニューロモデュレーションの課題	
4	分子イメージングで探る精神疾患の病態と治療	4	口頭試問	
5		5		
6		6		
7		7		
8		8		
9		9		
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		

2026 年度講義シラバス（14）

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神療法特論		必修/選択	選択
担当教員	笠貫 浩史	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位（前期4回・後期4回）	履修年次	1 年	
テーマと目的	力動的精神療法を学習し、臨床面接に応用する			
講義計画	様々な臨床場面における力動的精神療法の実際を学習し、問題点を検討する。 （前期 4 回、後期 4 回：講義日は受講者に随時連絡）			
達成目標	1. 力動的精神療法について説明できる 2. 精神療法の適応の可否を理解できる			
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)			
準備学習(予習・復習・時間)	参考資料を読んでおくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	力動的精神療法について	1	操作的診断基準の限界	
2	虐待を行ってしまう母親への治療的なアプローチ	2	思春期の個人精神療法	
3	力動面接について	3	小児科における心理士の臨床活動	
4	子どものアセスメントと治療構造	4	口頭試問	
5		5		
6		6		
7		7		
8		8		
9		9		
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		

2026 年度講義シラバス（15）

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	うつ病治療学		必修/選択	選択	
担当教員	笠貫 浩史	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位（通年第 1 土曜日）	履修年次	2 年		
テーマと目的	薬物療法、精神療法などうつ病の治療全般について				
講義計画	うつ病の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1.うつ病治療について理解し説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	「臨床精神薬理ハンドブック」樋口輝彦、小山司、「神庭重信編集」医学書院を読んでおくこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	うつ病の病態		1	SNRI の臨床的使用方法	
2	うつ病の生化学的解釈		2	三環形抗うつ薬の臨床的使用方法	
3	抗うつ薬の作用機序		3	認知行動療法	
4	SSRI の臨床的使用方法		4	口頭試問	
5			5		
6			6		
7			7		
8			8		
9			9		
10			10		
11			11		
12			12		
13			13		
14			14		
15			15		

2026 年度講義シラバス（16）

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	不安障害治療学		必修/選択	選択	
担当教員	笠貫 浩史	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位（通年第 2 土曜日）	履修年次	2 年		
テーマと目的	薬物療法、精神療法など不安障害の治療全般について				
講義計画	不安障害の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1. 不安障害治療について理解し説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	「臨床精神薬理ハンドブック」樋口輝彦、小山司、「神庭重信編集」医学書院を読んでおくこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	不安障害の病態		1	抗不安薬の臨床的使用方法 - 2	
2	不安障害の生化学的解釈		2	SSRI/SNRI の臨床的使用方法	
3	抗不安薬の作用機序		3	認知行動療法	
4	抗不安薬の臨床的使用方法 - 1		4	口頭試問	
5			5		
6			6		
7			7		
8			8		
9			9		
10			10		
11			11		
12			12		
13			13		
14			14		
15			15		

2026 年度講義シラバス (1 7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	統合失調症治療学		必修/選択	選択	
担当教員	中川 敦夫	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位 (通年第 3 土曜日)	履修年次	2 年		
テーマと目的	薬物療法、精神療法など統合失調症の治療全般について				
講義計画	統合失調症の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1. 統合失調症治療について理解し 説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	日本精神神経学会 精神科専門医テキスト(新興医学出版社)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	統合失調症の病態		1	第2世代抗精神病薬の臨床的使用方法 2	
2	統合失調症の生化学的解釈		2	抗精神病薬の臨床的使用方法 1	
3	抗精神病薬の作用機序		3	抗精神病薬の臨床的使用方法 2	
4	第2世代抗精神病薬の臨床的使用方法 1		4	口頭試問	
5			5		
6			6		
7			7		
8			8		
9			9		
10			10		
11			11		
12			12		
13			13		
14			14		
15			15		

【 48-9 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>藤谷 茂樹</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>医療は疾病や傷害に病むヒトを助け、問題を解決するという実務的行為であり、これを体系的に応用科学として樹立させようというのが医学である。その医療・医学の中でも、「救急医療は“医”の原点である」、に象徴されるように特徴をもった領域である。</p> <p>教育： 救急医学の柱は、1. ERにおいて総ての救急患者(いわゆる1-3次急患)、内因性疾病および外傷を代表とした外因性傷病者を受け入れ初療にあたる。 2. 救命センター内のICUを含む病棟における、重症患者に対する集中治療、の2つである。</p> <p>1. の理念から、総ての救急患者の初療にあたるべく、幅広い診察能力と診断能力を要求される。ここで特に強調されるのが、より重症かつ緊急性の高い病態の把握(トリアージ)とそれに対する確実な初療の実施と各専門治療科への転送である。よって広い診察・診断能力と深い医学知識とが要求され、これらを実践に即して講義で理解し、実習で習得する教育を行う。</p> <p>2. については、近年重症病態、特にショック、DIC、多臓器不全(MOF)に対する病態の理解が大きく進歩した。これに伴い治療方針もまた大きな転換点を迎えているのが現状である。また各種のモニタリング、治療補助手段の進歩も目覚ましいものがある。集中治療の特色は全身にわたる重篤な病態を、局所臓器や系にとらわれることなく総合的に把握し、治療優先順位と決定しこれを実施することである。当分野では上記について教育を行う。</p> <p>研究： 救急ERおよびプレホスピタルからの診断、治療の充実を図っている。侵襲学の研究、また重症病態、特に各種ショックの病態解析、ALI/ARDS、DIC、や多臓器不全における病態解析、治療について、臨床また実験系で研究を行っている。主な研究課題を下に記す。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症病態における組織酸素代謝/体液管理/血管壁透過性異常/栄養管理の研究、shockの基礎的研究 2. 高齢者救急と在宅救急 3. Rapid Response System(RRS)院内急変対応システムについての研究と普及 4. 重症感染症、多剤耐性菌、特にMRSAの研究 5. 一酸化炭素中毒(CO中毒)の新しい治療法としての光照射の研究 6. 脳蘇生:NIRS(脳血流の近赤外分光法)を用いた評価 7. 汗中乳酸測定システムを用いた組織酸素代謝評価の検討 8. 救急遠隔医療システムを応用した病院前からの院内及び多施設間までの急変対応医療機器システムの開発 9. アダプティブ RCT(Randomized Clinical Trial)を用いた重症市中肺炎の最適な治療法を迅速に見出す国際研究(REMAP-CAP)
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>重症病態、ショックの本態が末梢組織酸素代謝であることを理解して、臨床に適応することを目指す。</p> <p>Principles of Critical Care (MC Graw Hill) Evidence-Based Practice of Critical Care (Saunders) などを教科書として学習する。</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	救急医学総論 I		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	救急医療と救急医学について、その本質を理解する				
講義計画	重症度、緊急度の高い急性病態について理解する 急性病態に対する初期対応の意義を理解する				
達成目標	総ての救急患者の急性病態の重症度と緊急度を判断し、トリアージできる 軽症から重症まで急性病態に応じた初期対応の理解とそれを実施できる				
教科書・参考書	救急診療指針 (へるす出版)、標準救急医学 (医学書院) Emergency Medicine (Mc Graw Hill)				
準備学習(予習・復習・時間)	救急医学は、病態を目の前にして、緊急度 と 重症度 とを判断する必要がある。主な、頻繁に遭遇する救急病態における、夫々の緊急度と重症度を判断できるように学習する。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	緊急度		1	医療倫理 1	
2	バイタルサイン		2	医療倫理 2	
3	トリアージ		3	医療倫理 3	
4	重症度		4	集中治療総論 1	
5	リスク層別化		5	集中治療総論 2	
6	高エネルギー損傷		6	集中治療総論 3	
7	ABCDE アプローチ		7	呼吸 総論	
8	メディカルコントロール		8	呼吸 基礎 呼吸生理	
9	プレホスピタルケア		9	呼吸不全	
10	口頭指示		10	呼吸 気道確保	
11	JPTec		11	呼吸 酸素療法	
12	ウツタイン様式		12	呼吸 人工呼吸	
13	外傷データバンク		13	呼吸 急性期リハビリ	
14	救急救命士		14	呼吸 呼吸不全、ARDS	
15	ドクターヘリ		15	呼吸 処置、対応	

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	救急医学総論 II		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	救急医療という実務から生まれた応用科学(実学)である医学を理解する				
講義計画	<p>純粋科学と応用科学との相違を医学と通して理解する</p> <p>実務である医療に基づく問題解決のための科学的方法である医学を理解する</p>				
達成目標	<p>応用科学としての医学について説明できる</p> <p>応用科学としての医学的手法を実践できる</p>				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	科学としての医学、その中の救急医学と実学、実務としての 医療、その中の救急医療がある。医学と医療との差異も理解することが臨床を行うに際して重要であり、これを理解する。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	救急医療の標準化		1	Prehospital	
2	スタンダード・ガイドライン		2	トリアージ	
3	AIS コード		3	救外初療 1 (airway)	
4	TRAUMA スコア		4	救外初療 2 (循環)	
5	TRISS 法		5	救外初療 3 (呼吸)	
6	Clinical Prediction Rule		6	画像診断	
7	GCS		7	血ガス	
8	ACLS		8	酸塩基平衡	
9	JATEC		9	輸血	
10	PALS		10	血管作動薬	
11	DMAT		11	チーム医療 1 (リハビリ)	
12	Syndrome Surveillance		12	チーム医療 2 (栄養)	
13	Toxidrome		13	チーム医療 3 (呼吸リハ)	
14	TEA/IVR		14	救急における倫理	
15	リスクマネジメント		15	終末期医療	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	救急初期診療の診療指針 初期対応 I		必修/選択	必修
担当教員	北野 夕佳	担当教員連絡先	71-8140	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急初期診療の初期対応について学ぶ			
講義計画	全身観察とトリアージについて理解させる ACLS と JATEC(ATLS) について概説する			
達成目標	救急患者の初療における全身観察と的確なトリアージが実践できる 内因性救急病態に対する ACLS, 外傷に対する JATEC を確実に実践できる			
教科書・参考書	ACLS マニュアル (医学書院)、外傷初期診療ガイドライン (へるす出版)			
準備学習(予習・復習・時間)	救急医療の初期診療において、不可欠である 1 次救命処置(BLS)と2次救命処置としての、内因性疾患に対する ACLS、外傷に対する ATLS を習得する。上記教科書で、救急初期診療を理解し、実施できるようにする。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	BLS、一次、二次サーベイの理解	1	評価法の理解	
2	質の高い CPR が行える	2	致死的な外傷を理解する	
3	安全で有効な電気ショックが出来る	3	頸椎保護、全脊柱固定の重要性の理解	
4	VF /pulseless VT アルゴリズム理解	4	外科的気道確保・各種穿刺法の理解	
5	PEA / Asystole アルゴリズム理解	5	外科的気道確保の実践	
6	徐脈アルゴリズムの理解	6	胸腔・腹腔ドレーン挿入の実践	
7	頻脈のアルゴリズムの理解	7	心嚢穿刺の実践	
8	心拍再開後ケアの理解	8	超音波、XP,CT 画像の理解	
9	脳卒中の初期治療の理解	9	超音波、XP,CT 画像読影 (頭頸部)	
10	ACS の初期治療の理解	10	超音波、XP,CT 画像読影 (胸腹部・骨盤)	
11	アルゴリズムを統合して実践 (1)	11	超音波、XP,CT 画像読影 (四肢)	
12	アルゴリズムを統合して実践 (2)	12	IVR の適応を理解する	
13	気道挿管手技	13	全脊柱固定、骨盤動揺防止実践	
14	骨髄穿刺手技	14	止血帯(CAS ターニケットなど)実践	
15	死への対応	15	超音波(FAST、POCUS)実践	

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	救急初期診療の診療指針 診察		必修/選択	必修
担当教員	吉田 徹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急患者の初療における理学所見のとり方を学ぶ			
講義計画	身体所見のとり方とその意義について学ぶ			
達成目標	頭部から下肢まで全身の診察(視診、聴診、触診、打診)ができる 全身の診察により得られた所見の意義を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	身体所見をとることは救急領域だけでなく、医療の出発点である。これら一般に共通する身体所見の取り方と基礎として、救急領域における特殊性も理解する。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	種々の状況における救急初期診療における最新知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	胸部 (心臓)	1	局面に応じた身体所見-内因性疾患 1	
2	胸部 (肺)	2	局面に応じた身体所見-内因性疾患 2	
3	腹部 (触診)	3	局面に応じた身体所見-外傷	
4	直腸診	4	局面に応じた身体所見-重症外傷	
5	骨盤	5	局面に応じた身体所見- BLS	
6	上肢	6	局面に応じた身体所見- ACLS 1	
7	下肢	7	局面に応じた身体所見- ACLS 2	
8	神経 (脳神経)	8	局面に応じた身体所見- 病院前活動 1	
9	神経 (小脳)	9	局面に応じた身体所見 -病院前活動 2	
10	神経 (運動系)	10	局面に応じた身体所見-災害・トリアージ	
11	神経 (知覚系)	11	局面に応じた身体所見-中毒 1	
12	皮膚	12	局面に応じた身体所見-中毒 2	
13	高次脳機能	13	局面に応じた身体所見-環境障害 1	
14	リンパ節	14	局面に応じた身体所見-環境障害 2	
15	耳、鼻、眼	15	局面に応じた身体所見-特殊疾患	

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	救急初期診療の診療指針 検査		必修/選択	必修
担当教員	北野 夕佳	担当教員連絡先	71-8140	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急初療における必要な検査とその意義について学ぶ			
講義計画	救急患者の各種病態に応じた最低限必要される検査について講義する 実施された検査結果の意義について			
達成目標	さまざまな主訴で来院する救急患者について、必要な検査を指示、実施できる 実施した検査結果について判断し、病態理解の一助とし得る			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	救急初期診療における検査について、理解し実施することが目的である。救急では緊急性と重症度の観点から、検査は必要最低限、かつ必須検査を落としてはならない。これを理解する。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	血液検査の理解 (血算、血沈)	1	心エコーの実践	
2	血液検査の理解 (生化学)	2	腹部エコーの実践	
3	血液検査の理解 (凝固線溶系)	3	体表面エコーの実践	
4	血液検査の理解 (内分泌など)	4	髄液検査の実践	
5	血液検査の理解 (血液ガス)	5	胸腔・腹腔穿刺の実践	
6	細菌検査の理解	6	CT の読影 (頭頸部)	
7	グラム染色実習	7	CT の読影 (腹部・骨盤)	
8	心電図検査の理解	8	CT の読影 (四肢)	
9	心電図読影 (虚血性心疾患)	9	MR の読影 (頭頸部)	
10	心電図読影 (不整脈)	10	MR の読影 (腹部・骨盤)	
11	エコー図法の理解	11	MR の読影 (脊椎・四肢)	
12	CT 検査の理解	12	臨床推論 (講義)	
13	MR 検査の理解	13	シナリオ実習 (1)	
14	シンチグラム検査の理解	14	シナリオ実習 (2)	
15	髄液・胸腹水検査の理解	15	シナリオ実習 (3)	

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	救急初療 症候学 I		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	救急領域でよく遭遇する症候について学ぶ				
講義計画	下記に示した各症候について講義する				
達成目標	各症候の認識の仕方、その診断学的意義を理解する 各症候に応じた診断学的プロセスと判断、そして治療が実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	救急外来 ER でよく遭遇する症候に対して、鑑別診断をあげ、診断にいたる身体所見や必要な検査について学ぶ。 救急診療指針 (へるす出版)、内科診断学などを参考図書とすえる。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	ショック 1		1	胸痛・動悸 2	
2	ショック 2		2	要背部痛 1	
3	意識障害 1		3	要背部痛 2	
4	意識障害 2		4	喀血 1	
5	失神 1		5	喀血 2	
6	失神 2		6	吐下血 1	
7	めまい 1		7	吐下血 2	
8	めまい 2		8	腹痛・嘔吐下痢 1	
9	頭痛 1		9	腹痛・嘔吐下痢 2	
10	頭痛 2		10	黄疸・出血傾向 1	
11	痙攣 1		11	黄疸・出血傾向 2	
12	痙攣 1		12	運動麻痺 1	
13	呼吸困難 1		13	運動麻痺 2	
14	呼吸困難 2		14	精神症状 1	
15	胸痛・動悸 1		15	精神症状 2	

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	集中治療医学 総論		必修/選択	必修
担当教員	吉田 徹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年 (2 年でも可)	
テーマと目的	集中治療学の意義と特徴について学ぶ			
講義計画	主要な臓器や系の急性機能不全を総合的・集中的に治療する医学体系を学ぶ 個々の臓器・系の機能不全について学ぶ			
達成目標	個々の臓器・系の機能不全を認識し、横断的・総合的な理解ができる 疾患別・臓器別にとらわれない横断的・総合的な病態の把握と治療ができる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	臓器不全、多臓器不全について学ぶ。 集中治療医学などを参照。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与 の方針との関連性	集中治療医学における基礎的・臨床的最新知見に基づいて、自身の研究を遂行し論 述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	各臓器機能と多臓器不全 (神経系)	1	集中治療 7 (消化器系 1)	
2	各臓器機能と多臓器不全 (呼吸器系)	2	集中治療 8 (消化器系 2)	
3	各臓器機能と多臓器不全 (循環系)	3	集中治療 9 (代謝系)	
4	各臓器機能と多臓器不全 (消化器系)	4	集中治療 10 (内分泌系)	
5	各臓器機能と多臓器不全 (代謝系)	5	集中治療 11 (血液系)	
6	各臓器機能と多臓器不全 (内分泌系)	6	集中治療 12 (免疫系)	
7	各臓器機能と多臓器不全 (血液系)	7	集中治療 13(腎泌尿器系)	
8	各臓器機能と多臓器不全 (免疫系)	8	多臓器不全の病態・治療 1 (ショック 1)	
9	各臓器機能と多臓器不全 (腎泌尿器系)	9	多臓器不全の病態・治療 2 (ショック 2)	
10	集中治療 1 (神経系)	10	多臓器不全の病態・治療 3 (ショック 3)	
11	集中治療 2 (呼吸器系 1)	11	多臓器不全の病態・治療 4 (ショック 4)	
12	集中治療 3 (呼吸器系 2)	12	多臓器不全の病態・治療 5 (敗血症)	
13	集中治療 4 (循環系 1)	13	多臓器不全に至る傷病 (内因性疾患)	
14	集中治療 5 (循環系 2)	14	多臓器不全に至る傷病 (外因性疾患)	
15	集中治療 6 (循環系 3)	15	DIC	

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	集中治療医学 モニタリング		必修/選択	必修
担当教員	森澤 健一郎	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	1 年 (2 年も可)	
テーマと目的	集中治療に必須のモニタリング			
講義計画	集中治療に必須の各種のモニタリングの適応と実際について学ぶ			
達成目標	集中治療に必須の各種のモニタリングを設定し、データを理解できる モニタリングから得たデータを総合的に判断し、治療に適応できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	強い侵襲に暴露され、強い生体侵襲下にある重症患者の生体モニターについて基礎、臨床応用を学び、治療に結びつける。集中治療医学 Principle of Critical Care 1 時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	中枢神経系 非侵襲的モニタリング	1	中枢神経系疾患 (CNS) 総論	
2	中枢神経系 侵襲的モニタリング	2	意識障害	
3	呼吸器系 パルスオキシメーター	3	CNS モニタリング	
4	呼吸器系 カプノグラフィ	4	CNS 脳血管障害 1	
5	呼吸器系 呼吸仕事量	5	CNS 脳血管障害 2	
6	呼吸器系 連続ABG測定	6	CNS 脳血管障害 3	
7	循環系 ECG	7	CNS 脳血管障害 4	
8	循環系 観血的動脈圧モニター	8	CNS 脳浮腫	
9	循環系 中心静脈圧	9	てんかん	
10	循環系 (Swan-Ganz Catheter) 1	10	せん妄	
11	循環系 (Swan-Ganz Catheter) 2	11	鎮静・鎮痛	
12	循環系 ScvO ₂ と SvO ₂	12	腎臓 総論	
13	経胸壁超音波	13	腎臓 基礎・生理	
14	経食道超音波	14	腎臓 AKI	
15	肺経由動脈熱希釈法(TPTD 法)	15	腎臓 CKD	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	夜間急患センターにおける研修（実習）		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	軽症、中等症患者の実態とその治療				
講義計画	軽症、中等症患者と重症患者のトリアージ 軽症、中等症疾患の概略と治療				
達成目標	軽度の主訴からも重症で、緊急度を要する疾患を選別できる 軽症、中等症疾患への治療が適切に行い得る				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	救急外来においては、これまで述べた重篤、重症の病態だけに対処するのではない。 より重症度、緊急度の軽い病態に対しても対応する。これらについて学ぶ。 1時間				
成績評価法	夜間急患センターでの実習成績を評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	トリアージナース		1		
2	暴力対応		2		
3	Disposition		3		
4	ハイリスク患者		4		
5	キラーディジーズ		5		
6	救急画像（単純 X 線）		6		
7	救急画像（頭部 CT）		7		
8	救急画像（us）		8		
9	緊急検査（血算）		9		
10	緊急検査（生化学）		10		
11	SIRS		11		
12	コミュニケーションスキル（1）		12		
13	コミュニケーションスキル（2）		13		
14	観察ユニット		14		
15	帰宅説明書		15		

2026 年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	救急初療 症候学 II		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	救急領域でよく遭遇する症候について学ぶ				
講義計画	下記に示した各症候について講義する				
達成目標	各症候の認識の仕方、その診断学的意義を理解する 各症候に応じた診断学的プロセスと判断、そして治療が実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	救急外来 ER で良く遭遇する (common) な症候に対する、診断プロセスと対応について学ぶ。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	ショック 1		1	黄疸 2	
2	ショック 2		2	乏尿・尿閉 1	
3	不整脈 1		3	乏尿・尿閉 2	
4	不整脈 2		4	頻尿・血尿 1	
5	悪心、嘔吐 1		5	頻尿・血尿 2	
6	悪心、嘔吐 2		6	脱水 1	
7	吃逆 1		7	脱水 2	
8	吃逆 2		8	浮腫 1	
9	腹痛 1		9	浮腫 2	
10	腹痛 2		10	発疹 1	
11	吐血 1		11	発疹 2	
12	吐血 2		12	出血傾向 1	
13	下痢・便秘 1		13	腰痛	
14	下痢・便秘 2		14	関節痛	
15	黄疸 1		15	鼻出血	

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	救急初期診療の診療指針 初期対応Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	救急初期診療の初期対応について学ぶ				
講義計画	全身観察とトリアージについて理解させる ACLS と JATEC(ATLS) について概説する				
達成目標	救急患者の初療における全身観察と的確なトリアージが実践できる 内因性救急病態に対する ACLS, 外傷に対する JATEC を確実に実践できる				
教科書・参考書	ACLS マニュアル (医学書院)、外傷初期診療ガイドライン (へるす出版)				
準備学習(予習・復習・時間)	救急初期診療における実際を理論的根拠の基に実施する事を学ぶ。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	生理学的アプローチ		1	血液凝固系 総論	
2	PTD		2	血液凝固系 生理・病態	
3	三相性死亡		3	血液凝固系 DIC	
4	解剖学的アプローチ		4	血液凝固系 PE、DVT	
5	超致死的胸部損傷		5	代謝・内分泌 総論	
6	致死的胸部損傷		6	糖代謝異常 DM	
7	AMPLE/FIXES		7	DM 各論 1	
8	6H5T		8	DM 合併症	
9	Vf/Pulseless VT		9	甲状腺・副甲状腺 1	
10	PEA		10	甲状腺・副甲状腺 2	
11	Asystole		11	熱傷	
12	ハイムリック法		12	急性中毒	
13	緊急輸血		13	環境異常による障害	
14	TCP		14	体温異常	
15	Difficult Airway		15	特殊病態 小児、妊婦 など	

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	侵襲学		必修/選択	選択
担当教員	森澤 健一郎	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位 (前期1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	生体への侵襲について学ぶ			
講義計画	生体の内部環境を乱し障害を来たす侵襲について講義する 生体の内部・外部からの侵襲に対する反応が生体反応であり主として炎症反応である			
達成目標	侵襲について説明できる 生体反応について説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	生体の恒常性を乱そうと作用するのが侵襲(生体侵襲)である。生体は侵襲に対し生体反応をおこす。代表的な反応が炎症反応であり、その作用として humoral mediator (cytokine) が重要である。このメカニズムを理解する。 集中治療医学 (秀潤社)などを参考とする。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	侵襲とは 1	1	循環 総論	
2	侵襲とは 2	2	循環 急性心不全	
3	侵襲の評価 (外傷、ショック、熱傷)	3	循環 慢性心不全	
4	侵襲の評価 (術後侵襲の評価法)	4	ACS	
5	侵襲に対する生体反応 (神経内分泌)	5	STEMI	
6	侵襲に対する生体反応 (サイトカイン)	6	NSTE-A	
7	侵襲に対する生体反応 (エネルギー代謝)	7	たこつぼ型心筋症	
8	侵襲と過剰生体反応に対する治療 1	8	感染性心内膜炎	
9	侵襲と過剰生体反応に対する治療 2	9	大血管疾患 1	
10	侵襲と SIRS	10	大血管疾患 2	
11	侵襲と臓器不全	11	不整脈 1	
12	SIRS, CARS	12	不整脈 2	
13	侵襲と多臓器不全	13	不整脈 3	
14	臓器不全の治療 1	14	循環器系疾患 薬物療法、DC	
15	臓器不全の治療 2	15	循環器 補助循環装置	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	集中治療医学 人工補助療法		必修/選択	選択
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	集中治療で必須の人工的補助療法を理解する			
講義計画	ICU 領域で頻繁に使用される人工補助療法の適応対象と適応判断を学ぶ			
達成目標	ICU の重症患者治療に実施される人工補助療法とその適応を理解する 人工補助療法を実施できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	現代の重症病態治療において、科学の発達により、生体の防御機構や生体維持のための機能を一時的に代行する医療機器が開発されている。これらの理論的基礎と臨床応用を学ぶ。救急診療指針。集中治療医学。1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	人工呼吸器 1 (初期設定)	1	血液浄化療法 3	
2	人工呼吸器 2 (低コンプライアンス)	2	血液浄化療法 4	
3	人工呼吸器 3 (気道抵抗上昇)	3	静脈栄養 1	
4	人工呼吸器 4 (経肺圧)	4	静脈栄養 2	
5	人工呼吸器 5 (weaning)	5	経腸栄養 1	
6	PCPS 1 (経皮的な心肺補助装置)	6	経腸栄養 2	
7	PCPS 2 (V-A ECMO)	7	一次的ペースメーカー	
8	ECLA 1 (体外式肺補助)	8	ペースメーカー管理 1	
9	ECLA 2 (V-V)	9	ペースメーカー管理 2	
10	LVAD 1 (補助人工心臓)	10	ICP 1	
11	LVAD 2 (補助人工心臓)	11	ICP 2	
12	IABP 1	12	EEG 1	
13	IABP 2	13	EEG 2	
14	血液浄化療法 1	14	腹腔内圧測定	
15	血液浄化療法 2	15	TPTD	

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	周術期管理		必修/選択	選択	
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931		
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	各外科系手術の周術期管理について				
講義計画	各外科系周術期の特徴を理解させる 周術期管理の実際を理解する				
達成目標	各外科系周術期患者の状態を把握する 周術期患者の状態把握に基づいた管理や治療を実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	生体にとって生存のための必要な手術治療も、一方では生体に対する大きな侵襲である。集中治療では手術後の生体維持のための管理も学ぶ。集中治療医学。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	脳外科周術期管理 1		1	肝胆膵周術期管理 3	
2	脳外科周術期管理 2		2	産婦人科周術期管理 1	
3	呼吸器外科周術期管理 1		3	産婦人科周術期管理 2	
4	呼吸器外科周術期管理 2		4	小児外科周術期管理	
5	心臓外科周術期管理 1		5	移植患者の周術期管理 1	
6	心臓外科周術期管理 2		6	移植患者の周術期管理 2	
7	心臓外科周術期管理 3		7	免疫抑制患者の周術期管理 1	
8	血管外科周術期管理 1		8	免疫抑制患者の周術期管理 2	
9	血管外科周術期管理 2		9	熱傷	
10	血管外科周術期管理 3		10	疼痛管理	
11	消化管周術期管理 1		11	輸血	
12	消化管周術期管理 2		12	リハビリ	
13	消化管周術期管理 3		13	栄養	
14	肝胆膵周術期管理 1		14	PICS	
15	肝胆膵周術期管理 2		15	感染	

2026 年度講義シラバス (15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	末梢組織酸素代謝 (血中・組織乳酸)		必修/選択	選択
担当教員	北野 夕佳	担当教員連絡先	71-8140	
単位数	2 単位 (前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	ショックの本態である組織酸素代謝異常について理解する			
講義計画	ショックの病態の理解 ショックの本態である末梢組織酸素代謝を理解する			
達成目標	生体にとり生命維持のための組織酸素代謝について説明できる ショックに代表される重症病態における組織酸素代謝異常の機序を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	ショックの本態である、末梢組織酸素代謝異常について学ぶ。あらゆる重症病態において酸素代謝異常は最終的な致死の状態をまねく。その理論と、それに対する治療とを学ぶ。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	ショック - 血液低下	1	腎臓 UTI 尿路感染症	
2	ショック - 末梢組織血液かん流不全	2	腎臓 HUS	
3	ショック-末梢組織酸素代謝異常	3	腎臓 腎機能低下時の薬剤投与	
4	Macrocirculation	4	肝臓 総論	
5	Microcirculation	5	肝臓 生理・病態	
6	ショックにおける Microcirculation の重要性	6	肝臓 急性肝不全、劇症肝炎	
7	Microcirculation と多臓器不全 (MOF)	7	肝臓 肝硬変	
8	組織酸素代謝に関わる因子 1	8	肝臓 肝移植	
9	組織酸素代謝に関わる因子 2	9	膵臓 総論	
10	組織酸素代謝異常の指標	10	膵臓 生理・病態	
11	乳酸、ピルビン酸	11	重症膵炎	
12	血液中乳酸値と組織中乳酸値	12	膵臓 膵移植	
13	Microdialysis 法	13	消化管一般 総論	
14	ショック状態における末梢組織酸素代謝異常	14	消化管 出血・穿孔・イレウス	
15	Septic shock における末梢組織酸素代謝異常	15	Abdominal Compartment Syndrome	

2026 年度講義シラバス (16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	救急・集中治療における生体防御と Critical Care の実際		必修/選択	選択
担当教員	森澤 健一郎	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位 (前期1、後期1)	履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	生体侵襲学について学び、その対処法を実践できるようにする。			
講義計画	座学と実習			
達成目標	生体侵襲の基礎を学び、その対処として臨床実践を可能とする。 心肺蘇生法として BLS、ACLS を理解し実践できる。			
教科書・参考書	救急診療指針 へるす出版 集中治療専門医テキスト 日本集中治療医学会			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と討論・討議			
卒業認定・学位授与 の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	侵襲学		1	外傷外科と ACS (acute care surgery) Acute care
2	生体反応(炎症反応)、生体反応のバランスの崩れ		2	Acute care surgery 総論
3	炎症反応の基本的病態, humoral mediator, cytokine		3	ACS : 外傷外科 Trauma surgery
4	心肺蘇生法 BLS, ACLS		4	ACS : 救急外科 Emergency surgery
5	外傷総論		5	ACS : 外科的集中治療 Surgical critical care
6	外傷初期治療, ATLS		6	damage control surgery
7	腹部外傷、胸部外傷、骨盤・四肢外傷、頭部外傷		7	damage control resuscitation
8	重症病態、ショック		8	non – operative management
9	ショック 各論, 治療 血液分布異常性ショック 循環血液量減少性ショック, 心原性ショック		9	ACS における消化管・栄養管理
10	重症病態における各種モニタリング		10	ACS における循環・呼吸管理
11	各種臓器機能補助装置 (PCPS , ECMO , CHDF, IABP など)		11	ACS における内分泌・神経系管理
12	特殊感染症		12	Trauma surgery と General surgery
13	ARDS 管理		13	神経系集中治療
14	遠隔 ICU		14	心臓血管外科的術後管理
15	遠隔救急		15	ドクターカー運用